

山形大学 男女共同参画報告書

令和2年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)活動報告
及び事業成果報告

令和2年度山形大学活動報告

work
life
balance
innovation

山形大学 男女共同参画報告書

令和2年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)活動報告
及び事業成果報告
令和2年度山形大学活動報告

work
life
balance
innovation

目次

ご挨拶 山形大学長	04
ご挨拶 山形大学理事・副学長／男女共同参画推進室長	05

I. 山形大学独自の取組

① 第2次男女共同参画基本計画に基づく行動計画と推進組織	
①-1 目的・基本方針・令和2年度具体的施策（行動計画）	06
①-2 男女共同参画推進委員会委員名簿と委員会議事	11
①-3 男女共同参画推進室員名簿と室ミーティング議事	14
①-4 男女共同参画推進室米沢分室員名簿と分室会議議事	15
①-5 「多様な性に関するガイドライン」の策定	16
①-6 男女共同参画推進室活動記録	26
② 活動報告	
②-1 意識改革	
（1）学長・学部長と教職員等とのワーク・ライフ・バランス懇談会、研修会	28
（2）男女共同参画フェスタ（米沢分室含む）	29
②-2 仕事と育児等との両立支援	
（1）小白川キャンパス保育所のびのび	30
（2）小白川キャンパス保育所つぼみ	31
（3）医学部保育所すくすく	32
（4）医学部病児保育室	33
（5）荘内銀行キッズワールドあゆみ	33
（6）託児サポーター制度（学童の一時預かり）	34
（7）研究継続支援員制度・学会参加時の保育支援制度	34
（8）相談制度	35
②-3 女性研究者の裾野拡大	
（1）女性研究者裾野拡大セミナー	36
（2）山形大学女性大学院生ネットワーク	38
（3）女子中高生理系進路選択支援事業	39
（4）令和2年度基盤教育・ジェンダー関連授業	41
②-4 アウトリーチ活動	43
②-5 広報活動等	45

II. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)の概要

① 事業の概要	46
② 実施体制	47
③ 取組内容	48
④ 令和2年度事業計画	50

III. ダイバーシティ事業の活動報告

① 連携体制の推進	
①-1 ダイバーシティ連携推進会議名簿・会議議事	52

② ネットワーク	
②-1 山形大学COI（フロンティア有機システムイノベーション拠点）	54
②-2 大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」	55
②-3 全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック（南東北会議）	56
③ 意識改革	
③-1 男女共同参画セミナー	58
③-2 3機関合同シンポジウム	58
④ 研究とライフイベントとの両立支援	
④-1 研究継続支援員制度	64
④-2 夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育利用料補助制度	65
④-3 ライフイベントによる研究中断からの復帰支援制度	66
④-4 相談制度	66
④-5 託児サポーター制度	67
⑤ 女性研究者の研究力向上	
⑤-1 サービスデザインプロジェクト	68
⑤-2 女性代表共同研究費支援制度	69
⑤-3 英語論文の書き方セミナー	71
⑤-4 外部資金獲得セミナー	72
⑤-5 自己啓発合宿	73
⑤-6 女性研究者研究成果発表会	75
⑥ 女性研究者の裾野拡大	
⑥-1 JOIN交流会	76
⑥-2 博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナー	76
⑥-3 連携機関留学プログラム	77
⑦ 広報活動等	78
⑧ 評価	
⑧-1 外部評価委員会名簿・委員会内容	79

IV. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)の6年間の事業成果

6年間の事業成果	85
----------	----

V. 資料編

① ダイバーシティ事業3機関の進捗状況	92
② 山形大学の男女別教員数と女性割合	104
③ 山形大学の女性活躍推進法に基づく行動計画	105
④ 山形大学の次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の策定について	106

ご挨拶



玉 手 英 利

山形大学 学長

今年度より学長に就任しましたので、よろしく申し上げます。

「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」。これが山形大学の3つの使命です。人口減少や国際競争の激化など、社会が直面する多くの課題のみならず、人類社会の諸問題を解決するため、豊かな人間性と問題解決能力を高める「教育」、革新的技術や新たな思想を生み出す「研究」を推進して、社会の持続的発展に貢献していきます。

令和2年は、新型コロナウイルスという新たな危機に直面した年でした。人類の歴史においてパンデミックは何度か起こりましたが、そのたびに、人々は新しい治療法や予防策を見つけ、危機を乗り越えてきました。今回も必ず克服することでしょう。しかし、そのためには、グローバル化された社会での感染拡大という、これまでの歴史では無かった「想定外」の問題を解決する新たな答えを見出さなければならぬと考えています。そのような中、本学は、地域のSDGsの取組を積極的に支援し、社会の持続的な発展に貢献していくことを宣言しました。SDGsの「ジェンダー平等」は分野横断的に重要な位置付けになっており、本学の使命を果たしていく上でも男女共同参画・ダイバーシティの推進は極めて重要だと考えています。

令和2年4月、第2次山形大学男女共同参画基本計画（計画期間は令和2年度から令和11年度までの10年間）が施行されました。山形大学は、平成22年に策定された山形大学男女共同参画基本計画により、男女共同参画推進委員会を中心に男女共同参画を推進し、ワーク・ライフ・バランスの実現を図ってきました。この間、文部科学省「女性研究者支援モデル育成事業」（平成21～23年度）や「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（連携型）」（平成27～令和2年度）の採択を経て、研究・就業環境の整備を行ってきました。第2次基本計画には、これまでの10年間の成果を踏まえ、我が国の男女共同参画に係る動向と国立大学協会における目標等に鑑み、基本方針及び具体的な施策が掲げられています。早速、「多様な性に関するガイドライン」策定などの新たな取組を計画的に進めております。

また、今年度は「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の最終年を迎えました。大日本印刷株式会社研究開発センターと山形県立米沢栄養大学を連携機関として、3機関の密接な連携体制の下で女性研究者が活躍できる環境を整備し、特に理工系の女性研究者の増加と上位職への登用を図ってきました。その様々な事業成果は、本学のダイバーシティ研究環境のグレードアップに繋がるとともに、南東北にまで波及することができたと自負しております。6年間にわたりご指導いただいた科学技術振興機構のプログラム主管 山村康子様はじめ、連携機関の皆様にご改めて感謝申し上げます。

新執行体制に変わりましたが、学長自ら先頭に立ち、第2次基本計画に基づき、本学の学生及び職員が性別、性的指向・性自認等にかかわらず、あらゆる活動において個性と能力を発揮できる大学を目指すとともに、他大学や地域社会とのネットワークを充実させ、男女共同参画及びダイバーシティを積極的に推進してまいります。関係各方面の皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

ご挨拶



小 島 浩 孝

山形大学理事・副学長
男女共同参画推進室長

山形大学男女共同参画推進室の事業に対してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。ここに、令和2年度山形大学男女共同参画報告書をお届けいたします。この報告書では、文部科学省科学技術人材育成費補助事業である「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の活動報告も合わせて行っております。

今年度、男女共同参画推進室長に就任いたしました。一年を振り返ると、新型コロナの影響で男女共同参画セミナーや男女共同参画フェスタを残念ながら中止しましたが、オンライン会議や在宅勤務が定着し、新しい活動様式を取り入れながら全般的に有意義な活動を行うことができたと考えております。

まず、今年4月に第2次山形大学男女共同参画基本計画を施行しました。第2次基本計画は令和2年度から10年間を計画期間とし、男女共同参画に加えダイバーシティを一層推進することを目的に、基本方針及び具体的施策が定められました。女性教員比率や女性管理職比率についてはこれまで以上に高い目標を設定し、「無意識のバイアス」や性的指向・性自認等への配慮なども明記されています。初年度にあたり、男女共同参画推進委員会を3回開催し、各キャンパスが年度計画を作成して取組を進めてまいりました。そして、ほぼすべての事業や支援制度を計画通りに行い、「無意識のバイアス」セルフチェックの導入や「多様な性に関するガイドライン」策定などの初年度の計画を実行することができました。

さて、山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター、山形県立米沢栄養大学の3機関は、平成27年度にダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）に採択され、連携して取組んでまいりました。事業前半の3年間で環境整備を終え、事業の目標を達成しているという中間評価を得ました。事業後半では、山形大学が誇る有機エレクトロニクスを技術基盤とする山形大学COIと連携を強化し、学内の幅広い分野の女性研究者が未来の生活創造に参画する取組に発展してきました。今年度は最終年度でしたので、6年間の事業成果報告のための3機関合同シンポジウムをCOIと共催して開催し、学内外の皆様と成果を共有するとともに、3名の外部評価委員より高い評価をいただいたところです。同シンポジウムのⅡ部では、昨年度に引き続き、COI若手・女性研究者交流会を開催しましたが、事業終了後も継続していくことになりました。

また、平成30年度より、県内15の高等教育機関が参加する「大学コンソーシアムやまがた」に「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」を設置し、全国ダイバーシティネットワーク組織の幹事大学として南東北のネットワーク構築に取り組んでまいりました。今年度は、南東北の6機関の学長等による「ダイバーシティ環境実現共同宣言」が実現し、県内7機関が全国ネットワークに参加するに至りました。これらは目標を超える成果であり、今後の展開が期待されます。

結びになりますが、第2次山形大学男女共同参画基本計画がスタートし、ダイバーシティ事業が終了することに伴い、教育・研究や就労と家庭生活との両立支援を充実させるため、令和3年度以降の支援制度の見直しを行いました。米沢分室は継続することになりましたが、男女共同参画推進室も節目を迎えていると思います。第2次基本計画では、推進体制について、「学長のリーダーシップの下、男女共同参画推進委員会が決定し、推進室と各キャンパスが連携協力し、一体となって事業を推進する」と記載されています。これからの新たなステージで前進していくために、全教職員のご理解とご協力を一層宜しくお願いいたします。

I. 山形大学独自の取組

① 第2次男女共同参画基本計画に基づく行動計画と推進組織

①-1 | 目的・基本方針・令和2年度具体的施策(行動計画)

●第2次男女共同参画基本計画の施行について

山形大学は、平成22年に策定された山形大学男女共同参画基本計画（実施期間は令和元年度まで）により、男女共同参画推進委員会を中心に男女共同参画を推進してきた。この間、文部科学省「女性研究者支援モデル育成事業」（平成21～23年度）や「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業」（平成27～令和2年度）の採択を経て、充実を図ってきた。平成30年度は、男女共同参画の現状を把握し、これまでの成果と課題を明らかにするために、「男女共同参画に係るアンケート調査」を実施した。そして、令和元年度に、男女共同参画推進委員会内にワーキンググループ（座長は河野銀子委員）を設置し、ワーキンググループ会議を3回開催して基本計画（案）を作成し、2回の男女共同参画委員会における検討を経て、山形大学男女共同参画基本計画（第2次）が策定され、令和2年4月1日に施行されることになった。

第2次基本計画は令和2年度から10年間を計画期間とし、男女共同参画に加えダイバーシティを一層推進することを目的に、基本方針及び具体的施策が定められた。第2次基本計画には、これまでの10年間の成果を踏まえ、我が国の男女共同参画に係る動向と国立大学協会における目標等に鑑み、基本方針及び具体的施策が掲げられている。女性教員比率や女性管理職比率についてはこれまで以上に高い目標を設定し、「無意識のバイアス」や性的指向・性自認等への配慮なども明記された。なお、第2次基本計画の策定に伴い男女共同参画推進に関する規定が改訂され、男女共同参画推進委員は各キャンパスから選出されることになった。

●目的

山形大学は、「男女共同参画社会基本法」（平成11年6月23日法律第78号）の理念に基づき、男女共同参画社会実現のために大学が担うべき役割と責任を自覚し、「山形大学男女共同参画推進宣言」（平成21年1月23日）を発表した。男女共同参画及びダイバーシティを一層推進し、本学の学生及び教職員が性別、性的指向・性自認等にかかわらず、あらゆる活動において個性と能力を発揮でき、かつ、学業・仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を実現することを目指し、具体的な施策の推進を図っていくため、ここに山形大学男女共同参画基本計画（第2次）（以下「基本計画」という）を定める。

●基本方針

目的の達成に向けて、本学の基本方針を次のとおり定める。

1. 教職員（教員及び職員）等の男女機会均等の実現・格差の是正
2. 教育・研究及び就労と家庭生活との両立のための環境作り
3. 男女共同参画及びダイバーシティに関する意見・要望等をくみ上げるシステムの整備
4. 男女共同参画及びダイバーシティへの意識改革の促進
5. 女性研究者（教員・後期博士課程学生・ポストドクター）の裾野拡大
6. 男女共同参画及びダイバーシティ推進のための教育・研究の充実
7. 男女共同参画及びダイバーシティに関する学内の調査・分析・統計等の情報提供
8. 男女共同参画及びダイバーシティに取り組む地域社会等との連携

●令和2年度具体的施策（行動計画）

【教職員等の男女機会均等の実現・格差の是正】

<全学>

- 1) 女性教員比率の向上
 - ・雇用機会均等法によると女性の割合が4割を下回っている場合、男女格差が存在していると判断される。本学においても女性教員比率を引き上げるとともに、格差の是正に努める。
 - ・令和11年度までに、大学全体の教授の女性比率は15%以上、准教授は23%以上、女性教員比率は20%以上の達成を目指す。
 - ・上記の目標を達成するため、必要な改善措置等を男女共同参画推進室を中心に各キャンパス等においても具体的に検討し、その達成状況を毎年点検する。
- 2) 大学経営における女性参画の拡大
 - ・令和11年度までに、役員、副学長、部局長、経営協議会委員、教育研究評議会評議員は、20%以上の達成を目指す。
 - ・女性教職員の人材育成のため積極的な方策を推進し、管理職比率の向上に向けた登用等を積極的に行う。
- 3) 男女格差是正のためのチェック機能の導入
 - ・教職員の採用や昇進、研修機会において、積極的な改善策がとられているか、また、業績評価において、性別による差別等がないか、無意識のバイアスに配慮し、積極的な改善策がとられているかを定期的に点検する。

<キャンパス>

小 白 川 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・研究環境の整備に努め、助成等の支援体制についても、積極的に周知していく。 ・女性教員の活躍状況や男女雇用機会均等法等の取組状況を、公募やHP等へ掲載する。 ・各種運営業務や管理的業務へ女性教員の登用を、男女比率も配慮しながら継続する。
飯 田 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・女性教員の比率20%以上を維持する。 ・24時間保育所及び病児保育室の円滑な運営を通して、女性が働き続けられる環境の整備を行う。 ・性別による優遇措置はとらないが、管理職として適切な人材を登用することにより、積極的に女性教員の活用を図っていく。
米 沢 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・学部長記者懇談会において、女性教員による研究発信コーナーを設け、各月の記者懇談会で研究成果の発表を行うことで、活躍ぶりを広く社会にPRする。
鶴 岡 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・研究分野を考慮しながら、女性教員比率を引き上げるための採用計画を実施する。
附 属 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県教育委員会と連携し、校長・教頭への女性教員の登用を積極的に推進する。 ・主幹教諭や教務主任、学年主任、主事等への女性教員の登用割合を維持又はそれ以上となるように努める。

【男女共同参画及びダイバーシティへの意識改革の推進】

<全学>

- ・個々の性別、性的指向・性自認にかかわらず、本学の学生及び教職員が自然にお互いを認め、受け入れることができる組織を目指す。
- ・教職員や学生を対象とするシンポジウムやセミナー、男女共同参画フェスタ等を定期的で開催する。
- ・女性研究者ネットワークを構築し、定期的な勉強会等を開催する。
- ・学長・学部長と女性研究者との懇談会を定期的で開催する。
- ・ホームページ、男女共同参画ニューズレター等による学内外への情報発信を強化する。

<キャンパス>

小 白 川 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスで主催の関連する研修会等への参加及び支援を行い、意識を高める。 ・男女共同参画に関するHPや広報誌などを活用し、正確な情報を提供するとともに育休取得など、積極的に支援を行う。 ・会議等へのリモート参加など、積極的な意識改革を推進する。
飯 田 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・医学部学生を対象にしたキャリアパスセミナーにおいて、男女共同参画に関する内容を更に充実させる。 ・山形県、山形県医師会、女性医師ネットワークと緊密な連携をとり、男女共に参加できる男女共同参画の企画を進める。 ・総合医学教育センター、高度医療人研修センターが中心となって女性医師・看護師が切れ目なく働き続けられるよう援助する。
米 沢 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画の視点に基づいた、ハラスメント防止研修会を実施する。
鶴 岡 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員においては、男女共同参画推進室の企画事業への参加を積極的に促す。
附 属 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・各校園長等が、校内研修会等において、オンライン教材(動画等)や資料等を用い教職員に対し講義等を行い、LGBT等に対する情報を周知することで、LGBT等に対する理解を深める。また、大学において制定されたLGBT等対応ガイドラインの周知に努める。

【男女共同参画及びダイバーシティ推進のための女性研究者の裾野拡大】

<全学>

- ・専門分野を活かした職業に就いている女性卒業生等を招いた講演会や交流会等を、各キャンパス等で定期的開催する。
- ・女子中高生向けのセミナー等を開催する。
- ・女性学生の研究活動の活性化のためにネットワーク活動を支援する。

<キャンパス>

小 白 川 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・女性教員の活躍を身近に感じてもらい研究職の魅力を伝え、職業選択の一つとして認識してもらえるよう、出張講義等への女性教員の参加の機会を積極的に支援する。 ・アカデミックキャンプなども活用し、女性研究者(卒業生を含む)の活動内容の広報に努める。
飯 田 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度までの事業をさらに充実させる。 ・24時間保育、病児保育など子育てと研究が両立する環境を生かし、多くの研究者等を受け入れる。 ・附属病院に勤務している職員の大学院進学の学費サポートを開始予定。
米 沢 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に教員採用予定の、「英語教育・異文化理解に関連した分野」及び「キャリア教育(留学生)分野」において、女性教員を優遇する公募を実施する。
鶴 岡 キャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス等のイベントを利用して、女子高生向けの情報を提供し、活動していく。
附 属 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・本学が採択された「女子中高生理系進路選択支援事業」を附属中学校において積極的に活用する。

【その他】

＜全学＞

- ・両立のための環境作り、意見・要望等をくみ上げるシステム、教育・研究の充実、男女別統計等の分析・情報提供、地域社会等との連携など

＜キャンパス＞

小 白 川 キャンパス	<ul style="list-style-type: none">・研究や教育、学部運營業務全般について、テレワーク等を実施し、問題点等を検討し、効率化を進める。・育児休業からの復帰のサポートなど、家庭との両立や各種研修時のサポートを行う。・懇談会や講演会などを企画し、意見・要望等、情報交換の機会を設ける。
飯 田 キャンパス	<ul style="list-style-type: none">・医学部管理運営委員会において検討し、関係する各事業を通じて推進していく。
米 沢 キャンパス	<ul style="list-style-type: none">・大学院改組に主眼をおいた進学説明会を実施し、女子学生の大学院進学率を向上させる。
鶴 岡 キャンパス	<ul style="list-style-type: none">・ワークライフバランスの課題の共有や育児休業や介護休業などの各種制度や取りやすい環境整備、ならびに、男女共同参画の取組に関する情報交換に努める。
附 属 学 校	なし

①-2 | 男女共同参画推進委員会委員名簿と委員会議事

令和2年4月1日現在

委員名	氏名	備考
第1号委員	小島浩孝	委員長
	飯塚博	副委員長
第2号委員	河野銀子	理事特別補佐
第3号委員	本多薫	小白川キャンパス
	齋藤貴史	飯田キャンパス
	野々村美宗	米沢キャンパス
	塩野義人	鶴岡キャンパス
第4号委員	藤岡久美子	令和2年4月1日～（再任）
	櫻田香	令和2年4月1日～（再任）
	宮 瑾	令和2年4月1日～
	網干貴子	平成31年4月1日～
第5号委員	伊藤雅彦	総務部長
第6号委員	高橋正敏	研究部長
第7号委員	富樫整	保健管理センター長

【参考】

第2次山形大学男女共同参画基本計画の施行に伴い、第3号委員・第4号委員が改正された。

- ① 第1号委員：学長が指名する理事
- ② 第2号委員：担当理事が指名する理事特別補佐
- ③ 第3号委員：各キャンパス長が当該キャンパス内の副学部長の中から推薦する者 各1人
- ④ 第4号委員：山形大学学術研究員規程第8条に基づく主担当教員として各キャンパス内に配置された女性教員の中から各キャンパス長が推薦する者 各1人
ただし、女性教員が困難な場合は、男性教員とすることができる。
- ⑤ 第5号委員：総務部長
- ⑥ 第6号委員：研究部長
- ⑦ 第7号委員：その他委員長が必要と認めた者

令和2年度第1回男女共同参画推進委員会議事（書面会議）

令和2年4月21日（火）

1 協議事項

- （1） 第2次山形大学男女共同参画基本計画について
 - ① 基本計画策定の経過、基本方針、具体的施策
 - ② 令和2年度の年度計画（全体計画）
 - ③ 全学の取組の重点
- （2） 各キャンパスの年度計画について
 - ① 「山形大学男女共同参画基本計画」に関する評価及び課題（各部局）
 - ② 令和2年度各キャンパスの年度計画の作成
- （3） 令和2年度事業計画（ダイバーシティ事業を含む）について
 - ① 年間計画
 - ② ダイバーシティ事業の規程・要領の継続・改廃
- （4） その他

2 報告事項

- （1） 山形大学男女共同参画推進に関する規程・米沢分室規程
- （2） 令和2年度室員・委員・スタッフ
- （3） 令和元年度事業報告について
 - ① ダイバーシティ研究環境イニシアティブ事業について
 - ② 山形大学独自の事業について
 - ③ 小白川キャンパス保育所について
- （4） 令和2年度「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス」講師について
- （5） 山形大学女性大学院生ネットワーク（山大JOIN）と次世代育成事業について
- （6） 教員公募要項に係る追記事項について（通知）

令和2年度第2回男女共同参画推進委員会議事（書面会議）

令和2年11月13日（金）

1 協議事項

1 男女共同参画推進室関係の時限到来に伴う規則の見直し（案）

- （1） 男女共同参画推進室関係の規程の一部改正について
 - ① 山形大学男女共同参画推進に関する規程の一部改正（案）
 - ② 山形大学男女共同参画推進室米沢分室規程の一部改正（案）
 - ③ 山形大学ダイバーシティ連携推進会議規程の廃止

- ④ ダイバーシティ事業に関する外部評価委員会規程の廃止
- (2) 要領の改正

2 多様な性に関するガイドライン（案）の作成について

令和2年度第3回男女共同参画推進委員会議事

令和3年1月26日（火）

I 協議事項

- 1 山形大学における多様な性に関するガイドライン（案）の策定について
- 2 その他

II 報告事項

- 1 支援制度の見直しについて
- 2 その他

①-3 | 男女共同参画推進室員名簿と室ミーティング議事

令和2年4月1日現在

室 員	氏 名	備 考
室 長	小 島 浩 孝	理事（総務担当）
副 室 長	飯 塚 博	理事（研究担当）
理 事 特 別 補 佐	河 野 銀 子	教授（地域教育文化学部担当）
主 担 当 教 員 (チーフ・コーディネーター)	井 上 榮 子	准教授 (男女共同参画推進室担当)
室 員	伊 藤 雅 彦	総務部長
室 員	菅 井 和 明	総務部労務課長
室 員	柏 倉 弘 喜	研究部研究支援課副課長
室 員	石 山 博 子	男女共同参画推進室事務室長

第1回男女共同参画推進室ミーティング議事

令和2年4月14日（火）15:00～15:45

法人本部役員会議室（3階）

1 協議事項

- （1） 第2次山形大学男女共同参画基本計画について
 - ① 基本計画策定の経過、基本方針、具体的施策
 - ② 令和2年度の年度計画（全体計画）
 - ③ 全学の取組の重点
- （2） 各キャンパスの年度計画について
 - ① 「山形大学男女共同参画基本計画」に関する評価及び課題（各部局）
 - ② 令和2年度各キャンパスの年度計画の作成
- （3） 令和2年度事業計画（ダイバーシティ事業を含む）について
 - ① 年間計画 ② 男女共同参画セミナー
 - ③ ダイバーシティ事業の規程・要領の継続・改廃

2 報告事項

- （1） 山形大学男女共同参画推進に関する規程・米沢分室規程
- （2） 令和2年度室員・委員・スタッフ
- （3） 令和元年度事業報告について
 - ① ダイバーシティ研究環境イニシアティブ事業について
 - ② 山形大学独自の事業について
 - ③ 小白川キャンパス保育所について
- （4） 令和2年度「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス」講師について
- （5） 山形大学女性大学院生ネットワーク（山大JOIN）と次世代育成事業について
- （6） 教員公募要項に係る追記事項について（通知）

①-4 | 男女共同参画推進室米沢分室員名簿と分室会議議事

令和2年4月1日現在

室 員	氏 名	備 考
分 室 長	小 島 浩 孝	理事(総務担当)
副 分 室 長	中 島 健 介	工学部長
主担当教員(チーフ・コーディネーター)	井 上 榮 子	准教授(男女共同参画推進室担当)
副 担 当 教 員	野々村 美 宗	工学部副学部長
副 担 当 教 員	宮 瑾	准教授(大学院理工学研究科)
副 担 当 教 員	皆 川 真 規	助教(大学院理工学研究科)
室 員	金 生 周 篤	米沢キャンパス事務部長
室 員	阿 部 賢 二	米沢キャンパス総務課長
室 員	前 田 美 香	男女共同参画推進室研究支援者
室 員	石 山 博 子	男女共同参画推進室事務室長

第9回男女共同参画推進室米沢分室会議議事

令和2年7月3日(金) 14:30~15:30

法人本部第二会議室(4階) TV会議

I 報告事項

1 令和2年度男女共同参画推進委員会

- (1) 令和2年度分室体制
- (2) 山形大学男女共同参画基本計画(第2次)
- (3) 全学の取組の重点
- (4) 各キャンパスの年度計画
- (5) 女子中高生理系進路選択支援事業
- (6) 教員公募要項に係る追記事項

2 令和元年度ダイバーシティ事業

3 山形大学COIとの連携

4 その他

II 協議事項

1 最終年度のダイバーシティ事業について

- (1) JST事業結果説明書及び事業計画書
- (2) 令和2年度年間計画
- (3) 目標の達成と継続性について

2 ダイバーシティ事業規程・要領の改廃(分室の在り方)

3 その他

①-5 「多様な性に関するガイドライン」の策定

1 経緯

令和2年4月に第2次山形大学男女共同参画基本計画が施行され、第1回男女共同参画推進委員会（書面審議）で、年度計画や具体的施策が承認された。その具体的施策の一つとして、「基本計画の具体的施策4」に性的指向・性自認等にかかわらずに活躍できる大学を目指すことが掲げられているため、「LGBT対応ガイドライン」策定のためのワーキンググループを設置し、ガイドラインを策定することが決定した。

まず、6月19日に、推進室長が、教職員6名（学内有識者や担当職員など）と学生3名にワーキンググループ委員を委嘱（座長は中澤未美子 准教授）した。そして、他大学の参考例や9月に実施した全教職員・学生アンケートなどを踏まえて、ワーキンググループ会議を5回開催してガイドライン（案）を作成し、第2回及び第3回男女共同参画推進委員会における検討を経て、ガイドラインの策定を行った。ガイドラインの名称については、「山形大学における多様な性に関するガイドライン」とすることが決定した。

なお、文部科学省が平成28年4月に「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応などの実施について（教職員向け）」を公表し、令和2年6月のパワハラ防止法（改正労働施策総合推進法）では性的指向・性自認等を理由とするハラスメント防止が義務付けられたこと等も考慮した。

2 策定の経過

令和2年

- 7月29日 第1回WG会議（書面会議）〈方針〉
- 8月26日 第2回WG会議（Zoom会議）〈原案作成〉
- 9月3日
～23日 全教職員・学生、Googleフォームによるアンケート
回答数369、「LGBTという言葉聞いたことがある」90.2%
「ガイドラインの作成はいいことだ」84.8%、その他自由記述など
- 10月2日 第3回WG会議（Zoom会議）〈原案作成〉
- 11月6日 第4回WG会議（書面会議）〈原案修正〉
- 11月25日 第2回男女共同参画推進委員会（書面会議）〈検討〉
- 12月15日 第5回WG会議（Zoom会議）〈原案修正〉

令和3年

- 1月18日 役員朝の会
- 1月26日 第3回男女共同参画推進委員会（TV会議）〈策定〉
- 2月10日 教育研究評議会
- 2月17日 役員会
- 3月15日 経営協議会

3 ガイドラインの内容

<はじめに>

I 「多様な性」を尊重する大学であるために

- (1) 基本的な用語 (2) カミングアウトとアウティング (3) ハラスメントの防止

II 本学の姿勢と現段階での具体的対応

- (1) 啓発・研修 (2) 氏名・性別情報 (3) 授業 (4) 健康診断 (5) 就職活動、教育実習・介護等体験・インターンシップ等 (6) 留学の対応 (7) 施設 (8) 相談窓口

III 学生、教職員、附属学校への対応

<おわりに> <巻末資料>

- ・誰でも使用することが可能なトイレ・学内の相談窓口一覧

山形大学における多様な性に関するガイドライン

<はじめに>

山形大学では、第2次山形大学男女共同参画基本計画（令和2年4月施行）において、男女共同参画及びダイバーシティを一層推進し、「個々の性別、性的指向・性自認等にかかわらず、本学の学生及び教職員が自然にお互いを認め、受け入れることができる組織を目指す」ことを掲げており、様々な取組を行っています。

このガイドラインは、「多様な性」について、本学の姿勢、現段階での具体的対応、これから対応する必要がある事柄などを示したものです。

このようなガイドラインがあってもなお、多様な性が尊重されていないと感じる場面や、深く悩んでしまうような出来事が起こってしまうかもしれません。その際は、ガイドライン中に示してある相談窓口まで、相談してください。教職員一丸となってサポートしていきます。

令和3年2月 山形大学長

I 「多様な性」を尊重する大学であるために

本ガイドラインにおける「多様な性」とは、性的指向や性自認等の様々なあり方を包摂するものです。以下で、「多様な性」についての基本的な用語などについて説明します。

(1) 基本的な用語

性的指向 (Sexual Orientation)：どのような性別に魅力を感じるかという方向性のこと（感じないという場合を含む）。

性自認 (Gender Identity)：自身の性別についての持続的な自己意識（アイデンティティ）のこと。

※これらの頭文字をとってSOGI（ソジ）と呼ぶことがあります。いわゆる性的マイノリティに限らず、あらゆる人が何らかのSOGIのあり方をしています。

性別表現（gender expression）：「女性らしさ」や「男性らしさ」等の自身の性別に関わる表現のこと。服装、髪型、仕草、言葉使い等に表れます。ある人の性別表現のあり方は、性的指向や性自認のあり方と一対一で対応している訳ではありません。例えば、男性としての性自認をもつ人の性別表現が男性的であるとは限りません。

レズビアン（Lesbian）：性自認が女性で、性的指向が女性に向く人。

ゲイ（Gay）：性自認が男性で、性的指向が男性に向く人。

バイセクシュアル（Bisexual）：異性にも同性にも性的に魅力を感じる可能性がある人。

トランスジェンダー（Transgender）：出生時に登録された性別とは異なる性を生きている（生きようとする）人。

※この4つの頭文字を並べて連帯を表現したのがLGBTという言葉です。性的マイノリティにはLGBT以外にも様々なあり方があります。最近はLGBTQ、LGBT+などの表現も使われることがあります。

アセクシュアル（Asexual）：他者に性的な魅力を感じるということがない人。恋愛感情の有無は人によって様々です。

パンセクシュアル（Pansexual）：あらゆる他者に対し、その性別等を顧慮することなく性的に魅力を感じる可能性がある人。

クィア（Queer）：規範的な性のあり方に対して、批判的であったり不服従であることを誇りをもって表す言葉。

クエスチョニング（Questioning）：性的指向や性自認を確定しないあり方。

異性愛（heterosexual）：性的指向が異性に向く人。

シスジェンダー（cisgender）：出生時に登録された性別に違和を感じることなく生きている人。（トランスジェンダーの対義語）

※「異性愛かつシスジェンダー」の人は、この言葉を日頃意識する必要すらないかもしれません。社会はそのような人を暗黙の前提としてきたからです。

なお、人の性のあり方は、必ずしも特定のカテゴリーに明確に分類できるものではありません。性のあり方はスペクトラムとして存在しているともいえます。

（2）カミングアウトとアウティング

自身の性的指向や性自認について、自らの意思に基づき他者に伝えることをカミングアウトといいます。これに対して、ある人の性的指向や性自認について本人の同意なく第三者に暴露することをアウティングといいます。

カミングアウトは、その人が必要性を感じた場合に、信頼できる相手に対して行うものです。必要な人が支障なくカミングアウトできる環境、そして不要なカミングアウトを迫られることのない環境を作っていくためには、学生及び教職員が「多様な性」について認識し、理解を深めていくことが大切です。

カミングアウトをするかどうか等について悩みがある場合は、相談窓口にご相談ください。カミングアウトを受けた場合は、自身に対する信頼感の現れと捉え、伝えてくれたことをしっかりと受容することが重要です。カミングアウトを受けてとまどうことがあった場合は、相談機関で気持ちを整理することもできます。

アウトィングは、たとえ善意からであったとしても、本人に大きな被害を及ぼすものです。絶対に許されない行為であることを銘記する必要があります。カミングアウトの内容が大学としての対応を必要とするものであったときは、誰とどの範囲で情報を共有するかについて本人の確認を得ながら、対応を進めていきます。

(3) ハラスメントの防止

アウトィングだけでなく、性的指向や性自認に関する偏見に基づく言動や侮蔑的言動は、ハラスメントに該当します。令和2年6月に施行されたパワハラ防止法(改正労働施策総合推進法)では、性的指向・性自認等を理由とする差別やアウトィングを含めて、ハラスメントの防止対策を講ずることが義務付けられています。「多様な性」の観点からも、ハラスメントのない就労・就学環境を維持していく必要があります。

II 本学の姿勢と現段階での具体的対応

以下では、多様な性に関して、本学の姿勢と現段階での具体的対応を項目ごとに記載します。

1 啓発・研修について

「多様な性」を尊重する大学をめざし、理解を促進し、ハラスメントを未然に防止するため、次のような啓発・研修を実施します。

- ・教職員対象のFD研修・SD研修、相談窓口の対応に関する相談員研修など
- ・学生対象の入学時・進級時のガイダンスなど
- ・男女共同参画フェスタにおけるポスター展示やリーフレット配布など

2 氏名・性別情報について

(1) 通称名の使用と性別の変更

本人の申し出により、自認する性に基づく通称名を使用することができます。

本学における学生の氏名は、学籍簿上の表記に基づいて取り扱い、学籍簿上の表記は戸籍上氏名を原則としています。戸籍上の性別変更に伴う場合は、学籍簿上の性別情報の変更が可能です。

(2) 性別情報

性別情報については、当事者の意図しない形で公表されることのないよう、慎重に取り扱います。特に学生に配付・掲示する名簿については、性別欄を除外して配付・掲示するよう、全学的に周知・徹底を図ります。教員の会議等においても、性別情報を含む個人情報については、慎重に取り扱うべき個人情報として管理します。

(3) 大学が発行する証明書等の性別記載

証明書自動発行機から学生が即時発行できる証明書等のうち、在学証明書、卒業・修了（見込）証明書、健康診断書、通学証明書には性別記載がありませんが、成績証明書などには性別記載があります。今後、各証明書等で性別の記載が不必要なものについては、記載しないことになっていきます。

(4) 大学に提出する諸書類における性別情報の記入

本学に提出する諸書類のうち、入学料免除徴収猶予申請書、授業料免除申請書などには性別記載がありませんが、入寮願書、派遣留学申込書などには性別記載があります。今後、提出書類に性別情報の記載が本当に必要かどうかを精査していきます。

3 授業について

性的指向・性自認等にかかわらず、すべての学生が学びやすい授業をめざして、次のような授業づくりに努めます。

- ・ 学生に対する呼称等（Ms.、Mr.、くん、さん等）については、性別に関わらず使用できる呼称（例えば、Yamadai-san、山大さん等）の使用を進めます。
- ・ 性別でのグループ分けの必要性について確認します。
- ・ 授業等で使用するワークシートやアンケートに性別欄を設ける際には、配布時にその目的を説明し、性別欄の記入を自由に選択できるようにします。

4 健康診断について

健康診断の受け方について希望がある場合は、個別の対応を行います。

5 就職活動、教育実習・介護等体験・インターンシップ等について

キャリアサポートセンター、学生相談室、総合対策室等、学内の関係部署が、必要に応じて連携し、就職活動やインターンシップなどに関する相談に対応します。

6 留学の対応について

国際交流室で、留学先の生活環境や学習支援体制など、受け入れ先の環境に不安がある場合には対応します。

7 施設について

男女のトイレとは別に、性別等にかかわらず、多目的に利用できる「だれでもトイレ」を設置し

ています。（巻末参照）

学内の更衣室は男女別ですが、個別の対応を工夫します。寮も男女別ですが、シャワー・トイレ付きのユニットバスが備えられている個室もありますので、事前に問い合わせてください。

8 相談窓口について

多様な性に関する学内の相談窓口は、各キャンパス・附属学校に設置しています。（巻末参照）

各窓口は、所属キャンパスに関係なく、相談することができます。相談に対応する専門職には秘密保持の義務があり、匿名で相談することや、自分自身に関すること以外の相談も可能です。保護者からの相談も受け付けています。学内の相談窓口の利用に抵抗がある場合は、学外の支援団体でも相談を受けることができます。

III 学生、教職員、附属学校への対応

以下では、多様な性と関係が深い事柄を、学生、教職員、附属学校に分けて記載します。取り組みが十分でないことについては、今後、整えていく予定です。

学生の皆さんへ

1 通称名の使用・性別情報について

本人の申し出により、自認する性に基づく通称名を使用することができます。通称名の使用に伴い、学生証、CampusSquare、授業の受講者名簿等が通称名で表示されることになります。

また、本学に提出する諸書類については、性別記載欄を未記入のまま提出することが可能な場合もあります。入学前でも差し支えありませんので、相談窓口に申し出てください。

2 授業について

授業の履修に困難を感じる場合は、担当教員や相談窓口にご相談してください。男女別に授業が行われることもある実技科目等については、担当教員が面談のうえ個別対応します。

3 健康診断

健康診断の受け方について希望があるときは、相談窓口にご連絡すれば個別対応が可能です。

4 クラブ活動、学外活動、就職活動について

学生の希望や相談を踏まえ、関係部署と連携して対応を工夫します。

5 学生サークルについて

以下のサークルが有志の大学教職員と繋がりを持って活動しています。

・カラフルCAFÉ

男女共同参画推進室HPを参照 <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/>

6 施設について

多目的に利用できる「だれでもトイレ」については、巻末資料のとおりです。

7 相談について

学生生活などに関する相談窓口は、巻末資料のとおりです。

教職員の皆さんへ

1 通称名の使用・性別情報について

多様な性に関連して、希望する通称名や性別を用いて働きたいという教職員の方は、相談窓口にご相談ください。性別情報を含む個人情報については、慎重に取り扱うべき個人情報として管理されます。

2 健康診断について

健康診断の受け方について希望があるときは、巻末資料を参照してください。

3 相談について

多様な性に関連して学内で対応してほしいことがあれば、巻末資料の総務部労務課、または相談窓口一覧表から相談しやすいところにお申し出ください。

各種法律や文部科学省共済組合の制度が関連することについては、本学の努力のみで対応することが困難な場合がありますが、誰もが働きやすいキャンパスを目指すために、教職員の希望を把握したいと考えています。

附属学校の皆さんへ

文部科学省は、平成28年4月に、「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応などの実施について（教職員向け）」を公表し、教職員の理解を促進する方針を示しました。また、平成29年に「いじめ防止等のための基本的な方針」が改正され、性的指向・性自認等を理由とするいじめの防止が求められています。

附属学校においては、「山形大学における多様な性に関するガイドライン」及び「山形市職員・学校教職員のためのLGBT対応サポートハンドブック」（平成31年3月山形市作成）に基づいて、多様

な性に関して次のとおり対応します。

1 差別解消について

- (1) 全ての児童生徒に対して、互いの個性を認め合い、命や人権を尊重する態度を養います。
- (2) 全ての職員が、性的指向や性自認に基づく差別・いじめを許さない姿勢をもちます。
- (3) 児童生徒や保護者が抱える困り感や悩み、ニーズを十分に受けとめます。
- (4) 教職員間で情報を共有することについて、児童生徒や保護者から理解を得ます。

2 具体的な対応について

(1) 施設利用・学校生活について

① トイレや更衣室

本人の意向を尊重しながら、教職員用トイレや学校内の多目的トイレを使用するなど、一元的な対応にならないように工夫します。多目的に利用できる「だれでもトイレ」については、巻末資料のとおりです。

② 健康診断や宿泊行事

本人や保護者の意向を踏まえた上で個別に実施するなどの工夫をし、宿泊行事については、部屋割りや入浴時間を配慮するなどの工夫をします。

③ 制服等について

制服や体育着、水着など、男女で異なる場合は、本人（及び本人の了解の上で保護者）の申し出によって、希望する衣服等の着用について検討します。

(2) 課外活動等について

① 部活動、使用物品について

部活動への参加は、本人や保護者のニーズを十分に把握して対応を検討します。また、使用物品が性別による違いがある場合には、本人及び保護者と相談の上、配慮を検討します。

② 校外の活動先での連携について

校外の活動先では、児童生徒への対応に不慣れな人が関わる可能性があるため、活動先の指導者などと共通理解に努めます。ただし、安全配慮などの必要から、当該個人を特定して先方に伝えざるを得ない場合は、事前に本人（及び本人了解の上で保護者）に了解を得ます。

(3) 事務・手続き等について

① 卒業証明書の発行について

指導要録の記載については、学齢簿の記載に基づき行います。卒業後に戸籍上の性別の変更を行った者から卒業証明書の発行を求められた場合には、戸籍を確認した上で当該者が不利益を被らないように配慮します。

② 通称名の使用について

通称名の使用を希望する場合は、本人（及び保護者）との話し合いのもと、学校での書

類全般に本名とは異なる通称名をあらかじめ定めて、その使用を認めることを検討します。

3 組織対応について

- (1) 配慮が必要な児童生徒について、教職員が共通理解し、学校全体で支援を行います。
- (2) 児童生徒や保護者が悩みや心配を相談しやすい環境を整備します。
- (3) 相談があった場合は、可能な範囲で希望に寄り添えるように対応を工夫します。

4 相談窓口

附属学校の本人・保護者などからの相談窓口は、巻末資料のとおりです。

<おわりに>

上記で示したことは、現時点での状況です。今回のガイドラインは、学生と教職員が、ガイドラインの意義や位置づけなどを様々に議論して作成したのですが、多様な性を尊重する高等教育機関の在り方とはどのようなものかについて、これからも学生・教職員と対話しながら改訂の努力を継続します。

令和3年2月 山形大学男女共同参画推進委員会

巻末資料 【誰でも使用することが可能なトイレ】

小白川キャンパス		米沢キャンパス	
本部事務棟（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	百周年記念会館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
理学部1号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様・子供連れ配慮）	工学部図書館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
理学部2,3号館（各1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	工学部2号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
理学部先端科学実験棟（4F）	多目的トイレ（車いす仕様）	工学部3号館東（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
インフォメーションセンター（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	工学部4号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様・おむつ換えシート有）
		工学部5号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
人文学部1,3号館（各1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	工学部7号館東（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
		工学部7号館西（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
小白川図書館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	工学部9号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
保健管理センター（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	工学部10号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
学生会館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	工学部11号館（2F）	多目的トイレ（車いす仕様）
瑞樹荘（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	GM成形加工研究センター（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
体育館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	インキュベーション施設棟（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
基盤教育1～3号館（各1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	地域共同研究センター棟（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
地域教育文化学部音楽校舎（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）		

飯田キャンパス		鶴岡キャンパス		
附属病院（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）4箇所	農学部1号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	
附属病院（2F）	多目的トイレ（車いす仕様）14箇所	農学部2号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	
附属病院（3F）	多目的トイレ（車いす仕様）2箇所	農学部3号館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）	
附属病院病棟（4～10F）	多目的トイレ（車いす仕様）各階2箇所	附属学校		
基礎校舎（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）		附属幼稚園遊戯室脇	多目的トイレ
学生実習講義棟（1～4F）	多目的トイレ（車いす仕様）各階1箇所		附属小学校管理棟（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
臨床研究棟（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）2箇所		附属小学校体育館	多目的トイレ（車いす仕様）
臨床研究棟（2～6F）	多目的トイレ（車いす仕様）各階1箇所		附属中学校昇降口（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
遺伝子実験センター（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）		附属特別支援学校北（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）
医学交流会館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）		附属特別支援学校北（2F）	多目的トイレ（車いす仕様）
医学部会館（1F）	多目的トイレ（車いす仕様）			
がん研究センター（2F）	多目的トイレ（車いす仕様）			

【多様な性に関する学内の相談窓口一覧】（電話は平日の9時～17時）

所在地	名称	連絡先
小白川キャンパス	男女共同参画推進室	023-628-4937 y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
	保健管理センター 小白川学生相談室	023-628-4154 nsroom@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
	総務部労務課	023-628-4022 sjihosaro@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
米沢キャンパス	工学部保健管理室 学生相談室	0238-26-3034 sodan@yz.yamagata-u.ac.jp
飯田キャンパス	医学部保健管理室	023-628-5981 ihoken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
鶴岡キャンパス	農学部保健室	0235-28-2817 nouhoken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

所在地	名称	連絡先
附属学校	附属幼稚園保健室	023-641-4446 cocoro.karada@fuyo.yamagata-u.ac.jp
	附属小学校保健室	023-641-4444 cocoro.karada@fusho.yamagata-u.ac.jp
	附属中学校保健室	023-641-4440 cocoro.karada@fuchu.yamagata-u.ac.jp
	附属特別支援学校保健室	023-631-0918 cocoro.karada@med.id.yamagata-u.ac.jp

①-6 | 男女共同参画推進室活動記録

- 4月1日 山形大学男女共同参画基本計画（第2次）施行、パンフレット・リーフレットの配布
- 4月14日 男女共同参画推進室ミーティングの開催
- 4月20日 男女共同参画推進室テレワーク開始（新型コロナウイルス感染症防止対策のため）男女共同参画セミナー及び男女共同参画フェスタ開催中止
- 4月22日 第1回男女共同参画推進委員会（書面会議）の開催（5月22日承認）
- 5月7日 令和2年度「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択決定
山形大学「ヤマガタ 夢☆未来 Girlsプロジェクト」
- 6月22日 第1回ダイバーシティ連携推進会議（Zoom）の開催
- 7月1日 山形市による認可外保育施設設置状況の立入調査
- 7月3日 全国ダイバーシティネットワーク組織第3回幹事会（Zoom）の開催
男女共同参画推進室米沢分室会議（第9回）の開催（TV会議）
- 7月17日 大学院生のためのキャリア・就職活動セミナー（フレックス大学院主催）開催（Zoom）
- 7月22日 米沢分室の移転（工学部管理棟1階へ）
- 7月29日 LGBT対応ガイドライン第1回WG会議（書面会議）の開催
- 7月30日 第3回地域連携プラットフォーム会議「小野川のまちづくりPart2」の開催
- 7月31日 国立大学協会「国立大学における男女共同参画の推進状況に関する調査（第17回）」の回答
山形大学男女共同参画推進室ニューズレター（第27号）の発行
- 8月2日 農学部女性研究者裾野拡大セミナー「農学部ってどんなところ？～現役理系学生の話聞いてみよう～」の開催
- 8月4日 令和2年度「大学コンソーシアムやまがた」定期総会の開催（遊学館）
- 8月7日 小白川キャンパス保育所運営委員会の開催
- 8月26日 LGBT対応ガイドライン第2回WG会議（Zoom）の開催
「大学コンソーシアムやまがた」第1回ダイバーシティ推進ネットワーク会議の開催（遊学館）
- 9月3日 山形大学「多様な性に関するガイドライン」（仮称）に関するアンケート（Web）実施（9月23日まで）
- 9月8日 古川英光氏（理工学研究科・教授）を講師に外部資金獲得セミナー（米沢栄養大学担当）を研究支援課と共同開催（Zoom）
- 10月2日 LGBT対応ガイドライン第3回WG会議（Zoom）の開催
- 10月4日 「女子中高生のためのサイエンス・カフェ～親子で女性の研究者と話してみよう！～」開催（遊学館）講師：河合寿子氏（理学部・助教）
- 10月9日 後藤薫氏（医学部医学研究科・教授）による「英語論文の書き方セミナー～英語論文で世界に問う～」の開催
- 10月19日 山形大学「ヤマガタ 夢☆未来 Girlsプロジェクト」長井市立長井北中学校出前講座
- 11月2日 LGBT対応ガイドライン第4回WG会議（書面会議）の開催

- 11月4日 小白川キャンパス主催「男女共同参画推進研修会」開催（Zoom）講師：浅野衣子氏
- 11月10日 3機関合同シンポジウム「ダイバーシティ事業の成果報告～有機ELを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画～」及び「SDGs×COI若手・女性研究者交流会～SDGsの観点からの研究交流～」の開催
- 11月13日 第2回男女共同参画推進委員会（書面会議）の開催（11月25日承認）
- 11月24日 山形大学キャンパスハラスメント防止委員会・男女共同参画推進室共催によるハラスメント防止セミナーの開催（米沢キャンパス未来ホール・オンライン）企画・コーディネーター：中澤未美子准教授
- 11月27日 「博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナー」をフレックス大学院と共催で開催（Zoom）
- 12月1日 理学部女性研究者裾野拡大セミナー「理学部で何ができるのか？～女子高校生のための山大理学部案内～（高校1年生向け）」「理学部の研究室を覗いてみよう！（高校2年生向け）」の開催
- 12月4日 鶴岡キャンパス「学長・学部長と教職員とのワークライフバランス懇談会 in 農学部」の開催
- 12月11日 男女共同参画推進室の移転（法人本部棟1階へ）
- 12月14日 全国ダイバーシティネットワーク認定証交付式（Zoom）の開催
- 12月15日 LGBT対応ガイドライン第5回WG会議（Zoom）の開催
- 12月23日 小白川キャンパスFD研修会「学長・学部長と教職員等とのワークライフバランス研修会」の開催（Zoom）講演者：村木厚子氏（元厚生労働省事務次官）
- 1月16日 大学共通学力テストにおける乳幼児の一時預かり実施（保育所「のびのび」開所）
- 1月17日 大学共通学力テストにおける乳幼児の一時預かり実施（保育所「のびのび」開所）
- 1月19日 男女共同参画推進室ホームページのリニューアル
- 1月26日 第3回男女共同参画推進委員会の開催（多様な性に関するガイドライン策定）
- 1月27日 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）令和2年度科学技術振興機構（JST）オンラインによる訪問調査
令和3年度以降の支援制度の見直し決定
各キャンパスに通知
- 2月4日 小白川キャンパス保育所「つぼみ」企業主導型保育事業指導・監査（立入調査）の実施（新型コロナウイルス感染症の拡大により延期）
- 2月19日 小白川キャンパス保育所「つぼみ」企業主導型保育事業指導・監査（オフサイト調査）の実施
- 3月12日 山形大学男女共同参画推進室ニュースレター（第28号）の発行
- 3月30日 令和2年度男女共同参画推進室報告書の発行

② 活動報告

②-1 | 意識改革

(1) 学長・学部長と教職員等とのワーク・ライフ・バランス懇談会、研修会

山形大学では、ワーク・ライフ・バランスについて、教職員等から意見を聴き、その実現に向けて様々な支援制度を検討し実施してきた。昨年度に引き続き、小白川キャンパスで研修会も開催された。令和2年度の懇談会の実施状況は、次のとおりである。

●ワーク・ライフ・バランス懇談会

学部名	テーマ	日時	対象者	参加数
鶴岡 キャンパス (農学部担当)	働きやすい職場環境を実現するためのワークライフバランス	12月4日(金) 13:15~14:15	教職員	19人
	ワークライフバランスの実現に向けて、教職員の誰もが働きやすく、研究者は研究しやすい環境づくりを行うことをめざし、日頃感じていること、要望等、率直な意見交換を行った。			
小白川 キャンパス (人文社会 学部担当)	ウィズコロナの時代のワークライフバランスを考える	12月23日(水) 14:40~16:10	教職員	118人
	元厚生労働省事務次官の村木厚子氏を講演者に迎え、Zoomによる講演会が開催された。ウィズコロナの時代におけるワークライフバランスの社会的意義とダイバーシティの積極的推進の方策などについて、講演いただいた後、学長・理事・参加者との意見交換が活発に行われた。			



図1 懇談会の様子(12月4日)

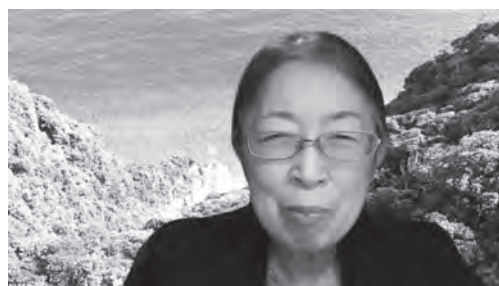


図2 懇談会の様子(12月23日)

●男女共同参画推進研修会

学部名	テーマ	日時	対象者	参加数
小白川 キャンパス (理学部担当)	「自分の“働く”を語ることの大切さ」 ～“自分も他者も大切に働く”～を目指して	11月4日(水) 13:00～14:00	教職員	37人
	(株)キャリア開発サポートズ・浅野衣子氏から話題提供の後、ペアワークが行われ、自分を大切にする一歩として自分が何を大切にしているか、行動の意図や目的を探求し、この目的につながる夢や希望を言葉にする演習が行われた。Zoom参加者は機械的にペアが選ばれ演習を実施した。			



図3・4 研修会の様子 (11月4日)

●ハラスメント防止セミナー

学部名	テーマ	日時	対象者	参加数
米沢キャンパス (企画・コーディネート：中澤未美子准教授)	ハラスメント防止セミナー	11月24日(火) 13:00～14:50	教職員	80人
	エッセイストでタレントの小島慶子氏とNPO法人参画プラネット代表理事の渋谷典子氏を講師に迎え、オンラインによりハラスメント防止委員会・男女共同参画推進室の共催により開催された。今後、ハラスメントの防止に何が必要なのかを皆で考える貴重な機会となった。			



図5 ポスター

(2) 男女共同参画フェスタ (米沢分室含む)

例年6月に開催される内閣府の「男女共同参画週間」に合わせて、男女共同参画フェスタを開催している。令和2年6月22日に開催を予定していた男女共同参画セミナーやポスター展示(小白川・米沢)は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止としたが、山形大学男女共同参画推進室HPに内閣府男女共同参画局の男女共同参画週間のポスター(右図)を掲示した。



図6 ポスター

②-2 | 仕事と育児等との両立支援

(1) 小白川キャンパス保育所のびのび

●概要

1	所在地	山形市小白川町一丁目3-10
2	利用対象者	山形大学の役職員及び学生並びに山形銀行の役職員（以下「職員等」という）が養育する生後57日から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象とする。また、入所定員に余裕があるときは、定員の2割の範囲内で、職員等以外の乳幼児も入所可能。一時保育は、職員等が養育する生後6ヵ月から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児が対象。
3	利用定員	30人（地域枠6名以内）
4	保育時間	基本保育：7時30分から18時30分まで 延長保育：18時30分から20時30分まで 一時保育：7時30分から20時30分までの間 大学入学共通テスト等の休日保育 7時30分から20時30分まで
5	休所日	(1) 土曜日及び日曜日(ただし、大学入学共通テスト及び個別学力検査等が実施される土曜日及び日曜日は除く。) (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日 (3) 12月29日から翌年1月3日まで
6	保育料 (1人あたり)	基本保育：0歳児 32,600円/月、1歳児 32,500円/月、 2歳児 40,500円/月、3歳以上 25,500円/月 【0歳～就学前】給食費・おやつ代 4,500円 延長保育：1時間300円 一時保育：3歳児未満 1時間400円 3歳児以上 1時間300円 【0歳～就学前】一日につき給食費 361円・おやつ代 75円(希望がある場合) 大学入学共通テスト及び学力検査等：1時間 300円
7	運営形態	山形大学と山形銀行が連携して運営する事業所内保育所で民間委託。
8	開所時期	平成26年4月1日

*無償化対象となるのは、保育の必要性のある子どもで、①3歳以上②3歳未満児で非課税世帯のこどものいずれかに該当する場合。一旦、保護者が保育料の全額を大学に支払い、その後市へ請求を行うことで支払った金額の全部又は一部が支給される「償還払い」方式により行う。

●利用状況

<入所者数> () は地域枠利用者の内数 *各3月1日時点

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
令和元年3月	13人(2人)	4人(1人)	17人(3人)
令和2年3月	11人(3人)	7人(2人)	18人(5人)
令和3年3月	10人(3人)	8人(3人)	18人(6人)

●教育研究への対応

保育所が大学の施設である関係から、保育所利用規程の目的に保育研究等に資する環境を整えることも含まれている。そのため、教育研究活動に関する取扱要領を制定し、日常保育の中の可能な範囲で教育研究に対応している。

(2) 小白川キャンパス保育所つぼみ

●概要

1	所在地	山形市小白川町一丁目3-10
2	利用対象者	山形大学の役職員及び学生並びに山形銀行の役職員(以下「職員等」という)が養育する生後57日から満1歳までの乳幼児を対象とする。また、入所定員に余裕があるときは、定員の4割の範囲内で、職員等以外の乳幼児も入所可能。一時保育は、職員等が養育する生後6ヵ月から満1歳までの乳幼児が対象。
3	利用定員	10人(地域枠4名以内)
4	保育時間	基本保育: 7時30分から18時30分まで 延長保育: 18時30分から20時30分まで 一時保育: 7時30分から20時30分までの間 大学入学共通テスト等の休日保育 7時30分から20時30分まで
5	休所日	(1) 土曜日及び日曜日(ただし、大学入学共通テスト及び個別学力検査等が実施される土曜日及び日曜日は除く。) (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日 (3) 12月29日から翌年1月3日まで
6	保育料 (1人あたり)	基本保育: 0歳児 37,100円/月、1歳児 37,000円/月 延長保育: 1時間 300円 一時保育: 1時間 400円 一日につき給食費 361円・おやつ代 75円(希望がある場合) 大学入学共通テスト及び学力検査等: 1時間 300円
7	運営形態	山形大学と山形銀行が連携して運営する企業主導型保育所。運営は民間委託。
8	開所時期	平成30年9月1日

*住民税非課税世帯で、保育の必要性のある子どもは無償化の対象になる。

●利用状況

<入所者数> ()は地域枠利用者の内数 *各3月1日時点

	0歳児	1歳児	計
令和元年3月	10人(1人)	0人(0人)	10人(1人)
令和2年3月	10人(4人)	0人(0人)	10人(4人)
令和3年3月	10人(1人)	0人(0人)	10人(1人)

(3) 医学部保育所すくすく

●概要

1	所在地	山形市飯田西二丁目2番
2	利用対象者	山形大学医学部、山形大学医学部附属病院及び大学院医学系研究科職員が養育する産後休暇明けから小学校就学の始期に達するまでの子どもを対象。ただし、入所定員に余裕がある場合、終夜保育を除き、山形大学の他学部等所属職員及び学生の子どもも対象とする。
3	利用定員	40人（0～1歳については、20人を上限とする。）
4	保育時間	基本保育：7時00分から18時30分 延長保育：6時00分7時00分及び18時30分から20時30分 終夜保育：18時30分から翌日の7時00分 一時保育：終日
5	休所日	12月29日から翌年の1月3日まで
6	保育料	基本保育：3歳未満 45,000円/月、3歳以上30,000円/月 延長保育：1時間につき 300円 終夜保育：1回につき 1,000円 一時保育：2時間につき 500円
7	運営形態	児童福祉法の認可外保育施設とし、運営は民間委託
8	開所時期	平成19年1月9日

●利用状況

<入所者数> *各3月1日時点

	0歳～1歳児	2歳児以上	計
令和元年3月	7人	32人	39人
令和2年3月	9人	22人	31人
令和3年3月	14人	17人	31人

(4) 医学部病児保育室

●概要

1	所在地	山形市飯田西二丁目2番（山形大学医学部管理棟1階 正面玄関北側）
2	利用対象者	本学に所属する職員の子ども（生後6か月から小学6年生までの子どもで、急性感染症や慢性疾患に伴い、当面、症状の急変は認められないが、病気の回復に至っていないことから集団保育が困難で、かつ、保護者の勤務等の都合により家庭で保育を行うことが困難な子ども）を対象とする。
3	利用定員	3人（生後6か月から小学6年生まで）
4	利用日時	平日の7時30分から18時00分
5	休室日	土曜、日曜、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）のほか施設長が指定した日
6	利用料	保育料1日500円、半日（5時間未満）300円 昼食代（年齢、月齢に合わせた離乳食か幼児食等、補食（おやつ）を含む） 無償
7	開所時期	平成29年1月4日

●利用状況

期 間	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児以上	計
平成30年度（4月～3月）	28人	110人	48人	127人	313人
令和元年度（4月～3月）	39人	68人	60人	100人	267人
令和2年度（4月～1月）	14人	30人	6人	30人	80人

(5) 荘内銀行キッズワールドあゆみ

●概要

1	所在地	鶴岡市本町1丁目3-43 荘内銀行内
2	利用対象者	山形大学農学部役職員及び学生が養育する生後57日から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象とする。
3	利用定員	2人（空き定員の範囲内）
4	利用日時	7時30分から19時30分（延長保育なし、土日は両親ともに仕事の場合は開所する。）
5	休室日	土曜、日曜、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）のほか施設長が指定した日
6	利用開始時期	平成30年4月1日

●利用状況

	0～1歳児	2歳児以上	計
令和2年3月	0人	0人	0人
令和3年3月	0人	0人	0人

(6) 託児サポーター制度（学童の一時預かり）

仕事と育児の両立を可能にする環境整備の1つとして、平成21年12月に開始した制度であり、託児サポーター（研修を修了した学生）が保育士の指導のもとで保育を行う。

平成26年4月からは小白川キャンパス保育所が開所し、生後6か月から就学前の子どもの一時預かりは保育所で行うことができるため、小白川キャンパスにおいては本制度の利用は学童に限られる。保育所が設置されていない米沢キャンパスにおいては、平成28年度からダイバーシティ研究環境イニシアティブ事業の一環として、幼児を含む一時預かりを実施している。

<過去3年度分の利用者状況> ※米沢キャンパス利用分を含む

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用教職員数	4人	1人	0人
託児子ども数	6人	1人	0人
年間延べ利用回数	4回	1回	0回
年間延べ利用時間	39.9時間	13時間	0時間
実働託児サポーター数	1人	0人	0人

(7) 研究継続支援員制度・学会参加時の保育支援制度

①研究継続支援員制度

出産、育児、介護等により十分な研究時間を確保することが困難な研究者（性別問わず）に「研究継続支援員」を配置し、継続して研究を行うことができるような環境を提供する。

<過去3年度分の利用者状況>

		利用者数	支援員数	支援時間数
平成30年度	前期	18人（2人）	16人	2,393時間
	後期	21人（4人）	23人	1,995時間
令和元年度	前期	21人（5人）	23人	2,024時間
	後期	19人（9人）	21人	1,740時間
令和2年度	前期	20人（8人）	20人	1,890時間
	後期	23人（9人）	21人	2,160時間

（ ）は男性利用者内数

②学会参加時の保育支援制度

平成24年4月より女性研究者の研究と育児の両立を支援するため、「学会出張時の保育支援制度」を実施した。教職員だけでなく博士後期課程学生も利用できることから、「学会参加時の保育支援制度」と名称を改めた。また、平成26年度から男性研究者についても支援対象としている。

（8）相談制度

ワーク・ライフ・バランスの改善に向けて、平成25年度より対象を女性研究者から全教職員、大学院生（博士前期課程を除く）及びポストドクターに拡充して相談員による巡回相談を実施してきた。

相談件数は少なくなってきていることから、平成30年度より男女共同参画推進室が相談窓口（LGBTも含む）になっている。

②-3 | 女性研究者の裾野拡大

(1) 女性研究者裾野拡大セミナー

【農学部】

農学部ってどんなところ？～現役理系学生の話聞いてみよう！～

日 時：令和2年8月2日（日）13：00～13：30

会 場：農学部

参加人数：高校生17名（男子6名・女子11名）

内 容：本学部の女子学生によるZoom講演

- (1) 農学部における学生生活と研究内容について
- (2) 本学部における女子卒業生の就職状況について
（自身の就職活動について体験談を交えながら）
- (3) 本学部の女子学生と女子高校生との質疑応答



図1 セミナーの様子

【効果】

- ・東北地方の高校生だけでなく、関東地方や中部地方等、遠方の高校生が複数参加していた。
- ・現役の大学生による講演であったためか、高校生も話しやすい雰囲気のように、質疑応答が活発であった。

【反省点】

- ・宣伝方法について

本セミナーはオープンキャンパスのコンテンツとして実施したため、バーチャルオープンキャンパス特設webサイトにおいて参加募集したが、バーチャルオープンキャンパス自体が初の試みであったため、HPでの公開・申込期間が10日程度と短く、集客人数が予想より伸びなかった。来年度以降、宣伝方法について改めて検討する。

- ・Zoomについて

Zoomの仕様上、受講者側の設定で、自分自身がカメラに映さないことが可能である。今回のセミナーでは、受講者全員がモニターに映っておらず、講演者側は見えない相手に話すことになるため、受講者の反応がわからず、講演者が苦慮した場面があった。

【理学部】

(高校1年生向)・理学部で何ができるのか？女子高校生のための山大理学部案内

(高校2年生向)・理学部の研究室を覗いてみよう！

日 時：令和2年12月1日（火）

会 場：理学部1号館12・13講義室等

参加人数：129人（男性0人・女性129人（1年生64人、2年生65人）

内 容：

理学部での研究・教育について、将来女性研究者となる可能性のある女子高校生に理解してもらうことを目指す。具体的な目的は以下のとおりである。

- ・理学部の研究・教育内容を具体的に紹介し、より明確な理解を得る。
- ・在籍する女子学生（あるいは卒業生）、女性研究者の生の声を聞き、対話する機会を設けることで、将来の女性研究者増につなげる。
- ・研究室を見学する機会を設け、将来の選択肢の1つとしてもらう。

（高校1年生向）

理学部各分野（数理科学、物理学、化学、生物学、地球環境科学）の女子学生より教育・研究の紹介を行った。発表後、質疑応答を通して理学部の女子学生・女性研究者の生の声を聞いてもらった。

高校生が抱く「理学部ではどのような教育・研究が行われているの?」「進路選択の時期や決め手は?」「研究分野について興味を持ったきっかけは?」といった一般的な疑問について分かりやすく説明。研究分野についての以外にも学生生活についての質問などが寄せられた。

（高校2年生向）

- ・数理科学分野：数理の問題をプログラミングで解決しよう
- ・物理学分野：物質中の不思議なミクロの世界
- ・化学分野：化学コースを知ろう
- ・生物学分野：からだの微細なかたちを観察する
- ・地球科学分野：本物の宝石と偽物との見分け方

という内容で、各研究室が工夫を凝らした実験・講義を行った。参加者は、興味を持った分野の研究室を訪問し、これらの実験・講義を体験した。

(2) 山形大学女性大学院生ネットワーク

次世代育成・裾野拡大事業として、女性研究者をめざす女性大学院生のネットワークを平成30年度に設立された。3年目となる今年度も新規メンバーの募集を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、残念ながらこれまで行われてきたメンバー間の交流の機会の多くが奪われることになってしまった。しかしその一方で、女子中高生理系進路選択支援事業でのメンバーの活躍は目覚ましいものがあり、参加した女子中高生への大きな刺激となったことが取り組み後のアンケートでも明らかであった。メンバーの女性大学院生にとっても、自らのキャリア形成を見つめる機会の一つになったと思われる。

【名 称】山形大学女性大学院生ネットワーク

(略称「山大JOIN」)

【対 象】山形大学女性大学院生

【登録人数】女性大学院生17名

(令和2年12月末現在)

【活動内容】

- ・女性研究者裾野拡大セミナー「農学部ってどんなところ?～現役理系学生の話聞いてみよう!～」への参加

8月2日、JOINメンバーを含む大学院生が、高校生と保護者(計17名参加)と交流した。

- ・女子中高生理系進路選択支援事業「サイエンス・カフェ」に、4名のメンバーが協力。

10月4日に山形市遊学館で開催されたサイエンス・カフェ(※詳細については、39ページ「女子中高生理系進路選択支援事業」を参照)に参加し、取り組みにおける科学実験の補助と参加者との交流を行った。

- ・女子中高生理系進路選択支援事業(※詳細については、39ページ「女子中高生理系進路選択支援事業」を参照)に協力し、各学校での科学実習の補助と参加者との交流を行った。

9月18日 東桜学館中学校における取り組みに、2名のメンバーが参加、協力した。

10月19日 長井北中学校における取り組みに、2名のメンバーが参加、協力した。

12月3日 米沢興譲館高校における取り組みに、3名のメンバーが参加、協力した。

これらの取り組み後のアンケートでの「参加して良かったと思うこと」の自由記述欄には

「大学院生の貴重な体験談を聞いたこと」(サイエンス・カフェ参加生徒)

「女性の研究者の方々とお話ができ、大変良かったです」(同、保護者)

など、この取り組みにメンバーが果たした役割の大きさを示す声が寄せられた。

山形大学女性大学院生ネットワーク
山 大 JOIN
ジョイン
登録募集のお知らせ

女性大学院生のみならず
仲間・・・そして夢へと「つなぐ」
山形大学女性大学院生ネットワーク(通称:山大JOIN)の
メンバーとして、一緒に活動しませんか?

募集人数:30名程度

対象:本学に在籍する女性大学院生(文系・理系問わず)

趣旨・目的
次世代のリーダーを担う女性人材の育成を目的として、女性大学院生ネットワークを構築し、参加者の相互交流を促るとともにキャリア形成を支援する。
大学院進学を目指す女子学生の育成を目的とした裾野拡大事業を推進し、小中高生を対象とした次世代育成活動を行う。

活動内容(予定)
・男女共同参画関連事業(意識醸成セミナー、シンポジウム、パネル展示等)への参加
・女性活躍促進企業への交換留学、企業訪問、キャリア就職セミナー、進学セミナー等の
キャリアアップを目的とする研修への参加
・裾野拡大事業(小中高生向け事業)、出前授業(進路学習・探究学習含む)への参加、
企画および実施
・女性大学院生交流会への参加
・情報共有活動(活動報告や記事の執筆、メルマガの配信など)

※小中高生を対象とした活動および各種行事の運営活動は勤務扱いになり、「山形大学アドミニストレイティブアシスタントに就任する機会」が期待されます。交流会や研修への参加、自らのスキルアップやキャリア形成を主な目的とする活動は、非勤務扱いとなります。詳細は相談ください。

登録方法
必要事項を記載のうえ、EmailまたはQRコードより
申込みください。
<必要事項>氏名、所属、学年、Eメールアドレス

山形大学男女共同参画推進室 チーフコーディネーター井上
TEL023-628-4937 Email:y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

図1 チラシ

(3) 女子中高生理系進路選択支援事業

令和2年度、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世代人材育成事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に、山形大学が申請した企画「ヤマガタ 夢 ☆ 未来 Girls プロジェクト」が採択された（期間：令和2年6月～令和3年度、補助金上限：毎年300万）。

日本では理工系を志望し進学する女子学生、さらにはその知識や技術を活かし活躍する女性研究者が少ないことが課題とされてきた。山形大学はこれまでも山大サイエンスカーによる理科実験等に取組んできたが、これまでの取組の成果を生かしながら、この事業において山形県内の関係機関と連携し、県内の女子中高生の理工系進路選択のさらなる支援を推し進めていく。実施機関連務担当として、男女共同参画推進室が参加している。

1 この企画における目的と取り組み

理工系進路選択に関心の薄い中学生・高校生を対象に、理工系の科目や仕事への関心を高めるため、山形県全域で以下の4点に取り組む。

- (1) 県内の中学校を訪問し、女性研究者・女性大学院生が実験を行う出前講座を提供し、理工系の女性が活躍している職場を紹介する。
- (2) 県内の高校を訪問し、女性大学院生が探究活動の指導や女性研究者が進路講話を行う出前講座を提供し、理工系の女性が研究している企業を紹介する。
- (3) 中高生と保護者を対象に、女性の研究者・大学院生との交流や実験に参加できるサイエンス・カフェを県男女共同参画センターと協力して開催する。
- (4) 県内全ての中学1年生（1万人）に本プロジェクトのロールモデルの啓蒙パンフレットを作成し、配布する。作成には女子大学院生が参加し、インタビューを行い、記事を制作する。女子大学院生の視点で中高生に魅力的な内容のものにする。積極的にSNSを使って発信する。

2 令和2年度の取り組み内容（令和2年12月現在）

	月 日	実施場所	取り組み内容と参加者
1	8月3日	山形県立東桜学館 高等学校	「課題探究指導」 高校2年生15名、教員5名 講師：栗山恭直（理学部 教授）、女性大学院生4名
2	9月14日	山形県立東桜学館 中学校	「出前授業」 中学2年生33名、教員5名 講師：河合寿子（理学部 助教）、女性大学院生2名
3	9月16日	山形県立酒田東 高等学校	「課題探究指導」 高校2年生15名、教員5名。 講師：栗山恭直（理学部 教授）、女性大学院生5名
4	10月4日	山形市 遊学館	「女子中高生のためのサイエンス・カフェ」科学実験、女性研究者との交流。女子生徒8名、保護者、一般（YouTube参加者含む）10名、講師：河合寿子（理学部 助教）、女性大学院生3名
5	10月19日	長井市立長井北 中学校	「出前授業」、女性研究者・大学院生との交流会、 中学2年生75名、教員4名 講師：宮瑾（理工学研究科 准教授）、女性大学院生2名

6	12月3日	山形県立米沢興譲館 高等学校	「出前授業」、及び「女性大学院生との交流」 高校1年生25名、講師：皆川真規（理工学研究科 助教）、 女性大学院生3名
7	12月14日	山形大学附属 中学校	「出前授業」、及び「座談会」 中学1年生33名、講師：常松佳恵（理学部 准教授）

3 受講した生徒の感想から

「身近なところに科学の力が使われているということを知ることが出来たので、とても楽しかった。」

「女性の先輩方が活躍されている姿を拝見して、自分の将来につながるヒントが得られる時間でした。」

「とても楽しく参加させていただき、ありがとうございました。」

「理系に進んだ場合のビジョンがはっきり見えてきた気がします。」

「初めて専門的な用語や授業を受けられて学べた。」

4 取り組み前後のアンケート調査

各取り組みの前後に、参加生徒、教員、保護者にアンケートを依頼し、理系進路へのきっかけや障壁などを多面的に解析する試みを行っている（事後アンケートに関しては、JSTアンケートを使用）。

5 ヤマガタ夢☆未来Girlsプロジェクトのホームページ

ホームページを開設し、アドレスは以下のとおり。

<https://yumemirai-girlsproject.aiyweb.com/>



図1 サイエンス・カフェ



図2 長井北中学校の交流会



図3 米沢興譲館高校の交流会



図4 事業ホームページ

(4) 令和2年度基盤教育・ジェンダー関連授業

令和2年度基盤共通教育「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス」(山形から考える)

1 テーマ

- (1) 自らのキャリア・ビジョンを描くため、多方面で活躍する方々の経験に基づいた講義を通じて、男女が共に仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を保てる働き方についての考えを深める。
- (2) 21世紀日本の最重要課題となっている「男女共同参画社会」とはどのような社会で、どのような課題をどのように解決するのか具体的に考える。

2 講師一覧(敬称略)

授業時間割 後期 水曜日7校時(14:40~16:10)

	月日	講師名	プロフィール等
1	10月21日	佐藤和佳子 学術研究院教授 (医学系研究科)	高齢者看護学を担当。特に、介護を要する高齢者の自立と自己決定支援をテーマに、フィールドワークや看護活動に取り組んできた。現在は、仕事と介護の両立など、家族の立場からも体験中。
2	11月4日	荒木 志伸 学術研究院准教授 (学士課程基盤教育機構)	専門は日本考古学。東北芸術工科大学、明治大学などを経て、2011年より現職。山形に来たことを契機に、山寺や出羽三山、松島瑞巖寺で調査研究を行う。2016年山形大学優秀教育者賞受賞。
3	11月11日	濱 定史 学術研究院助教 (理工学研究科)	専門は木造建築構法、改修再生設計。伝統的な木造建築について、研究および設計活動を行う。山形と東京の2拠点居住。妻と娘は東京で暮らす。
4	11月18日	網干 貴子 学術研究院准教授 (農学部)	専門は生物有機化学、化学生態学。植物と昆虫の相互作用に使われる化学物質の研究を行っている。大学卒業後、任期付き研究員を経て、大学教員に至る。
5	11月25日	小倉 泰憲 学術研究院教授 (理学部)	学生や産業現場で働く人を対象とし、キャリア教育とキャリアコンサルティングを実践。大学で音響工学を学び、企業でエンジニアとして働いた。その後、社会人大学院で心理学を学び、山形大学教授に転職。
6	12月2日	小野 卓也 曹洞宗洞松寺住職	米沢女子短期大学非常勤講師、人権擁護委員、山形県家庭教育アドバイザー、妻が研究職で茨城県に平日単身赴任して10年、土日・平日で分担して子育て中。
7	12月16日	富澤 直人 学術研究院教授 (人文社会科学部)	専門は英語統語論。言語学の中の生成文法という分野で、人間言語のコアを成す文法原理の解明に主に英語と日本語からアプローチしている。
8	12月23日	中西 正樹 学術研究院教授 (地域教育文化学部)	専門は情報科学。大学院博士後期課程を2年で中退 → 大学助手として就職 → 仕事をしながら学位を取得 → 2009年に山形大学に赴任。家族は妻と子ども一人。

3 受講した学生の感想

- ・介護は高校生の時から両親が祖父母の介護をしていたのである程度想像はできたが、詳しい実態を知ることができた。その中で介護はつらいだけのイメージだったが、介護の中でも新たな楽しみを見つけられることや、介護は周りの人たちのかわり方が大切であることがわかった。

- 今日の講義では失敗談やためになる話を沢山聞くことができ、とても勇気づけられた。特に、私はやりたい事はあるけれど、それが自分に向いているのか、またその仕事に就けるのかとても心配だった。しかし、先生の話から、まだ何も行動に移していないのだから、まずは大学生活の中で何でもやってみようと思った。「経験してないうちは失敗ですらない」という言葉を胸に果敢に挑戦していきたい。
- 夫婦どちらかではなく、それぞれのキャリアを歩むということは、男女共同参画社会を考えるうえで重要な考えだ。そして、その中で家族のつながりを保とうと努力することは簡単なことではないが、時間の使い方や家事の分担など、仕事と家庭のバランスを保つための夫婦の協力の必要性を学んだ。
- 先生が人とのコミュニケーションを大切にすべきだとおっしゃっていたのが、大変印象的だった。現在、このコロナ禍の状況下で、人と人とのつながりを強く感じられるようになった。先生の経験談から人とのコミュニケーションを大切にすることで、自身のキャリアだけでなく、人生の道しるべとなるヒントを得ることが出来ると感じた。
- 本日の講義は私にとって非常にためになる内容で、同時に私に勇気を与えてくれる内容でもあった。特に、先生の『後悔は自分で決めきれない時に残るもの』という言葉に大いに納得した。また、何かを決断する時は外的キャリアだけでなく、内的キャリアにも目を向ける必要があると理解する事が出来た。
- とても貴重な体験をお持ちの方の話聞くことが出来た気がした。先生は、僧侶さんだけではなく、主夫、博士、ボードゲームジャーナリスト、男女共同参画推進委員などを両立していてとてもすごいと思った。「過ぎ去った過去よりも今が大事」、「キリがない先々の心配をしない」という先生のモットーがとても印象に残ったので、自分の人生にも活かしたい。
- 今回の講義を聞き、幼い子供を持つ親にとって、子供の安全が確保されることによって安心できるということが分かり、そのために力を尽くすことの大切さを感じた。先生は安全な学童保育を、ボランティアで行っていて、強い責任感を持っていることが素晴らしいと思った。私もボランティアに興味を持っているが、なかなかあと一歩を踏み出せていないので、勇気を出してやってみたい。
- 先生の講義を聞いて印象に残ったことは、良いと思っていたことが後に悪いことになったり、悪いと思っていたことが後に良いことになったりと、人生は長い目で見たら辻褃が合うようになっているとおっしゃっていたことだ。自分は今まで無駄なことはすべきでない、人生は自分の求めるための最短ルートをいくべきだという考えだったが、回り道を進むことの大切さに気付いた。

4 授業パンフレットの発行

平成29年度より、「『キャリア形成とワークライフバランス（山形から考える）』探究ノート」を年度末に発行している。各講義の内容と学生の授業記録をまとめた内容で、学生、教職員、一般の方に配布し、男女共同参画社会やジェンダーについて考える契機になっている。

②-4 | アウトリーチ活動

機 関 等	連 携 内 容
大学コンソーシアム やまがた	①ダイバーシティ推進ネットワーク会議 ・第1回 日時：令和2年8月26日（水）（議長：井上榮子准教授） ・男女共同参画推進状況アンケート調査 8月～9月 ・第2回 日時：令和2年11月19日（木） 持ち回り会議（議長：井上榮子准教授） ②「シンポジウム」の共催 日時：令和2年11月10日（火）
山形大学COI	①JST拠点面談（米沢）で報告（井上榮子准教授） 日時：令和2年7月29日（水） ②山形大学COI共催（小野川温泉）（井上榮子准教授） 第2回地域連携プラットフォーム～小野川のまちづくりPart2～の開催 日時：令和2年7月30日（木） ③山形大学COI共催（工学部11号館未来ホール）（井上榮子准教授） 3機関合同シンポジウム「ダイバーシティ事業の成果報告」 SDGs×COI若手・女性研究者交流会 日時：令和2年11月10日（火） ④山形大学COI共催（小野川温泉）（井上榮子准教授） 睡眠実証研究の現地説明会 日時：令和2年12月22日（火） ⑤JST拠点面談に参加（井上榮子准教授） 日時：令和3年1月14日（木）（オンライン）
山形県男女共同参画センター チェリア	①チェリアフェスティバル実行委員会 日時：令和2年4月25日（土）（井上榮子准教授） ②企画運営委員会 日時：令和3年2月20日（土）（井上榮子准教授） *チェリアフェスティバル山形2020 中止
山形市企画調整部 男女共同参画センター	①ファーラ大学開校式で講演（井上榮子准教授） 日時：令和2年10月13日（火） ②山形市男女共同参画審議会（会長：井上榮子准教授） 日時：令和2年11月12日（木） ③山形市男女共同参画審議会（会長：井上榮子准教授） 日時：令和3年2月16日（火）（書面会議） *男女共同参画に関する作品募集 中止
天童市男女共同参画 推進計画策定委員会	①天童市男女共同参画推進計画策定委員会 研修会・講演（委員：井上榮子准教授） 日時：令和2年7月28日（火） ②天童市男女共同参画推進計画策定委員会（井上榮子准教授） 日時：令和2年8月24日（月） ③天童市男女共同参画推進計画策定委員会（井上榮子准教授） 日時：令和2年12月16日（水）（オンライン）
長井市 地域づくり推進課	①長井市男女共同参画推進審議会 （会長：井上榮子准教授） 日時：令和2年12月18日（金）（書面会議）

機 関 等	連 携 内 容
山形県 男女共同参画課	やまがた女性活躍応援連絡協議会 (委員：井上榮子准教授) 日時：令和3年2月末（書面会議）
全国ダイバーシティ ネットワーク組織	①全国ネットワーク組織・幹事会（小島浩孝理事、井上榮子准教授） 日時：令和2年7月3日（金）（オンライン） ②全国ネットワーク組織・臨時幹事会（井上榮子准教授） 日時：令和2年11月12日（木）（オンライン） ③認定証交付式・シンポジウム（井上榮子准教授） 日時：令和2年12月14日（月）（オンライン） ④全国ネットワーク組織・臨時幹事会（井上榮子准教授） 日時：令和3年3月1日（月）（オンライン）
全国ダイバーシティ ネットワーク組織 東北ブロック	①東北ブロック会議幹事会（小島浩孝理事、井上榮子准教授） 日時：令和2年10月28日（水）（オンライン） ②東北ブロック勉強会（小島浩孝理事、井上榮子准教授） 日時：令和2年11月7日（土）（オンライン） ③東北ブロック会議幹事会（小島浩孝理事、井上榮子准教授） 日時：令和3年1月15日（金）（オンライン）
女子中高生理系進路 選択支援事業	①サイエンス・カフェ（井上榮子准教授、前田美香研究支援者） 遊学館 日時：令和2年10月4日（日） ②中学校出前講座（井上榮子准教授） 長井市立長井北中学校 日時：令和2年10月19日（月） ③JST中間評価面談（井上榮子准教授） 日時：令和2年11月10日（火）（オンライン） ④高校出前講座（井上榮子准教授） 山形県立米沢興譲館高校 日時：令和2年12月3日（木） ⑤JST全体報告会（井上榮子准教授） 日時：令和3年2月6日（土）（オンライン）

②-5 | 広報活動等

【ニュースレター】

第27号 (2020年7月発行)

第28号 (2021年3月発行)

【ホームページ】

ホームページの更新を平均月1回行い、学内外の情報に関わらず、利用者に有益と思われる情報を提供し、さらにセミナー等への参加や制度利用の促進に努めた。第2次山形大学男女共同参画基本計画を掲載し、「無意識のバイアス」に関するセルフチェックのページを新設した。

また、第2次基本計画の施行に伴い、ホームページの構成、記載内容、リンクなどを見直し、令和3年1月19日にホームページのリニューアルを行った。

【パネル展での広報】

米沢市男女共同参画パネル展

米沢市からの要請を受けて、本学作成のLGBTの紹介パネルを米沢市の男女参画パネル展にて展示を行った。本学のLGBTの取組みを広く紹介する機会となった。

日 時：令和2年11月9日(月)～20日(金)

場 所：ナセBAオープンギャラリー

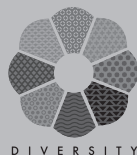
【新聞等による報道】

女子中高生理系進路選択支援事業について、次の記事が紹介された。

- ・令和2年6月28日 山形新聞
「理工系女子 増加に力 山形大のプログラム採択」
- ・令和2年8月13日 読売新聞
「理・工学部も女子いるよ 高校生に助言、偏見解く」



Ⅱ. ダイバーシティ研究環境実現 イニシアティブ(連携型)の概要



① 事業の概要

総括責任者	国立大学法人 山形大学 学長 玉手 英利
共同実施機関	大日本印刷株式会社 研究開発センター 山形県公立大学法人 山形県立米沢栄養大学
実施予定期間	平成27年度～令和2年度
目標・行動計画	<p>女性研究者の活躍促進に向けた組織としての目標・行動計画を次のように明記している。</p> <p>(1) 代表機関 国立大学法人 山形大学 女性研究者の活躍促進に向けて、第3期中期目標（平成28～令和3年度）の「組織運営の改善に関する目標」の中に「男女共同参画の推進に必要な就業環境を整備し、ワーク・ライフ・バランスに関する支援策等の充実を図る」を明記した。 また、第3期中期計画（平成28年～令和3年度）の中に、「ワーク・ライフ・バランスを向上させるための就業環境を一層充実し、多様な人材活用の推進を図る。女性教員比率を17%以上にする。」を明記した。</p> <p>(2) 共同実施機関 大日本印刷株式会社 研究開発センター 女性研究者の活躍推進として、女性研究者のキャリアプラン構築を支援することで「女性研究者が活躍し、多様な価値観が職場に反映され業績向上に貢献する」「新たな女性研究者リーダーを輩出する」ことを目標に掲げている。</p> <p>(3) 共同実施機関 山形県公立大学法人 山形県立米沢栄養大学 山形県立米沢栄養大学及び山形県立米沢女子短期大学を運営する山形県公立大学法人では、現中期計画（第2期 平成27年度～令和2年度）で、以下の目標に掲げた。「教育研究の質の向上及び大学業務運営の改善に向け、全学的、長期的視点に立った水準の高い専門性を有する多彩な人材確保に向けた人事採用のあり方を検討し、その仕組みづくりを行う。」 平成27年度の年度計画に「男女共同参画を推進し、特に自然科学分野中心の米沢栄養大学においては、女性研究者の研究力を十分に発揮できる研究環境の整備等、その育成、地位向上のための支援の充実を図る。」を明記した。</p>
取組の概要	<p>(1) 連携体制 「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」をテーマに、既に連携を進めている3機関が女性研究者支援体制を整え、より積極的に女性研究者の参画を促し、研究力を強化する取組を行う。各機関の学長、センター長のリーダーシップのもと、3機関によるダイバーシティ連携推進会議で緊密な連絡調整を図りながら実施する。</p> <p>(2) 活動内容 3機関がそれぞれの特徴や得意分野を活かして活動する。 ①山形大学米沢キャンパス（工学部）に男女共同参画推進室の米沢分室（ダイバーシティ連携推進会議事務局）を設置すると共に、ワーク・ライフ・バランス相談室や託児ルームを開設し、女性研究者の共同研究環境を整える。 ②共同研究に従事するライフイベント中の男女研究者の支援制度を構築する。 ③女性が代表となる共同研究の開発と研究費支援制度を構築する。女性の研究力向上を通して研究者及び上位職の増加を図る。</p>

2 | 実施体制

(1) ダイバーシティ連携推進会議の設置

共同実施機関3機関は、それぞれの機関内に本事業の推進組織を位置づけ、担当者を置く。担当者は、ダイバーシティ連携推進会議の議を経て連携事業に関する連絡・調整、企画、実施等を行う。

(2) 意思決定プロセス・マネジメント構造

ダイバーシティ連携推進会議の内容は、各機関の推進組織に伝えられ、必要に応じて審議機関での審議を経て決定する。各機関から提案される施策は、ダイバーシティ連携推進会議を経て各機関に諮り、決定する。

(3) 内部評価の実施と外部評価委員会の設置

ダイバーシティ連携推進会議は、内部評価を行いPDCAサイクルで運営すると同時に、外部評価委員会(委員3名)を設置し、外部評価を受けて連携事業の改善を図る。

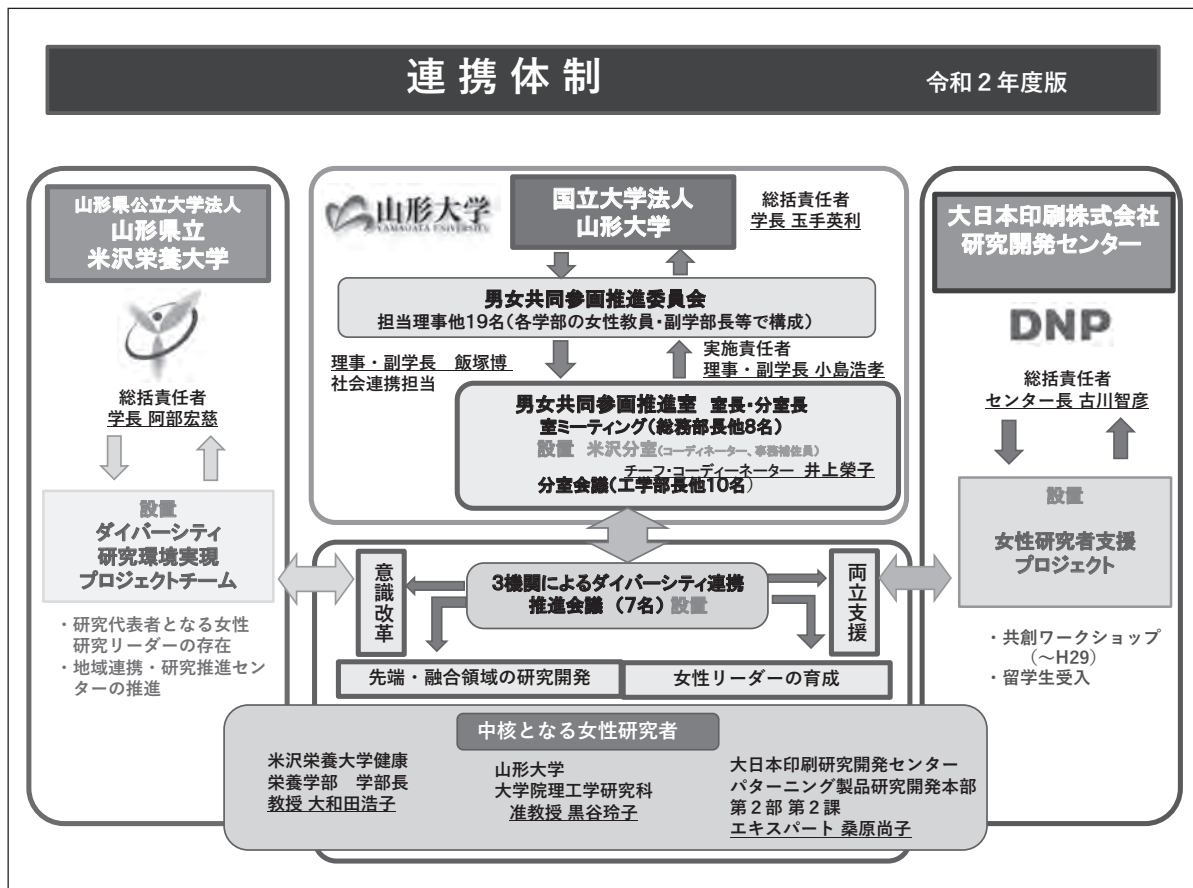
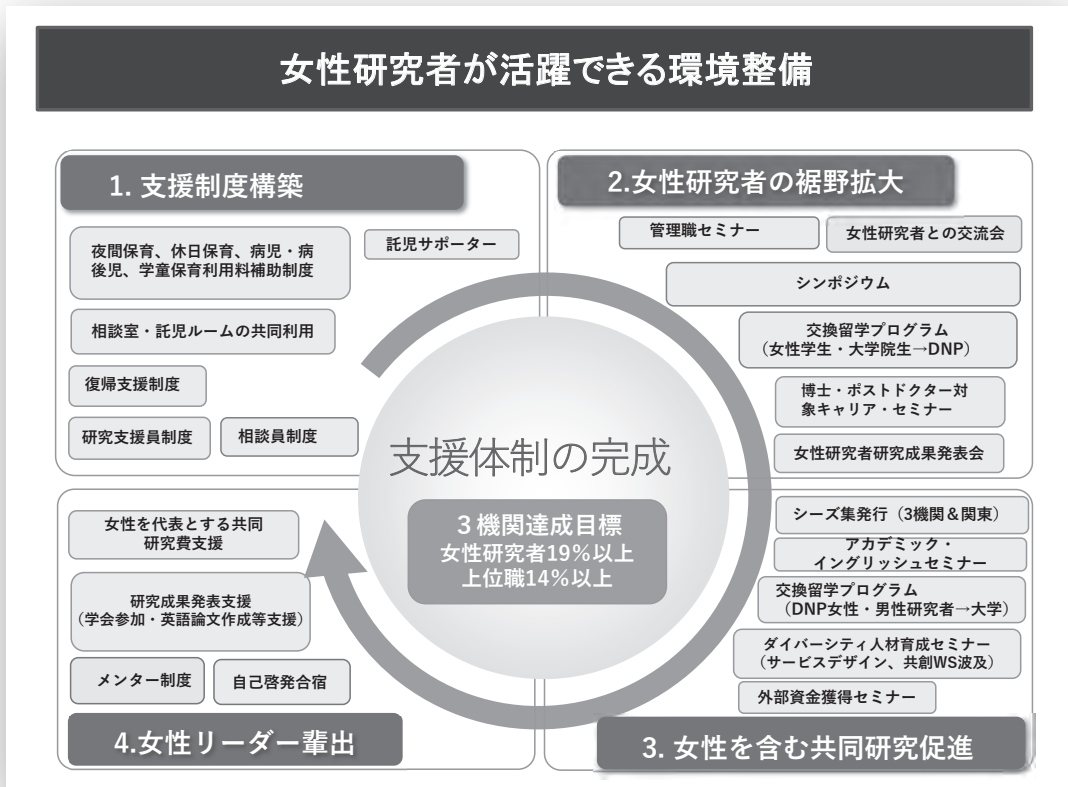


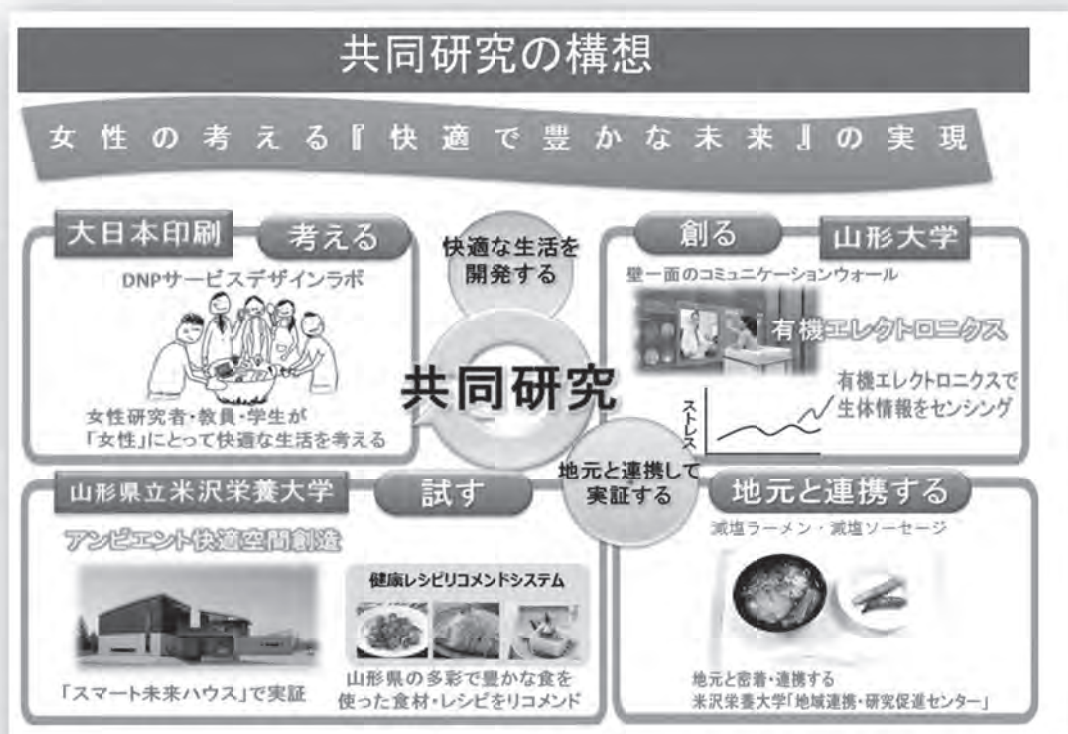
図1 連携体制図

3 | 取組内容

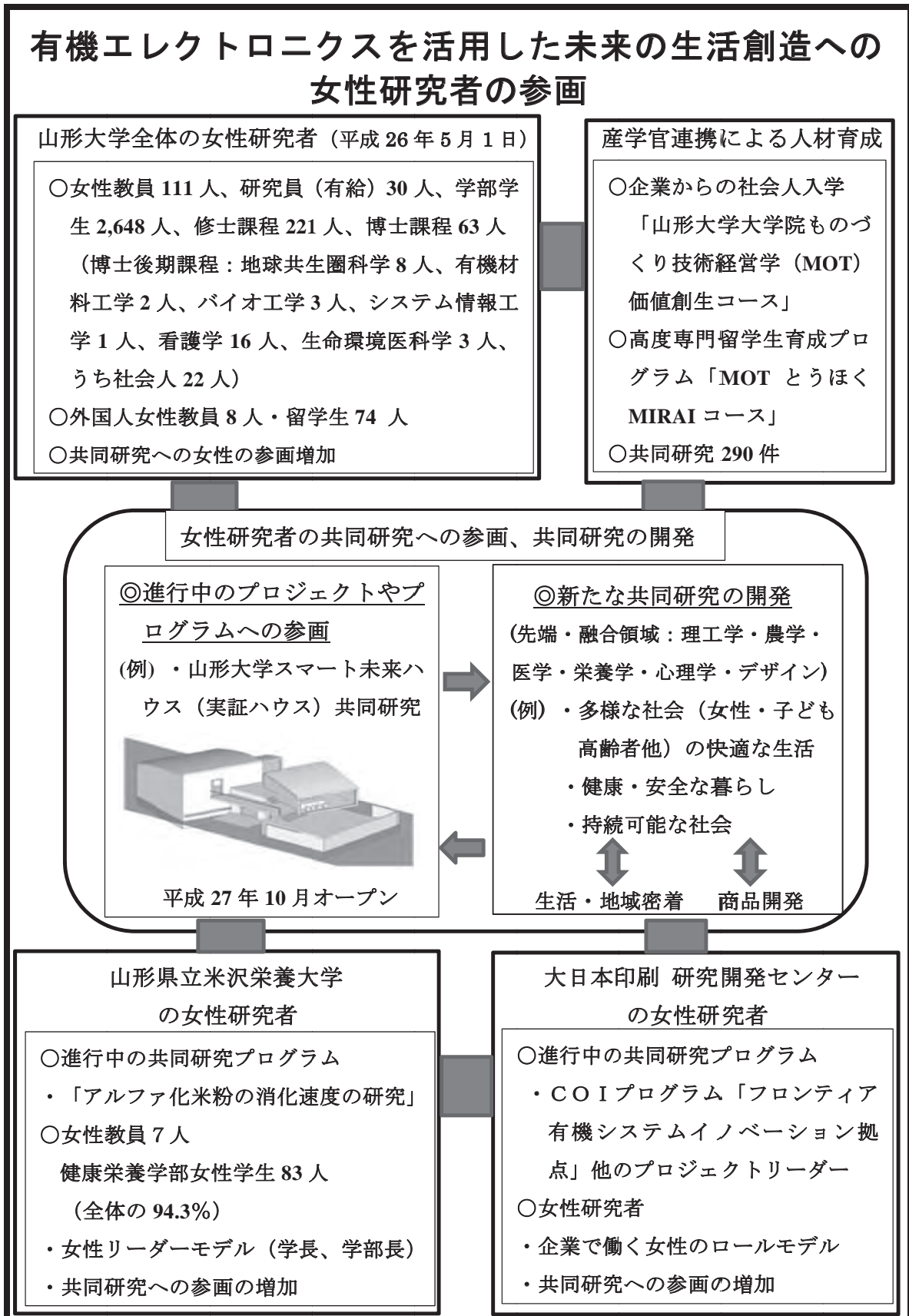
3-1 支援制度の構築



3-2 共同研究の構想



3-3 共同研究体制



4 | 令和2年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ

項目	4月	5月	6月	7月	8月
	事業計画の決定		事業計画の公表・周知		
1) 推進体制					
①ダイバーシティ連携推進会議	・ダイバーシティ連携推進会議開催(持ち回り)		・ダイバーシティ連携推進会議開催(第1回)		・連携推進会議の開催(持ち回り)
②男女共同参画推進室及び室ミーティング(総務部長他8名)	・推進室ミーティング				
③山形大学男女共同参画推進委員会		・第1回男女共同参画推進委員会			
④男女共同参画推進室米沢分室及び分室会議(工学部長他10名)			分室の整理	分室引っ越し	
⑤COI連携	女性・若手研究者の増加促進 / 多様な女性研究者の参画 →			・健康長寿米沢市民会議への協力(山大・栄養大)	・第3回地域連携プラットフォーム
⑥大学コンソーシアムやまがた「やまがたダイバーシティ推進ネットワーク」	遊学館チェリアとの連携	・「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」第1回幹事会	・総会		
⑦全国ネットワーク中核機関(群) 全国組織・東北ブロック会議		・5/27全国幹事会 ・シンポジウム(大阪)7月延期	・南東北会議 コンソーシアム山形会議		
2) 意識改革					
①セミナー			・管理職セミナー(小白川)中止		
②シンポジウム等の開催		・小白川キャンパス新任教職員ランチミーティング(山大)中止	・男女共同参画フェスタ(山大小白川キャンパス)中止	・男女共同参画フェスタ(米沢キャンパス)中止	
③外部評価委員会					
④情報発信	・第2次基本計画の広報 ・HPの改善				・NEWS LETTER No.27 発行
3) 研究と育児等を両立可能にする環境作り					
①研究とライフイベントとの両立を支援する研究支援員制度	研究支援員制度による支援(前期)		・令和2年度後期研究支援員の募集開始	研究支援員制度による支援(前期)	
②託児サポーター制度(米沢キャンパスと小白川キャンパス)					・託児サポーター制度の利用促進
③夜間、休日、病児・病後児保育支援制度					・保育支援
④相談員制度					・相談員制度の
4) 女性の研究力向上の取組					
①女性代表共同研究への研究費支援制度	・R2年度募集	・R2年度審査会開催	・R2年度採択者決定		・女性代表共同研究
②ライフイベントによる研究中断からの復帰支援制度	・R2年度募集	・R2年度審査会開催 ・R2年度採択者決定			・復帰支援制度の
③研究力向上セミナー、外部研究資金獲得セミナー(栄養大企画)					
④サービスデザインプロジェクト(山大企画)		・COI女性・若手研究者活動計画(サービスデザインの共同研究・社会実装の推進)		・社会実装会議(1回目)	
⑤自己啓発合宿(DNP企画)					・自己啓発合宿①
⑥連携機関留学プログラム(DNP企画)					・審査、留学生決定
⑦学会参加費補助制度					・随時募集
⑧共同研究支援冊子の活用	・3機関の研究所紹介リーフレット/山形大学スマート未来ハウス紹介リーフレット				
5) 女性研究者裾野拡大					
①女性大学院生ネットワーク		女性大学院生ネットワーク(山大JOIN)参加者拡大 →			
②企業研究職等キャリアセミナー				・女性研究者キャリアパス支援(DNP)通年	
③女子中高生・一般向けセミナー		・裾野拡大セミナー企画募集(山大)			
6) その他					
①アウトリーチ活動	・山形市男女共同参画審議会			・山形市男女共同参画に関する作品募集	
②情報収集・連携・広報活動	・国立女性教育会館(NWEC)図書パッケージ配置(小白川)		・国立女性教育会館(NWEC)図書パッケージ配置(小白川)		

研究環境実現イニシアティブ(連携型)(山形大学含む)事業計画

(令和2年4月現在)

9月	10月	11月	12月	2021年1月	2月	3月
各種支援制度の周知と利用促進					次年度計画準備	年度目標達成
・JST訪問調査(予定) ・ダイバーシティ規程改 廃の検討・事業継続の 検討	・連携推進会議の開催(持 ち回り)		・連携推進会議(第2回)		・連携推進会議の開催(持 ち回り)	
					・推進室ミーティング開 催予定	
					・米沢分室会議開催予定	
		・健康長寿米沢市民会議 への協力(山大・栄養大)				
	・「ダイバーシティ推進 ネットワーク会議」第 2回幹事会(持ち回り)					
			・全国幹事会(予定)			
	・英語論文セミナー					
		・シンポジウム開催(米沢) ・COI連携若手・女性研 究者交流会				
				・外部評価委員会開催 (メール持ち回り予定)		
						・NEWS LETTER No.28 発行 ・令和2年度報告書発行
研究支援員制度による支援(後期)					・令和3年度前期研究支 援員募集開始	・令和3年度前期研究支 援員の決定
(小白川・米沢キャンパス)				・大学入試センター試験 時における一時預かり (予定)	・託児サポーター制度の利用促進 (小白川・米沢キャンパス)	
制度の周知						
利用促進						
への研究費支援						
			・成果のまとめと報告			
周知と利用促進						
・外部研究資金獲得セミ ナー(栄養大)	・英語論文セミナー(山 大)					
・社会実装会議(2回目)	・サービスデザイン普及	・サービスデザインの社 会実装報告(COI共催 シンポジウム)				
						・自己啓発合宿②
・企業留学						
制度の周知と利用促進						
/3 機関の女性研究者シーズ集の配布、その他制度紹介リーフレットの活用						
					・交流会～女性研究者と 話そう(山大JOIN、栄 養大)	
		・博士キャリアセミナー (山大)				
		・研究成果発表会(女子 学生・女性研究者向け キャリアパス支援)(栄 養大)				
	・チェリアフェスティバル				・山形県女性活躍応援連 携協議会	
・国立女性教育会館 (NWEC)図書パッケー ジ配置(小白川)			・国立女性教育会館 (NWEC)図書パッケー ジ入替(小白川)			

Ⅲ. ダイバーシティ事業の 活動報告

① 連携体制の推進

①-1 | ダイバーシティ連携推進会議名簿・会議議事

名簿

(令和3年1月末日現在)

機 関 名 等		氏 名	備 考
国立大学法人 山形大学	学長	玉手 英利	
	理事・副学長	小島 浩孝	第1号委員 議長
	チーフ・コーディネーター・准教授	井上 栄子	第2号委員
大日本印刷株式会社 研究開発センター	センター長	古川 智彦	第3号委員
	研究企画管理本部・部長	大野 浩平	第3号委員
	パターンニング製品研究開発本部	桑原 尚子	第3号委員
山形県立大学法人 米沢栄養大学	学長	阿部 宏慈	第4号委員
	健康栄養学部・学部長	大和田浩子	第4号委員
	総務企画課・法人企画専門員	鈴木 慎一	第4号委員

【参考】

山形大学ダイバーシティ連携推進会議規程（平成27年8月5日制定）

- ① 第1号委員 山形大学男女共同参画推進室米沢分室規程に定める分室長
- ② 第2号委員 山形大学男女共同参画推進室米沢分室の職員 若干人
- ③ 第3号委員 大日本印刷株式会社研究開発センターの職員 若干人
- ④ 第4号委員 山形県立米沢栄養大学の職員 若干人
- ⑤ 第5号委員 その他推進会議が必要と認める者

会議議事等

(令和3年1月末日現在)

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (連携型)に係る案件	ダイバーシティ 持ち回り会議	通 知
令和2年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 事業(連携型)事業計画(案)について	4月10日	5月11日
第1回ダイバーシティ連携推進会議(オンライン)の開催	6月22日	5月29日
令和1年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 事業(連携型)事業結果について	—	6月22日
令和2年度事業計画について		6月22日
事業終了に伴う規程・要項の改廃について		6月22日
令和2年度JSTプログラム「ヤマガタ 夢☆未来 Girlsプ ロジェクト」の採択について	—	6月22日

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)に係る案件	ダイバーシティ持ち回り会議	通 知
ライフイベントによる研究中断からの復帰への研究費支援申請の審査結果について	—	6月22日
女性代表共同研究支援の採択について	—	6月22日
「東北ブロック南東北会議」リーフレットの作成について	—	6月22日
外部資金獲得セミナーの開催について	—	8月17日
英語論文の書き方セミナー開催について	—	8月26日
令和2年度3機関合同シンポジウム「ダイバーシティ事業の成果報告」開催について	—	9月18日
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)事業に係る規程・要領の廃止について	10月16日	11月5日
令和2年度活動報告書の作成について		12月4日
令和2年度外部評価委員会(持ち回り)の開催について	12月2日	12月21日
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)事業 訪問調査(オンライン会議)実施について	—	12月3日
第2回ダイバーシティ連携推進会議(オンライン)の開催	1月27日	

第1回 ダイバーシティ連携推進会議 議事

日 時 令和2年6月22日(月) 12:00~13:10

場 所 オンライン会議

I 協議事項

- 1 令和2年度事業結果説明書・事業計画書(3機関)
- 2 年間計画について
- 3 事業終了に伴う規程・要領の改廃について
- 4 今後の取組について

II 報告

- (1) 今後の予定、JSTの訪問調査・終了報告作成スケジュールなど
- (2) 各機関より

III その他

第2回 ダイバーシティ連携推進会議 議事

日 時 令和3年1月27日(水) 15:30~16:00

場 所 オンライン会議

I 協議事項

- 1 事業終了報告について
- 2 今後の連携の継続性について

II 報告

各機関より

② ネットワーク

②-1 | 山形大学COI(フロンティア有機システムイノベーション拠点)

山形大学では25の参画機関(企業・高等教育機関 平成31年2月1日時点)と協力し、平成27年にJSTセンターオブイノベーション(COI)プログラムに採択された。この事業は10年後を見通した革新的な研究開発課題を特定し、革新的なイノベーションを産学連携で実現し続け実用化を目指すための「イノベーションプラットフォーム」を整備することを目的としている。有機ELや生体センサを軸に、地域に根ざし「生活イノベーション」の実現を目指すJST事業(～2021年)であり、2回連続で「S」評価を得ており、女性・若手活躍が期待されている。本ダイバーシティ事業は、平成29年度より事業連携をしてきた。

事業後半に入り、本事業はCOIとの連携を強化し、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」という研究テーマを実践し、これまでの3機関の研究成果の社会実装と地域還元を加速している。COI連携において、本事業は「地域連携プラットフォーム会議」を担当しており、COI事務局や若手連携の協力し、健康で豊かな未来の生活創造をめざした地域との情報交流の場を提供し、米沢市健康長寿市民会議などの健康で豊かな地域づくりへ協力している。

今年度は、COIと共催し、7月に地域連携プラットフォーム会議、11月に3機関合同シンポジウムを開催し、昨年と同様にCOI若手・女性研究交流会を開催した。社会実装会議を4回開催(オンライン)し、多様な分野の女性研究者が参加してCOIとの共同研究を推進した。また、地域連携プラットフォーム会議では、昨年度に引き続き、「小野川のまちづくり」をテーマに開催し、小野川温泉での睡眠実証研究が12月から開始されるなど、顕著な成果が見られた。

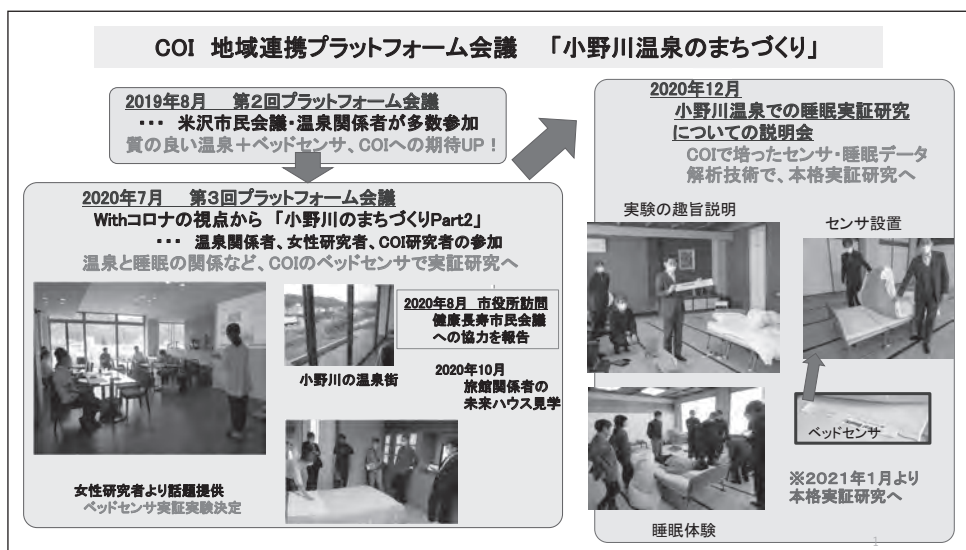


図1 地域連携プラットフォーム会議の活動

②-2 | 大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」

本事業の成果を県内15の高等教育機関に波及し、県内のダイバーシティを推進することを目的に、平成30年4月1日に大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」を山形大学が中心となって設立し、本事業を公開し、交流を行っている。

今年度の活動内容は、ダイバーシティ推進ネットワーク会議を2回（8月26日、11月19日）に開催し、山形大学の井上准教授が引き続き議長に就任した。シンポジウム（11月10日）を共催で開催し、科研費獲得セミナー（オンライン）、英語論文セミナーなどの公開事業をとおして交流を深め、加盟機関を対象とする「男女共同参画推進状況調査」を継続して実施した。コロナ禍の中での活動となったが、オンラインによる諸セミナーに多数の参加があった。

今年度は、全国ダイバーシティネットワーク組織への参加について各機関に検討を求めた。その結果、11月末には全国ダイバーシティネットワーク組織に県内の8機関が参画することになり、ネットワーク会議として大きな前進があった。12月には8機関に対し、ダイバーシティ推進に積極的に取り組んでいる機関として「認定証」がそれぞれ交付されており、全国的なネットワークに接続することができた。新たなステージを迎え、来年度以降も本会議が充実していくことが期待できる。

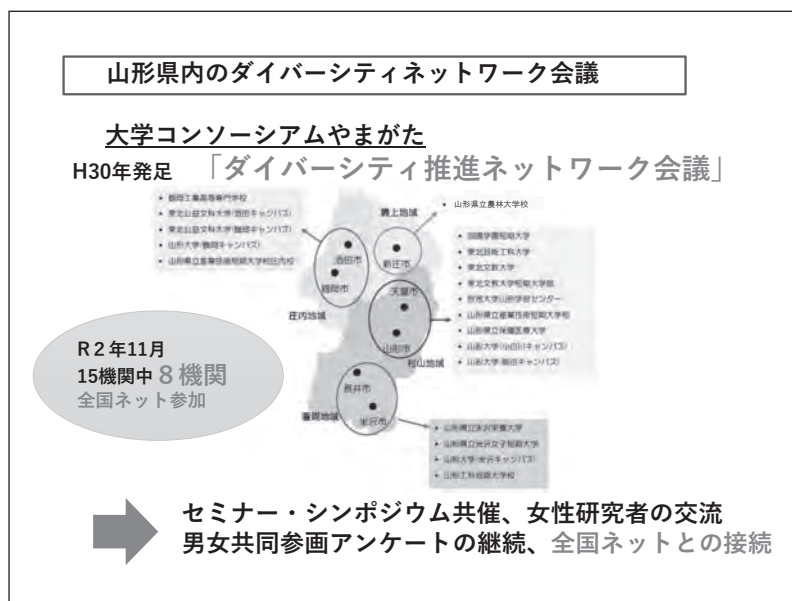


図1 ダイバーシティ推進ネットワーク会議

【全国ダイバーシティネットワーク組織の県内参加機関】

（令和3年1月時点、参加順）

山形大学
山形県立米沢栄養大学
羽陽学園短期大学
東北文教大学
東北文教大学短期大学部
山形県立保健医療大学
鶴岡工業高等専門学校
東北公益文科大学

②-3 | 全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック(南東北会議)

文部科学省の「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」の新規事業である「全国ネットワーク中核機関(群)」が平成30年10月に採択され、11月に「全国ダイバーシティネットワーク組織」が設置された。代表幹事は大阪大学、副代表は東京農工大学であり、日本IBM(株)は協働機関、日本学術会議は協力機関として参画している。「全国ダイバーシティネットワーク組織」のもとで、8つの地域ブロック会議が置かれることになり、山形大学は東北ブロック会議の幹事大学に委嘱された。

この事業は、全国で女性研究者の研究環境整備や研究力向上に取り組む機関をつなぎ、将来的に自立して活動を行う全国ネットワークの構築を目指し、国内外の取組動向の調査やその経験、知見の全国的な普及・展開等の支援を図ることを目的としている。事業は6年間で、補助金は最初の3年間のみ支給される。地域ブロックについては、3~4大学の幹事大学を設置し、地域ブロック会議を年1回以上開催し、地域の特性に合わせた活動に取り組む。東北ブロック会議の代表幹事は東北大学で、幹事大学は山形大学と岩手大学である。東北地方におけるネットワークの強化に加え、全国的な情報共有の機会が増すことで、関係機関の活動が広く認知され、優れた女性研究者の獲得につながるなどの効果が期待される。また、全国ならびに地域の企業との情報交流の機会が増し、新たな企業との連携も期待できる。令和元年にウェブサイトOPENeDが開設され、本学の取組も掲載されている。

本学は、全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロックの活動において、南東北のネットワーク構築に取り組んできた。昨年度までは、男女共同参画セミナーに合わせて南東北会議を開催していたが、今年度は新型コロナ感染防止のため開催できないため、ネットワー拡大のために南東北会議リーフレット(図2)を作成し、南東北の40機関に送付した。その中で、山形大学や米沢栄養大学を含む南東北会議の6機関の長による「ダイバーシティ研究環境実現のための共同宣言」(令和2年7月)を行うことができた。東北ブロックとしての呼びかけもあり、全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロックの参画機関が、11月時点で8機関から23機関に増加し、山形県内では2機関から8機関に参加機関が拡大した。東北ブロックではオンラインで互いの取組を交流していくことになっている。

なお、今年度12月に、全国ダイバーシティネットワークに参加して取組を進めている機関として、全参加機関に対して認定証(図1)が交付された。

<令和2年度の活動>

- 7月3日 全国幹事会(オンライン)
- 10月28日 東北ブロック会議(オンライン)
- 11月7日 東北ブロック勉強会(オンライン)
- 11月12日 全国臨時幹事会(オンライン)
- 12月14日 全国ダイバーシティネットワーク
認定証交付式/シンポジウム(オンライン)
- 1月15日 東北ブロック会議(オンライン)



図1 認定証

OPENED
Progressive Initiatives of Empowering Network for Diversity

全国ダイバーシティネットワーク組織 東北ブロック

南東北の大学・研究機関の皆様へ

東北ブロック 代表幹事大学
国立大学法人東北大学副学長 大隅 典子

科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(全国ネットワーク中核機関(群))」に、茨城大学を幹事機関、東京農工大学及び日本アイ・ピー・エム(株)を協働機関として申請した取組が採択(事業期間は6年間)され、2018年11月より全国ダイバーシティネットワーク組織の事業を開始いたしました。

本事業は、我が国の全体の女性研究者の活躍促進を図るため、女性研究者を取り巻く研究環境整備や研究力向上に取組む機関をつなぐ全国ネットワークを構築することを目的としています。全国ダイバーシティネットワークプラットフォームを構築するとともに、全国を8ブロックに分けて、ブロックごとに幹事大学を置き、各ブロック内における機関の連携強化、情報の共有及び取組の活性化を図っています。

東北ブロックの代表幹事大学は東北大学で、幹事大学は山形大学、岩手大学です。東北ブロックの特性に適合したネットワーク作りを効果的に推進すべく、成果の普及、グッドプラクティスの共有・普及を図り、東北ブロック内のネットワーク形成を強化してまいりました。北東北地区では、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)に採択された岩手大学を始めとする連携6機関により「北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議」が設立されています。しかし、南東北地区では大学コンソーシアム山形に「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」が設立されていたものの南東北のネットワークは整備されていなかったため、2019年より山形大学において南東北会議を開催し、南東北の大学・研究機関に参加を呼び掛けてきたところであります。現在南東北地区の参加機関数は6機関になりましたが、全国的に見ればまだ少ない状況です。

つきましては、参画にご同意いただき、南東北のネットワークの形成についてご尽力賜りますようお願い申し上げます。

ダイバーシティ研究環境実現のための共同宣言

私たちは、全国ダイバーシティネットワーク組織(以下「ネットワーク組織」と呼ぶ)を基盤として、各機関と密接な関係にある中核機関と連携して、ダイバーシティ研究環境実現のための共同宣言を掲げ、以下の取組を進めます。

1. ダイバーシティを推進するための研究環境の整備と「ウーマン・アワード」の推進
東北大学 大隅 典子 幹事
山形大学 藤田 幸子 幹事

2. 女性研究者の活躍比率の向上と大学経営における女性参画の拡大
山形県立中央大学 藤田 幸子 幹事
福岛県立医科大学 藤田 幸子 幹事

3. ダイバーシティを推進するネットワークの発展と地域社会との連携
岩手大学 藤田 幸子 幹事
山形県立中央大学 藤田 幸子 幹事

参加の連絡先
東北大学 男女共同参画推進センター TEL:022-217-6992 E-mail:office@tumag.yohoku.ac.jp



全国の地域ブロック・幹事大学・参加機関数 (2020年7月31日現在)

北海道ブロック	北海道大学, 室蘭工科大学	6機関
東北ブロック	東北大学, 山形大学, 岩手大学	8機関
関東ブロック	東京農工大学, 東京大学, お茶の水女子大学	37機関
関東・甲信越ブロック	筑波大学, 新潟大学, 千葉大学	13機関
東海・北陸ブロック	名古屋大学, 金沢大学	20機関
近畿ブロック	大阪大学, 京都大学, 神戸大学, 立命館大学	37機関
中国・四国ブロック	岡山大学, 広島大学, 徳島大学, 愛媛大学	22機関
九州・沖縄ブロック	九州大学, 長崎大学, 宮崎大学	12機関

東北ブロック運営委員会への参加、ブロック内の情報交換や交流

ネットワーク参画の魅力

全国ウェブサイトによる情報収集、交流、情報発信

全国のグッドプラクティスの共有

※実施頻度、実施期をありませぬ

<https://www.opened.network/> ※ウェブサイトをご覧ください!!

東北ブロックの活動 (南東北会議関係)

2019年
3月1日 東北ブロック会議、総務会(東北大): 女性活躍指標、英国アテナ・スワン認証取得
3月8日 東北ブロック東北会議(山形大): 福島県立医科大学の取組、山大ワンポジティブ宣言
7月3日 東北ブロック南東北会議(山形大): 産業北4大学の取組、山大セミナー参加
10月3日 東北ブロック会議、総務会(東北大): 岩手大学の取組(無所属のバイパス)
2020年
2月25日 東北ブロック総務会(東北大): 「アメリカ・イギリス、ドイツの大学認証評価

東北ブロック南東北会議 2020年度委員

東北大学 副学長 大隅 典子
山形大学 理事・庶務長 男女共同参画推進室長 山形 幸子
山形県立中央大学 理事 大畑 幸子
福島県立医科大学 理事・副学長 藤田 幸子
岩手大学 理事・副学長 武田 幸子
山形県立保健医療大学 男女共同参画推進室長 竹内 幸子

※南東北の皆様の参加を期待しています。

2019.3.1 東北ブロック総務会(東北大)

本リーフレットの問合せ
山形大学男女共同参画推進室 TEL/023-628-4937 E-mail:y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

図2 リーフレット

③ 意識改革

③-1 | 男女共同参画セミナー

令和2年6月22日(月)東北大学副学長である大隅典子氏を講師にお迎えし、「東北地区のダイバーシティを推進するために～ネットワークによる女性研究者の活躍促進～」をテーマに開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止することになった。

③-2 | 3 機関合同シンポジウム

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型) 3 機関合同シンポジウム 「ダイバー事業の成果報告～有機ELを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画～」

日 時：令和2年11月10日(火) 13:30～17:00
場 所：山形大学米沢キャンパス11号館2F 未来ホール、
およびZoomによるオンライン配信
参加者：関係者41名、一般11名、合計52名

大日本印刷株式会社研究開発センター・米沢栄養大学(連携機関)、COI関係者、外部評価委員、コンソーシアムやまがた、東北地方大学関係者、山形県及び山形市男女共同参画関係者

内 容：事業の最終年度にあたり、6年間の事業成果報告のための3機関合同シンポジウムをCOIと共催して開催し、学内外の関係者で成果を共有し、今後の継続性について確認した。事業前半では研究環境を整えて、サービスデザイン・プロジェクトで研究力の向上を図り、事業後半ではCOIと連携して共同研究・社会実装を推進し、広く地域に成果を普及したことについて高い評価を得た。II部のCOI若手・女性研究交流会は今後も継続していくことになっている。



図1 ポスター

【プログラム】

I部 事業の成果報告

13:30～15:20

- (1) 開会の挨拶 山形大学 理事・副学長 男女共同参画推進室長 小島浩孝
- (2) 学長の挨拶 山形大学 学長 玉手英利
- (3) 講演

「女性研究者の現状と事業終了後に期待すること」

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)科学技術プログラム推進部 プログラム主管

山村康子氏

- (4) 報告1

「山形大学COI事業報告～地域と連携した未来社会の創造」

山形大学COI研究機構 特任教授 大場好弘

(5) 報告2

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)の事業報告」
山形大学男女共同参画推進室 チーフコーディネーター 井上榮子

(6) 閉会の挨拶 山形県立米沢栄養大学 学長 阿部宏慈氏

II部 「SDGs×COI若手・女性研究者交流会～SDGsの観点からの研究交流～」 15:30～16:30
「COI若手連携」と共催し、オンラインによる研究発表・交流会(発表は各10分)

発表者	所属	発表テーマ
金光 秀子	山形県立米沢栄養大学 健康栄養学部 教授	「健康な食事」「健康な食事(通称:スマートミル)」認証に向けての取り組み ～地域の食環境整備を目指して～
伊関 千書	山形大学医学部 内科学第三講座 講師	認知症および高次脳機能障害者における味覚・嗅覚障害
後藤早紀子	山形大学医学部 眼科学講座 助教	0.05%点眼薬による糖尿病黄斑浮腫の治療効果の検討 ～糖尿病網膜症の最新の治療～
吉田 麗娜	山形大学有機エレクトロニクス イノベーションセンター 特別研究員	溶液プロセスによる機能性薄膜の創成と応用
原田 知親	山形大学大学院理工学研究科 電気電子工学分野 助教	アンビエントなライフログデータ取得に向けた取り組み



写真1 玉手学長挨拶



写真2 小島室長挨拶



写真3 JST山村様の講演



写真4 質疑応答の様子



写真5 大場特任教授のCOI事業報告



写真6 阿部栄養大学長の閉会挨拶


講演・報告1の概要（発表資料より抜粋）

報告2については、本報告書P85の「IV 6年間の事業成果」を参照。

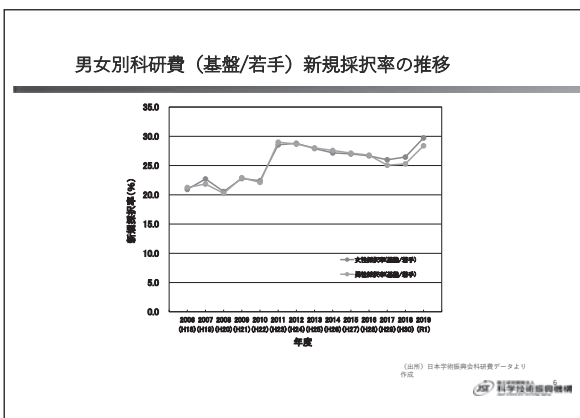
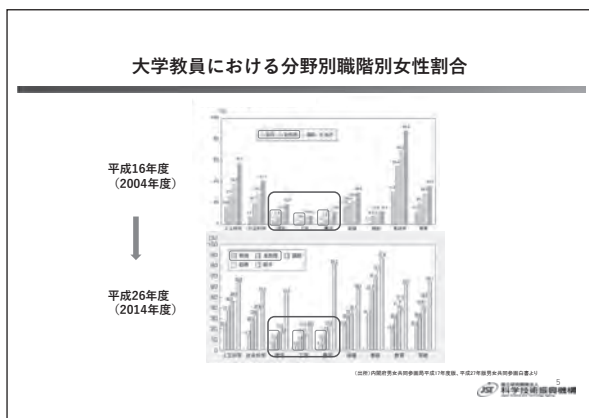
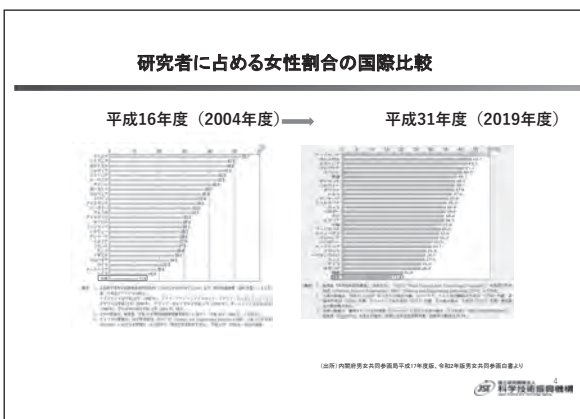
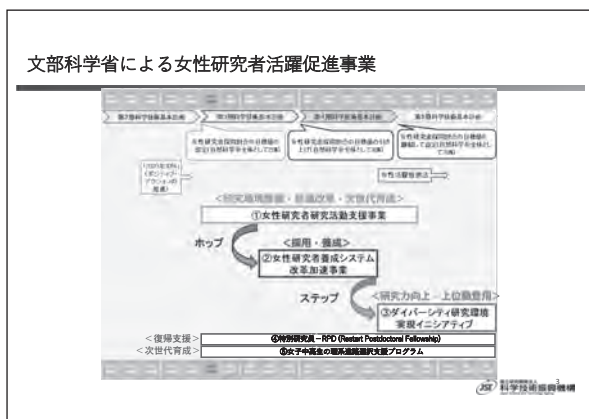
(1) 講演

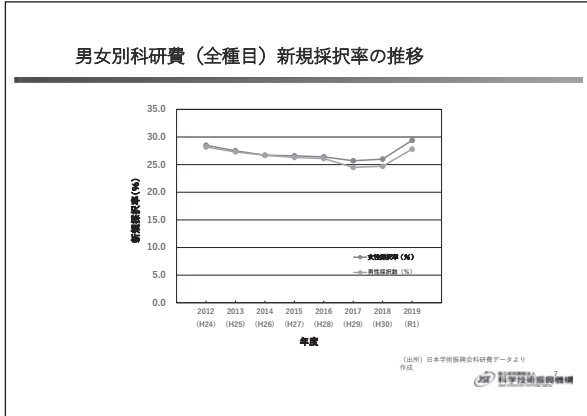
**女性研究者の現状と
事業終了後に期待すること**

令和2年11月10日
 山形大学米沢キャンパス 未来ホール


科学技術振興機構
 プログラム主管 山村 康子

1. 女性の活躍促進を図る日本政府の方策
2. 文部科学省や経済産業省による女性の活躍促進を図る事業
3. 文部科学省事業実施機関における女性研究者の現状
4. 全国の女性研究者の現状
5. 事業終了後に期待すること



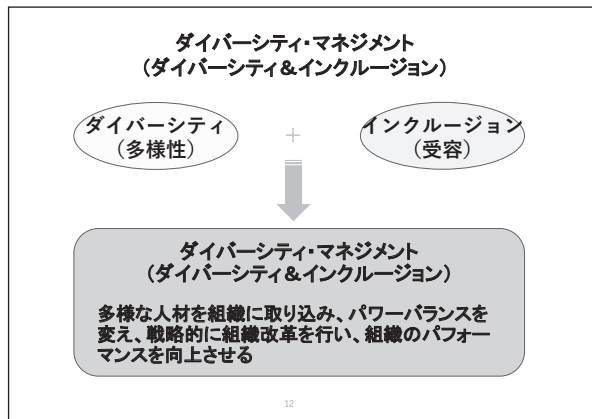


5. 事業終了後に期待すること

- ### ダイバーシティ推進体制の維持・発展
- 事業の成果の検証（数値データの分析）と検証結果の周知
 - 教育研究分野におけるダイバーシティ推進の必要性の浸透
 - トップダウンによる事業実施体制及び事業実施費の確保
 - 寄付金、外部資金、クラウドファンディング等の活用
- JSPS 科学技術政策推進機構

- ### 女性上位職（教授、准教授相当）の育成
- 女性研究者の研究力向上の推進及び成果の検証と検証結果の周知
 - トップダウンによる女性上位職に係る採用、昇任システムの構築
 - 部局上位職教員の意識改革（国の方針及び社会意識変化の周知）
 - 優れた女性研究者の探索と採用、昇任の推進
- JSPS 科学技術政策推進機構

- ### 女性マネジメント層の育成
- マネジメント層を目指す意識の醸成
 - マネジメント層候補者の探索とリーダーシップの育成
 - マネジメント層のワーク・ライフ・バランスの推進
- JSPS 科学技術政策推進機構



(2) 報告1

COIプログラム ビジョン3

「山形大学COI事業報告～地域と連携した未来社会の創造」

2020年11月10日

山形大学COI研究推進機構
RL 山形大学特任教授 大場好弘

目指すべき将来の姿(拠点ビジョン)の設定

withコロナの高齢者・地域の生活イノベーション

社会課題: 雪で巣ごもり, 高齢化・病人増, 地域・産業の衰退

地域に魅力ある産業、高齢者や地域でも快適・健康で安全暮らしの創出

山形大学のプラットフォームで実現する

日本型スマート高齢化社会 → 高齢者と若者の共存発展社会

withコロナの快活・安心・魅力ある暮らし, withコロナの健康長寿・子育てを支える, withコロナの産業の振興・高付加価値化

テーマ: 暮らしのQOL向上, 高齢者・介護者子どもの健康, 地域・産業の活性化

山形大学COIプログラム コンセプト

人が変わる、社会が変わる、ビジネスが変わる。

山形大学COIプログラムの概要を説明する図表

プロジェクト: PL:三宅, RL:大場, SPL:菟田

社会課題を解決するチーム編成

社会課題からテーマ設定	社会課題	担当者	シーズ	企業・機関
社会課題を解決することを優先 他拠点・団体の協力を加速	社会課題			
地域・産業グループ	産業チーム	鹿野 耕平	密着乾燥技術	KK社
健康・暮らしグループ	地域連携チーム	城戸 詩佳	機能性食品、乾燥食品	金山町 他
プラットフォームグループ	介護医療支援チーム	井上 小枝	有機EL照明・器具・照明材料・デバイスベンチャー	XXX社, YY社, RR社, ZZ社
	介護医療支援チーム	藤山 雅也	地域連携プラットフォーム	米沢市 他
	暮らし支援チーム	佐野 大樹	ネットワーク(WiFi)システム	HH社
	暮らし支援チーム	山内 山内	介護員向けセンサシステム	aa社, bb社
	暮らし支援チーム	近藤 大	リストバンド型センサ	11社
	暮らし支援チーム	水上 龍一	シートセンサーの医療応用	YY社
	暮らし支援チーム	佐野 大樹	スマート(事業化)フェーズ	GG社 (SS社)
	暮らし支援チーム	佐野 大樹	睡眠解析・睡眠アシスト	GG社
	暮らし支援チーム	佐野 大樹	有機EL照明・センサー	GG社
	暮らし支援チーム	佐野 大樹	子ども・子育て用照明	mm社
	暮らし支援チーム	佐野 大樹	ネットワーク	YY社, RR社
	暮らし支援チーム	佐野 大樹	有機EL照明	FF社, dd社
	暮らし支援チーム	佐野 大樹	有機EL照明	BBB社
	暮らし支援チーム	佐野 大樹	有機太陽電池	III社
	暮らし支援チーム	佐野 大樹	研究開発戦略	山形大学
	暮らし支援チーム	佐野 大樹	大学改革	
	暮らし支援チーム	佐野 大樹	印刷デバイス・印刷プロセス	山形大学
	暮らし支援チーム	佐野 大樹	材料技術・マイクロ加工	山形大学
	暮らし支援チーム	佐野 大樹	精密加工・技術	山形大学
	暮らし支援チーム	佐野 大樹	化学センサ・食品検査装置	山形大学

ロードマップの表現

2012-15 要素開発
フェーズ1 基盤確立

2016-18 技術開発
フェーズ2 社会実装への道筋

2019-21 社会実装の検証
フェーズ3 社会実装

成功のための3つの変革

新しい日本の勝ちパターン (研究)

新しい日本の勝ちパターン (事業)

ビジネスモデルの変革

地域・産業グループ

地域連携チーム

井上 小枝

地域連携プラットフォーム

米沢市 他

ネットワーク(WiFi)システム

NEC

男女共同参画・地域連携イベント

第2回地域連携プラットフォーム会議

～小野川のまちづくり～

2019年8月28日(水) 18:00～19:00

山形大学新校舎2F(11)1号棟2階 東洋ホール

第2回健康長寿社会をのぞいて

2019年11月19日(火) 13:30～15:00

山形大学新校舎2F(11)1号棟2階 東洋ホール

男女共同参画・地域連携イベントのポスター

地域連携プラットフォーム構築活動

健康長寿米沢市民会議への参加：委員として工学部長、井上榮子教授が参加

米沢市長参加、COIのヘルスケア部門の熊木准教授が講演

- 健康長寿日本一推進プラン（案）について 米沢市健康推進委員会主催 後藤誠一
- 介護・ヘルスケア応用に向けた大規模システム構築について 15分 山形大学准教授・大学院有機材料システム研究科 熊木 大介 氏

7

COIプログラムが目指す未来価値社会

全ての人が健康で豊かに生活するダイバーシティ未来価値地

(住み続けられるまちづくり) (産業と技術革新の基盤をつくろう)

- 地域生活の魅力が再認識し多くの人と共有する未来型価値社会。
魅力：自然豊か、食べ物が豊かで魅力的、四季が癒し、人々の繋がりと新たなツール5G、SNS発信、新センサー、AIで支援する未来価値社会
(すべての人に健康と福祉を)
- With コロナ時代の暮らし方で魅力発信(SNS, You-tube等で価値改革) 人と人の距離がゆったり保てる空間の豊かさ確かな繋がりが人々の健康を支える食、住まい、自然、働きを提供⇒確かな雇用と心の豊かさ
(ジェンダー平等を実現しよう)
- 地域の魅力:ジェンダーを越えて全ての人々にやさしい地域： 全世代の健康見守りのサポートが実践される魅力あふれる地域。 家族、近隣住民、栄養士、保健士、医師、介護士等の専門家と繋がる 安心安全で質の高い生活実現社会 = 新たな未来価値社会

10

COIと男女共同参画社会連携チーム：TL井上榮子先生

学内構成メンバー：熊木大介 (COI)、本島優子 (地教)、伊関千書 (医学)
菅藤裕一 (国際事業化センター)、原田知親 (COI)、
黒谷玲子 (工)、三原法子 (地教)、石垣和恵 (地教)
高澤由美 (工) 鈴木慎一 (米沢栄大)、井上榮子 (推進室)

拡大充実した
参画メンバー！

取り組み課題：

- 1) ヘッドセンサーの赤ちゃん、認知症患者への応用 (地域連携課題：育児と介護)
- 2) サービスデザインによるITを活用した栄養指導 (地域健康課題：成人病問題) (R2年度ダイバ事業の共同研究費補助事業)
- 3) 地域連携プラットフォーム会議「小野川のまちづくり」(地域連携組織：地域再生)
- 4) 米沢市健康長寿市民会議への協力について (地域連携組織：総合的健康課題対策)

例：閉じこもり傾向にある高齢者問題や塩分の取りすぎ問題

市民参加型の取組開始

市民の健康活動がムーブメント化している。COIとの連携強化で健康長寿日本一へ

8

Withコロナ時代—あるべき地域社会—Well-Being社会の実現

コロナ禍の下、大都市一極集中型から多核連携型へと社会変革が求められている。多核連携型でWell-Being(「人々が安心・健康で生き生きと生活できる」状態)な社会の実現のためには、地域がその魅力を活かしつつ、発展の阻害要因を解決することが必要である。山形地域は、高齢化、人口減少、人手不足、健康不安、産業の停滞等の課題を抱えており、これらを山形大学が持つ有機ハイブリッド・システムやデジタル・ファブリケーション等の最先端技術及び産学共創によるものづくり力で解決し、誰もが住みたくなくなる魅力あるダイバーシティ地域社会を実現する。同時に新たな感染症の発生・流行や大規模災害に対する強靱化技術開発と社会実装に取り組む。

9

④ 研究とライフイベントとの両立支援

④-1 | 研究継続支援員制度

(1) 制度の目的

ワークライフバランスを保ちながら研究活動を行う環境作りの一環として、研究継続支援員（以下「支援員」という。）を配置し、出産、育児、介護等により十分な研究活動を行うことができない研究者を支援することを目的とする。

(2) 支援の対象者

支援の対象となるのは、当面、次に掲げるいずれかの要件で研究活動に支障が生じていると思われる女性研究者及び男性研究者とし、男女共同参画推進室長が認めた者とする。

本学に所属する常勤研究者（教員・医員）及び本学に所属する研究者（博士後期課程学生・ポストドクター）で、

- ① 妊娠中又は小学6年生までの子育て中の者
- ② 市町村から要介護の認定を受けている親族（同居別居は問わない。）を介護している者
- ③ その他、上記理由に準ずる者

(3) 支援する業務

支援する業務は、研究データの整理・研究者の実験補助等。

(4) 支援する期間及び時間

支援する期間は、4月1日から9月30日まで（前期）及び10月1日から翌年の3月31日まで（後期）の6ヶ月単位とする。支援する時間は、週15時間以内とする。

(5) 利用者状況（令和2年度前期・後期分）

<令和2年度の利用状況>

利 用 年 度	山形大学		米沢栄養大学	
	令和2年度(前期)	令和2年度(後期)	令和2年度(前期)	令和2年度(後期)
利 用 者 数	20名	23名（継続20名）	1名	1名（継続1名）
申 請 理 由	育児・介護	育児・介護	介護	介護
支 援 員 配 置 時 間	1,890時間	2,160時間	379時間	192時間

④-2 | 夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育利用料補助制度

（1）制度の目的

仕事と育児の両立を図ることを目的とし、連携機関に所属する女性研究者等に対し、夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育の利用に対する利用料金の補助を行う。補助金額は、子ども1人につき年間20,000円を限度とする。

（2）支援の対象者

連携機関に雇用されている研究者（非常勤の研究者（週の勤務時間が30時間以上で雇用期間が2ヶ月を超える者をいう。）を含む。）で、小学校6年生までにある子どもを養育する者。男性研究者については、その配偶者が、大学、大学共同利用機関、独立行政法人、公設試験研究機関、公益社団・財団法人及び民間企業で雇用されている研究者に限る。

（3）登録者・利用者の状況

利用者の殆どが平成28年度から継続利用者が多く、学童の利用が多くなってきている。

<登録者数> 令和3年1月末日時点

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
登録者（研究者）	7名	9名	8名	8名	7名
登録者（子ども）	13名	16名	15名	14名	11名

<目的別利用者数（子ども）> 令和3年1月末日時点

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
夜間保育	4名	7名	3名	7名	0名
休日保育	0名	1名	2名	0名	0名
病児・病後児	2名	2名	3名	2名	0名
学童保育	2名	3名	6名	4名	4名
合計	8名	13名	14名	13名	4名

④-3 | ライフイベントによる研究中断からの復帰支援制度

(1) 制度の目的

女性研究者が妊娠・出産・育児・介護などのライフイベントによる研究中断後、円滑に研究現場に復帰できるよう、研究者を継続的に育成・支援し、研究環境の多様性を促進することを目的とする。

(2) 支援の対象者

当該復帰した日の前日の3年前の日の属する年度の4月1日から遡って過去3年以内に、ライフイベントのため概ね3ヶ月以上やむを得ず研究活動を中断した女性研究者を対象とする。

(3) 申請状況と審査結果

<申請件数>

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
申請数	2件	6件	3件	2件	2件
採択数	2件	6件	3件※	2件	2件

※平成30年度採択のうち、1件は平成30年9月より研究中断し、令和元年度に研究再開

(4) 令和2年度復帰支援制度採択による研究

本年度採択された復帰支援制度に係る研究は以下の2件である。研究中断理由は、いずれも妊娠・出産・育児によるものであった。

1. 後藤 早紀子（山形大学学術研究院（医学部眼科学講座）・助教）
テーマ「糖尿病黄斑浮腫に対するステロイド点眼薬の治療効果についての検討」
2. 河合 寿子（山形大学学術研究院（理学部理学科）・助教）
テーマ「蛍光タンパク質による葉緑体と相互作用する細胞小器官の検出」

④-4 | 相談制度

相談員制度は、ダイバーシティ研究環境の支援制度として位置づけられ、女性研究者の研究とライフバランスの両立を支援することを目的にした制度である。主に連携機関に所属している女性研究者・女子大学院生を対象にしているものの、ワークライフバランスに関する相談など連携機関に所属するものなら男性も含め誰でも利用できる。電話、メール、相談申込書により受け付け、日時や場所については相談者と調整の上決定する。相談者の話を聞いたうえで、有益な情報や支援制度を案内する。また、疑問や要望など対応が必要な場合は関係機関へ検討を依頼し、問題の早期解決を目指し深刻化を防げるよう取り組んでいる。

本事業が認知され、支援制度の利用率が向上されるとともに利用者は減少しているものの、一定数のニーズがあり、研究者との信頼関係を構築できている。

④-5 | 託児サポーター制度

連携機関に所属する教職員等の仕事と育児の両立を支援する制度であり、一般財団法人女性労働協会の保育サービス講習カリキュラムに基づいた講義及び保育実習を修了した学生が「託児サポーター」として、保育士の指導の下で託児業務を行う。令和2年度は、託児業務の委託先の都合により契約未締結のため、実施していない。

⑤ 女性研究者の研究力向上

⑤-1 | サービスデザインプロジェクト

本事業が、サービスデザインプロジェクトをとおして研究力を向上し、COI連携を強化して女性研究者の活躍促進を図っていることが、「2019年度版 ものづくり白書」（経産省・厚労省・文科省 2019.6.11）に掲載された。

事業後半では、サービスデザインプロジェクトの研究成果やシーズの共同研究と社会実装をめざして取組を進めている。令和元年11月にはCOI共催で3機関シンポジウムを開催し、黒谷玲子氏（理工学研究科・准教授）より、「～女性にとって『快適で豊かな未来の生活』をデザインする～産学連携サービスデザインプロジェクト活動内容」と題して報告発表を行った。

その後、社会実装に向けた検討会議を国際事業化研究センターで実施したことを契機に、令和2年度までにCOI地域連携「社会実装会議」を4回開催（オンライン）し、多様な分野の女性研究者とCOI若手研究者との共同研究を進めてきた。

その結果、令和2年度女性代表共同研究支援では昨年度よりも1件多い6件が採択されたが、特筆すべきことに、サービスデザインプロジェクトの研究シーズを活用し、「サービスデザインのIT開発と栄養指導への活用」をテーマとする共同研究が成立した。この共同研究代表は、三原法子氏（地域教育文化学部・講師）であり、原田知親氏（理工学研究科・助教）の他、山形大学の女性研究者2名、米沢栄養大学の女性研究者1名が参加している。今年度は、サービスデザインプロジェクトによる2つのサービスアイデアの中から1つのアイデア（DishELa）に絞り、プロトタイプ1号機を製作し、山形県栄養士会の会員の協力を得て、病院および介護福祉施設の管理栄養士対象にしたアンケート調査を実施し、分析・検討を行う。社会実装会議では、今後の進め方について学内で協議を行い、課題を解決しながら共同研究を継続していくことを確認した。

なお、令和2年9月11日に開催した社会実装会議（オンライン）には、共同研究者3名と山形県栄養士会の4名の代表者が参加し、次のような活発な意見交換が行われ、地域の期待が大きいことが実感された。高齢化・過疎化が深刻な中、三世同居で共働きの山形の女性の視点に立ち、地域の専門家と連携して社会実装を目指していきたい。

- ・山形県の2つの目標「野菜たっぷりメニュー」と「減塩」に基づくものを作ってほしい。
- ・健常者対象（1食）か負傷者対象（病院、3食）のどちらを基本にするのか。
- ・負傷者を対象とした場合は、微量元素値を出せるAIが欲しい。
- ・野菜たっぷり＋減塩（規定値：男7.5g、女6.5g）の基本メニューがでてくるAIが欲しい。
- ・献立アプリが欲しい。
- ・健康指導等で、基本食材を基に指導することが可能。
- ・リコmendができるようにしてほしい。

⑤-2 | 女性代表共同研究費支援制度

(1) 制度の目的

女性代表共同研究費支援制度は、連携機関に雇用されている女性研究者が研究代表者となり、研究代表者が所属する機関以外の連携機関に所属する研究者等と共に行う研究を支援するものである。

(2) 申請状況と審査結果

今年度は合計7件の共同研究の申請があった。うち1件は、サービスデザインプロジェクトに関わる研究であり、特別枠として設定したものである。これらの審査を「ダイバーシティ共同研究支援審査会」(審査員は連携機関の事業実施責任者及び山形大学男女共同参画推進室チーフ・コーディネーターの4名で構成)が、提出された申請書に基づき、研究の社会貢献度、有用性、研究計画及び支出計画について審議を行った。

その結果、特別枠を含む6件が採択された。

(3) 令和2年度に採択された女性代表共同研究

表1 令和2年度女性代表共同研究採択一覧

研究代表者	1	2	3	4	5
	三原 法子	伊関 千書	黒谷 玲子	渡辺 理絵	吉田 麗娜
所 属	山形大学・講師	山形大学・講師	山形大学・准教授	山形大学・准教授	山形大学・特別研究員
テーマ	適正な嚥下調整食提供のためのモバイル食品物性評価ツールの開発(継続)	加齢・神経変性が味覚に及ぼす影響:味覚障害を呈する認知症を捉える(継続)	新規生理活性物質SCGB3A2の食物アレルギー改善メカニズムの解明	中山間地における山菜のふるさと資源化と地域振興の効果に関する調査・研究	Low Temperature Photochemical Solution Processing of metal oxide electron injection layer for flexible LEDs
研究期間	平成28年6月1日 ～ 令和3年3月31日	平成29年5月1日 ～ 令和3年3月31日	令和2年5月1日 ～ 令和3年3月31日	令和2年6月1日 ～ 令和3年3月31日	令和元年5月1日 ～ 令和3年3月31日
共同研究者 1	江口 智美 山形県立米沢栄養 大学・講師	大野 浩平 大日本印刷株式会 社 研究開発セン ター・部長	山田 英明 山形県立米沢栄養 大学・教授	金光 秀子 山形県立米沢栄養 大学・教授	沖本 直子 大日本印刷株式会 社 研究開発セン ター・パターンニ ング製品研究開発本 部 第4部
共同研究者 2	西岡 昭博 山形大学・教授	山下かおり 大日本印刷株式会 社 研究開発セン ター・課長	江口 智美 山形県立米沢栄養 大学・講師		
共同研究者 3	香田 智則 山形大学・准教授				
共同研究者 4	村澤 剛 山形大学・教授				

表2 令和2年度女性代表共同研究採択一覧（特別枠）

研究代表者	(特別枠)
	三原 法子
所 属	山形大学・講師
テーマ	サービスデザインのIT開発と栄養指導への活用
研究期間	令和2年6月1日 ～ 令和3年3月31日
共同研究者 1	大和田 浩子 山形県立米沢栄養 大学・教授
共同研究者 2	黒谷 玲子 山形大学・准教授
共同研究者 3	原田 知親 山形大学・助教
共同研究者 4	石垣 和恵 山形大学・准教授

⑤-3 | 英語論文の書き方セミナー

現代の研究者にとって、研究成果をまとめ、論文、特に英語論文として世に問うことは必須の作業である。女性研究者の研究力向上の一環として、英語論文を書くことの意義と書き方について学ぶ英語の書き方セミナーを開催した。

本年度はCOVID-19感染拡大の状況を鑑み、密を避けるべく各会場での事前申込者数を絞った上で、参加者への体調管理の呼びかけ、各会場での手指消毒、そして分散着席の徹底などの対応をとった。

日 時：令和2年10月9日(金) 15:00~16:00

場 所：山形大学小白川キャンパス 法人本部第1会議室

<テレビ会議配信>

飯田キャンパス：医学部第2会議室

米沢キャンパス：講義棟3階会議室

鶴岡キャンパス：農学部小会議室

大日本印刷(株) 研究開発センター

参加者数：39名

講 師：後藤 薫氏

山形大学学術研究院教授(医学系研究科)

【内容】

科学論文の興味深い歴史の紹介とともに、論文作成過程において自らの思考を「記録」し、「言語化」し、さらに「図式化」することの重要性についてお話いただいた。さらには、英語という言葉の特性解説、先人の論文を数多く読むことが文章を書くうえで重要であることなどを、わかりやすく解説いただいた。

参加者のアンケートからは、「英語論文の書き方だけでなく、その哲学の歴史も大変興味深かった」などの感想が寄せられた。

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)
山形大学・大日本印刷株式会社研究開発センター・山形県立米沢栄光学堂

対象：研究者、教職員、ポストドクター、学生等

英語論文の書き方セミナー
～英語論文で世界に問う～
2020年10月9日(金)15:00~
山形大学小白川キャンパス 法人本部 第1会議室

TV配信
(予定)
米沢キャンパス：講義棟3階会議室
飯田キャンパス：医学部第2会議室
鶴岡キャンパス：農学部小会議室

講師 後藤 薫氏
山形大学医学部医学研究科
解剖学第二講座
(組織細胞生物学) 教授

PROFILE
山形大学医学部医学科卒業、東北大学大学院医学研究科修了。博士(医学)。東北大学大学院医学研究科助手、講師、助教授を経て、1997年より現職。1994年に日本解剖学会副賞を受賞。研究分野は、基礎医学、解剖学一般(食、組織学・発生学)、ならびに細胞内情報伝達機構、細胞内情報伝達機構における膜リン脂質代謝の役割を追求するため、イノシトールリン脂質代謝により生じるジアシルグリセロール(DAG)の代謝産物DGキラーに注目し、その遺伝子クローニング、mRNAおよび蛋白の発現局在の解析、培養細胞を用いた遺伝子導入実験、トランスジェニックマウス作製による個別細胞での機能解析を行っている。

英語論文発表の豊富な経験を持つ後藤先生から、執筆の際に必要な実践的なスキルや研究成果の効果的な発表方法を学びます

COVID-19の流行状況により、オンライン方式に変更される可能性があります。予めご了承ください。
ホームページに最新情報を掲載しますので、ご確認ください。

申込み・問合せ先
山形大学男女共同参画推進室
TEL 023-626-4937
E y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp (米沢分室)

9月23日
申込み締切

メール・Webで申込み

図1 チラシ



図2 講演する後藤教授



図3 会場の様子

⑤-4 | 外部資金獲得セミナー

日 時：令和2年9月8日（火）14：00～15：30

開催方法：Zoomによる遠隔実施

参加者数：138名

講 師：古川 英光 氏

山形大学大学院理工学研究科（理工学研究科）

【目的】

女性研究者をはじめとする大学等の研究者の外部資金獲得を促進し、研究に取り組む意識の啓発と研究力向上を図る。

【内容】

今年度で6年目となる外部資金獲得セミナーは、山形大学研究部研究支援課とのジョイントセミナーとして、山形大学大学院理工学研究科教授 古川英光 氏を講師に招き、お話しいただいた。本事業の取組みを地域に波及させるために、これまでと同様に「大学コンソーシアムやまがた」に加盟する県内の高等教育機関にも公開し、本学を含め6大学・高等専門学校から138名の参加があった。

講師の古川氏は、ご自身の科学研究費の初めての申請や、基盤Bへの申請時の採択と不採択の両方の研究計画調書を比較しながら、不採択の結果を踏まえて、どのような見直しを行ったのかを、具体的に説明いただいた。そのうえで、不採択と採択の境目として、「古い、平凡、独りよがり」ではなく、興味を惹かれるよう「新しい、非凡、ユーザー目線」で作成すること、そのためには、ファクトとオープンイノベーションから魅力的なコンセプトが作れるようになることをお話しいただいた。

参加者からは、「アウトリーチが評価点になるなど、普通では知りえない情報を得ることができた」、「実際に提出された申請書類の中身を見せていただき勉強になった」、「コンセプトの作り方や審査員目線の計画調書の書き方、採択・不採択時の調書の比較など、とてもためになった」、「モノを集める素は、コミュニケーション『ダイナミック・ケイパビリティ』で人間関係を広げていくことも科研費獲得につながるということもよく分かった」等の感想があり、本セミナーは、参加者にとって科学研究費をはじめとする外部資金の獲得に資する大変貴重な機会となった。



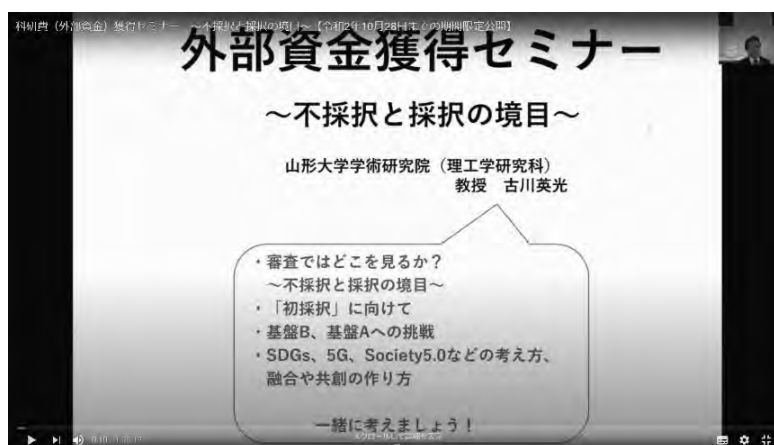
外部資金獲得セミナー
～不採択と採択の境目～
2020年9月8日（火）14：00～15：30
講師 古川英光氏
山形大学大学院理工学研究科・教授

講師profile
東京工業大学大学院博士課程修了。博士（理学）
北海道大学大学院理学研究科生命科学専攻助教授
山形大学大学院理工学研究科機械システム工学専攻准教授等をを経て、2012年より現職に至る。
ソフトウェア（高分子アルゴリズム・食品）
やハイブリッド材料の3Dデジタル製造を強化する研究等を行っている。

実施方法：Zoomミーティング
連携機関及び「大学コンソーシアムやまがた」の加盟機関に所属する研究者であれば、どなたでもご参加いただけます。
本セミナーは、山形大学研究部研究支援課との共同開催です。山形大学の研究者の方は、山形大学研究部研究支援課へお問合せをお願いします。
TEL 023-628-4845
Email k-kenkyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

お問合せ・申込み先はコチラ▼
山形県公立大学法人 山形県立米沢栄養大学
TEL 0238-93-2932
Email: suzuki.shin-ichi@yone.ac.jp

図1 チラシ



外部資金獲得セミナー
～不採択と採択の境目～
山形大学大学院理工学研究科
教授 古川英光

- ・審査ではどこを見るか？
～不採択と採択の境目～
- ・「初採択」に向けて
- ・基盤B、基盤Aへの挑戦
- ・SDGs、5G、Society5.0などの考え方、融合や共創の作り方

一緒に考えましょう！

図2 Zoomによる遠隔実施

⑤-5 | 自己啓発合宿

自己啓発合宿の概要と講師の紹介

この自己啓発合宿は、連携機関に所属する女性研究者の研究開発能力、マネジメント能力などを育成し、自己の啓発を推進することを目的としている。2年間で計4回のプログラムを継続受講することで、主体的にキャリアビジョンをデザインするスキル及び、組織のリーダーとして必要なスキルの育成をはかる。講師には、大日本印刷株式会社のダイバーシティ関連の施策で長年ご指導いただいている、ライフデザインズ・オフィス代表、小西ひとみ氏を迎えている。6年目にあたる本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け延期となった第3期の第2回と、第3回を実施した。第4回（最終回）は2021年2月に実施予定である。なお新型コロナウイルスへの対応として、研修はオンライン（Zoom）で開催し、研究開発センターにおけるZoomオンライン会議運用ルールに従い、大日本印刷株式会社の受講生のみでの参加となった。



<講師 プロフィール概要>

小西 ひとみ (<http://www.konishihitomi.com>)

ライフデザインズ・オフィス代表

ファシリテータ/キャリアカウンセラー（CDA）

認定心理士

国家資格キャリアコンサルタント養成講座の認定講師

国家資格キャリアコンサルタント日本心理学会会員

第3期 第2回自己啓発合宿

2020年10月14日（水）、15日（木）の2日間、3期第2回自己啓発合宿「リーダーとして伝える力、共感する力～プレゼンテーション力を高める～」(大日本印刷7名：男性3名、女性4名)をオンライン（Zoom）で開催した。新型コロナウイルスへの対策として、受講者の当日の体温・体調チェック、大日本印刷株式会社研究開発センター柏施設内3部屋での分散受講、換気・消毒の徹底、座席は前後左右2m以上の間隔を確保、各座席前方には飛散防止アクリル板を設置した。



図1 オンライン研修の様子

リーダーシップ、プレゼンテーション（オンラインでのコツなど）についての座学と、個人演習として、「課題（テーマ）を伝えるチカラ」と、「相手に期待する反応を確認するチカラ」を養う2つの具体的なケースについて、自ら5分間のプレゼン内容を考え発表し、更にグループディスカッションでの質問会議とフィードバックを通して、各人の理解の深耕と今後の課題を明らかにできた。

事後アンケートでは、「体系的にプレゼンテーションについて考える機会となり、自分に足りない要素が明らかになった」、「4つのタイプ別コミュニケーションスタイルの講義が参考になった。」、「上司・部下の関係においては、より正しく伝えないと信頼関係を構築できない。伝えるということをもっと意識してコミュニケーションをとっていく必要を感じた」などの意見があった。また、コロナ禍で実業務でもオンライン会議（プレゼンテーション）が急増しているなかでの課題意識があり、明日からでも直ぐに使えるスキルの習得になった点も好評であった。

第3期 第3回自己啓発合宿

2020年12月9日（水）、10日（木）の2日間、3期第3回自己啓発合宿「違いを認め、互いを活かすチームづくり～チームビルディングD&Iを目指すリーダーシップ・スタイル～」(大日本印刷7名：男性3名、女性4名)を、第2回と同様の新型コロナウイルスへの対策を行った上で、オンライン（Zoom）で開催した。今回は自宅等の柏施設以外からの参加者も半数以上いた。

チームビルディング（状況対応型リーダーシップ、シェアードリーダーシップ）、チームコーチング（質問会議）についての座学と、チーム力を活かすグループ演習、各人のキャリアに対する課題をテーマにした全員での質問会議（7セッション）を通じて、違いを認め、互いを活かすチームづくりに必要な『伝える力』や『聞き出す力』の重要性と各人の今後の課題を明らかにできた。

事後アンケートでは、「こちらの真意を『伝える』ためには、相手の状況に合わせて、表現方法や話す順番を工夫することが必要」「チームの目標を全員が理解し、同じ方向を向いて、必要な時に必要な情報をみんなが出し合うことが、効率的に成果に結びつけることができる」「質問会議を有機的に回して行くには、質問の仕方、状況によってはその前の準備、質問を聞く姿勢など、準備や心構えが必要」、「『聞き出す力』について実践を交えた内容でとても勉強になった」などの前向きな意見が多く寄せられた。

第2回 自己啓発合宿		第3回 自己啓発合宿	
1日目(2020 10 14)	2日目(2020 10 15)	1日目(2020 12 09)	2日目(2020 12 10)
10:00 オリエンテーション	10:00 前日の振り返り	10:00 オリエンテーション	10:00 前日の振り返り
10:10 講義	10:10 演習	10:10 講義	10:15 演習
10:55 休憩	10:50 休憩	10:20 演習	12:10 昼食
11:05 講義	11:00 講義	11:40 昼食	13:10 演習
11:20 演習	11:20 演習	12:40 演習の振り返り	13:55 休憩
11:50 昼食	11:55 昼食	13:15 質問会議	14:35 演習
12:50 質問会議	13:00 演習	13:45 休憩	16:20 終了
13:55 休憩	13:40 講義	14:55 講義	
14:05 演習	13:55 休憩	15:10 休憩	
15:25 休憩	14:05 質問会議	15:20 演習	
15:35 演習	14:35 休憩	16:50 終了	
16:10 終了	15:45 講義		
	16:00 終了		

図2 スケジュール

⑤-6 | 女性研究者研究成果発表会

日 時：令和2年11月10日(火) 15:30~16:30

場 所：山形大学米沢キャンパス工学部11号館 2階未来ホール

【目的】

主に学生(大学生、大学院生)等を対象にした女性研究者の研究成果発表会を開催し、女性研究者の裾野の拡大を図る。

【内容】

山形大学COIと連携して実施した3機関共同シンポジウム「事業の成果報告～有機ELを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画～」(一般11名、関係者41名、合計52名が参加)の第Ⅱ部として、「SDGs×COI若手・女性研究者交流会～SDGsの観点からの研究交流～」を開催した。この企画は、米沢栄養大学で例年開催している「女性研究者研究成果発表会」を兼ねており、5名の研究者(うち、女性研究者は4名)による発表が行われた。



図1 会場の様子

発表後の意見交換では、「交流を通して様々な領域の研究を知ることによって自分の研究も膨らむ」、「このような研究発表が動画でも見られる機会が増えるとよい」、「女性研究者を増やすためには、安定した常勤の雇用を増やすことが必要」、「今回の発表内容のテーマに出された、食事、味覚、糖尿病の話は、深いところではつながるものであり、連携できる可能性が多々あると感じられた」といった意見が出されたほか、会場からは「スマートミールの認証店が少ないのが残念。取得することのメリットになるような取組みができないか」といった質問がなされるなど、参加者にとって充実した機会となった。

<発表内容>

発表者氏名	所属	発表テーマ
金光 秀子	山形県立米沢栄養大学 健康栄養学部 教授	「健康な食事(通称:スマートミール)」 認証に向けての取り組み ～地域の食環境整備を目指して～
伊関 千書	山形大学医学部 内科学第三講座 講師	認知症および高次脳機能障害者における 味覚・嗅覚障害
後藤早紀子	山形大学医学部 眼科学講座 助教	0.05%点眼薬による糖尿病黄斑浮腫の治療効果の検討 ～糖尿病網膜症の最新の治療～
吉田 麗娜	山形大学有機エレクトロニクス イノベーションセンター 特別研究員	溶液プロセスによる機能性薄膜の創成と応用
原田 知親	山形大学大学院理工学研究科 電気電子工学分野 助教	アンビエントなライフログデータ取得に向けた取り組み

⑥ 女性研究者の裾野拡大

⑥-1 JOIN交流会

例年、女性研究者の裾野の拡大を図ることを目的とし、女性大学生・大学院生等を対象とした女性研究者との交流会を実施しており、昨年度は大日本印刷株式会社研究開発センターに所属する女性研究者3名とJOINメンバー（詳細は38ページ参照）、米沢栄養大学の女性大学院生の交流会が開催された。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、交流会は中止された。

⑥-2 博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナー

主に女性ポストドクターや女性大学院生・学部生等を対象に、大学だけに限らず企業の研究職についても知ることにより、高い研究能力を生かせる道を探る機会とし、女性ポストドクター、女性大学院生の育成と、博士課程進学への関心を高めることを目的としている。昨年に引き続き、山形大学フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院が主催する「キャリア・就活セミナー」に共催して開催した。

今年度は、新型コロナ感染防止のためにオンラインにて2回開催されたが、大学院生が運営に参画し、充実した内容で行われ、参加者の増加に繋がった。

**進路に悩む学生のための
キャリア・就職活動セミナー**

キャリアセミナーでは、就活指導の経験豊富な講師の方をお招きし就職活動の方法やポイントをご講演頂きます。
卒業生による講演では、産学官の各方面で活躍されている博士5年一貫コース修了生の生の声を聞けるチャンスです!!

キャリアセミナー講師：松坂 暢浩
山形大学学術研究院(学士課程基盤教育機構)

卒業生：フレックス大学院修了生

【日時】2020年7月17日(金)
13:00~13:05 セミナー開催概要説明・諸注意
13:05~13:50 キャリアセミナー
13:50~15:00 卒業生による講演

【場所】Zoomによるオンライン形式(参加URLは参加申込者へのみ通知)

【対象】博士5年一貫コース生、博士後期・前期課程学生、
研究員(ポストドクター)、大学院進学を考える学部生

【事前申込方法】ifront.careerseminar@gmail.com宛 本文に「氏名、所属(専攻)、学年」、件名に「キャリア就職セミナー参加申込」を記載し送信

【問合せ先】フレックス大学院 事務室(1号館102)
内線: 3834 / Email: ifront@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

主催 博士課程5年一貫教育プログラム「フレックス大学院」及び
共催 米沢キャンパスキャリアサポートセンター
文部科学省ダイバーシティ推進戦略イニシアティブ事業

1回目チラシ

**博士学位を目指す学生のための
キャリア・就職活動セミナー**

本セミナーでは、博士一貫コースの修了生と就職活動を経験した学生(現D3生)をお招きし、実体験に基づくお声も交えていただきながらご講演いただきます!
卒業生による講演では、産学官の各方面で活躍されている博士5年一貫コース修了生の生の声を聞けるチャンスです!!

講演者
・梅本和輝さん(現D3生)
・宮根聡さん(出光興産株式会社)
・菅野亮さん(スリーエムジャパンイノベーション株式会社)

【日時】2020年11月27日(金)
16:00~16:05 セミナー開催概要説明・諸注意
16:05~17:20 先輩方による講演
17:20~17:30 質疑応答

【場所】Zoomによるオンライン形式(参加URLは参加申込者へのみ通知)

【対象】博士5年一貫コース生、博士後期・前期課程学生、
研究員(ポストドクター)、大学院進学を考える学部生

【事前申込方法】ifront.careerseminar@gmail.com宛 本文に「氏名、所属(専攻)、学年」、件名に「キャリア就職セミナー参加申込」を記載し送信

【問合せ先】フレックス大学院 事務室(5号館4階)
内線: 3834 / Email: ifront@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

主催 博士課程5年一貫教育プログラム「フレックス大学院」及び
共催 「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」コース
米沢キャンパスキャリアサポートセンター
ダイバーシティ推進戦略イニシアティブ事業

2回目チラシ

⑥-3 | 連携機関留学プログラム

プログラムの目的

本プログラムの目的は、連携機関に所属する異なる研究環境・背景を有する女性研究者、および未来の研究者となりうる学生との交流により、ワーク・ライフ・バランスを保ち、そして成長し続けていくための環境づくりを促進することにある。

開催中止

本プログラムは、大日本印刷株式会社の研究開発センター（千葉県柏市）、つくば総合開発センター（茨城県つくば市）、市谷加賀町ビル（東京都新宿区）の3ヵ所にて実施するものである。これら3地区における新型コロナウイルスの感染者数の状況を鑑み、開催は好ましくないと判断し、今年度の連携機関留学プログラムは中止とした。

7 広報活動等

【ホームページ】

事業の一層の理解と制度の利用促進のため、ホームページの更新を定期的に行った。特にセミナーやシンポジウムの案内に力を入れ、参加を促すためにホームページからWEB申込みが出来るようにした。令和3年1月にホームページのリニューアルを行った。

【ニュースレター】

山形大学男女共同参画推進室発行のニュースレターにはダイバーシティ事業の実施報告なども掲載した。

【パネル展での広報】

山形大学男女共同参画フェスタは、新型コロナウイルス感染防止のため、中止した。

【新聞報道】

女子中高生理系進路選択支援事業について、次の記事が紹介された。

- ・令和2年6月28日 山形新聞
「理工系女子 増加に力 山形大のプログラム採択」
- ・令和2年8月13日 読売新聞
「理・工学部も女子いるよ 高校生に助言、偏見解く」

【全国ダイバーシティネットワーク組織ウェブサイト】

平成30年11月に「全国ダイバーシティネットワーク組織」が設置され、令和元年にウェブサイトOPENeDが開設された。本学の取組が参考事例として掲載されており、「取組事例集2019年」も発行された。令和元年度より、山形大学の女性研究者採用情報をリンクしている。

令和2年度は、本学が東北ブロック南東北会議リーフレットを作成し、南東北ネットワークの構築に努めていることが紹介された。

さらに、今年度は、本学の河合寿子氏（理学部 助教）が、全国ダイバーシティネットワーク組織ウェブサイトのコラム「女性研究者の声」を執筆し、これから妊娠・出産・育児を控える女性研究者や、研究者を目指す女性のロールモデルとして河合氏本人の経験を伝えた（令和2年9月15日）。

<https://www.opened.network/column/column-0025/>

8 評価

8-1 | 外部評価委員会名簿・委員会内容

設置の経緯

山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター及び山形県立米沢栄養大学が共同で実施するダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）事業に関し、外部の有識者から意見をいただき事業をより円滑に実施するために、平成27年11月25日ダイバーシティ事業の代表機関である山形大学にダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）事業に関する外部評価委員会が設置された。

評価委員は、次のとおり（敬称略）。

令和2年4月1日現在

推薦機関	氏名	現職等
山形大学	小館香椎子	日本女子大学名誉教授・電気通信大学特任教授
大日本印刷株式会社 研究開発センター	木村 文雄	近畿大学建築学部 教授
山形県立米沢栄養大学	大泉 享子	山形県労働委員会委員

第1回目の委員会は、平成28年2月24日に山形大学事務局棟第一会議室（山形市小白川キャンパス）において、第2回目は、平成29年2月14日に会場を山形大学男女共同参画推進室米沢分室が所在する山形大学米沢キャンパス（米沢市）に移し、それぞれ開催された。第3回目は、平成30年1月29日に前年と同様に山形大学工学部百周年記念会館セミナールームで開催され、文部科学省による中間評価ヒアリングの報告を行い、これまでの成果を確認し、後半の事業をさらに進展させるためにご意見を賜った。また、時限到来時（原則3年）において内容等を見直すことと規定されている、以下の規程の一部改正措置について報告を行った。

- ・山形大学男女共同参画推進に関する規程
- ・山形大学男女共同参画推進米沢分室規程
- ・山形大学ダイバーシティ連携推進会議規程
- ・ダイバーシティ事業に関する外部評価委員会規程

この結果、外部評価委員会は令和2年度末まで3年間延長して継続されることになり、外部評価委員は「各機関が推薦する有識者2名」から「各機関が推薦する有識者1～2名」に改正され、令和元年度から合計3名の有識者に委嘱することになった。

外部評価委員会の概要

平成30年度以降も連携体制を維持し、基本的な事業を継続しているが、財源による運営になったことから一部見直しを行った。その中で、ダイバーシティ連携推進会議（持ち回り）を平成30年10月23日に開催し、外部評価委員会を持ち回り会議にすることについて協議し、承認された。

1 通知

令和2年12月2日付けで、昨年度と同様に、令和2年度ダイバーシティ事業に関する外部評価委員会（持ち回り）の開催について下記のとおり通知し、外部評価委員に評価書の提出を依頼した。

令和2年度は、3人の外部評価委員の全員が成果報告のためのシンポジウム（11月10日オンライン開催）に参加され、6年間の事業報告について理解を深めていただいた。このたびの外部評価委員会では、シンポジウムの事業報告を資料とし、改めて質疑と評価をお伺いした。

（1）日程

- | | |
|--------|-------------------------------------|
| 12月2日 | 外部評価委員に対して文書による事業報告の提出 |
| 12月21日 | 各委員より評価書を受領 |
| 1月18日 | 質問・意見などに対する回答書を提出
外部評価書を活動報告書に掲載 |

（2）外部評価委員会への事業報告

- ①6年間の事業報告
- ②取組事業に対する質疑
- ③全体評価

（3）添付資料

資料_令和2年度外部評価委員会_事業報告

2 評価書

令和2年12月に小館香椎子委員、木村文雄委員、大泉享子委員の3名から評価書を作成いただき、受領した。その後、各機関より質問・意見などに対する回答書を委員へ送付するとともに、連携機関で内容を共有した。このたびの外部評価委員会では、今年度で事業期間が終了することから、6年間の事業の成果と今後の継続性に関して幅広い視点からご意見をいただいた。委員の皆様には本事業の目標達成に向けてこれまでの確なご指摘とご助言を賜ってきたことに対し、心より感謝申し上げたい。

3 主な質疑・回答

質疑：小館委員

本プロジェクトの特徴である企業との連携が2つの大学機関および事業全体へ与えた事項および成果について教えていただきたい。

回答：山形大

本事業の企業連携の特色は、サービスデザイン手法を取り入れた研究力の向上やリーダー育成を図る役割を担い、産学連携の研究を促進したことであり、中間評価でもこの点が高く評価されている。

サービスデザインプロジェクト（共創ワークショップ）では、サービスデザインの思考・手法を用いて女性研究者が自ら研究したいと思えるような共同研究テーマを創出することと、プロジェクトをとおして女性研究者の研究力向上を図った。事業の後半では、前半の研究成果を生かし、COIとの共同研究・社会実装に取り組んできた。なお、サービスデザインの研究手法については、人文社会科学部などに普及を図っており、工学部では毎年授業に取り入れている。

自己啓発合宿では、連携機関に所属する女性研究者を対象とし、研究開発能力、マネジメント能力、マーケティング能力を向上させ、女性リーダーを育成することを目的としたセミナーを開催していただいた。参加者には、共同研究代表になって活躍している女性研究者もいる。さらに、交換留学では、女性大学院生が先進企業の研究やそこで働く女性研究者と出会い、女性研究者を目指すことに繋がった。

回答：大日本印刷

まずは、企業と大学機関の研究者との交流により、意識の向上、および視野が広がったことにより研究課題の解決へ向けた考え方、プロセスの選択肢が増え、研究の成果へと着実に結びついているといえる。これは、山形大学における本事業における共同研究の成果でも見て取れる。

また、女子学生との交流にも力を入れたことにより、未来の女性研究者を増やすことに着実に繋がったと考えている。大日本印刷にて主催をした交換留学においては、参加した学生からの口コミにより年々希望者が増え、参加した者の中には、研究者として進むことを決意した学生もおり、効果の高い取組であったといえる。

回答：栄養大

企業との連携としては、交換留学プログラムの実施をとおし、本学学生のDNP訪問や、DNP研究者の本学への受入を行っている。訪問した学生からは、充実した女性研究者への支援体制を目の当たりにして、研究者としての道を歩んでも、ライフイベントで断念されることはないことがわかったなど、社会に出て活躍する自信と意欲が高められたといった成果が見られている。

質疑：大泉委員

今後も研究環境を維持し研究力を強化することを継続し、女性研究者の活躍を支援していき、更に研究成果を発展させ産学連携に結び付けていって欲しい。そのためには、共同研究・プロジェクトをリードするコーディネート能力を強化するための環境整備を進めていくことも重要である。

回答：山形大

共同研究・プロジェクトを推進するコーディネート能力を向上させる場が、COI連携、社会実装会議（国際事業化センター、研究支援課を含む）、地域連携プラットフォーム会議（行政、企業、研究機関、市民など）、全国ダイバーシティネットワーク会議（企業、大学など）だと考えている。特に、COI若手・女性研究交流会や社会実装会議から新たな共同研究を創出しており、今後も充実し

ていきたいと考える。

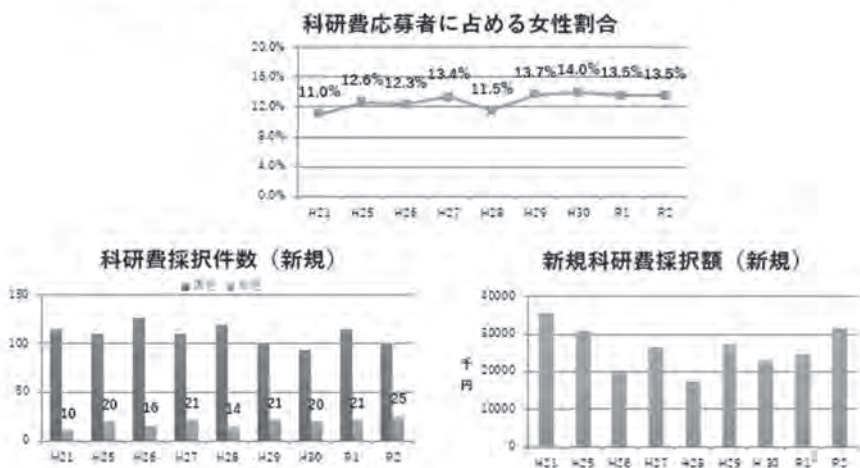
回答：栄養大

本学では地域連携・研究推進センターを設置し、地域連携や共同研究事業に取り組んでおり、女性研究者も積極的に参画しているところです。こうした取組みを更に推進するためにも、コーディネータ能力を高める方策について、連携機関の取組みも参考にしながら検討していきたいと思います。

<質疑：山形大学の科研費の応募件数等の推移>

外部資金獲得状況の推移 (1)

女性研究者の科研費応募者数、新規採択件数、新規採択額は横ばい、もしくは微増傾向だが・・・



外部資金獲得状況の推移 (2)

- ・ 科研費新規採択者における女性割合は増加傾向にあり、採択率（新規）は、男性研究者を上回っている。
- ・ 外部資金獲得への応募、さらには、より大きな資金獲得への挑戦を奨励する取り組みが必要。



4 全体評価

小舘香椎子 委員

山形大学の優れた研究成果である「有機エレクトロニクス」を活用した未来生活創造への女性研究者の参画をタイトルとして、数代の学長を中心として3機関の連携を牽引し、6年間の地道かつ精力的な事業展開により十分な成果を残されたと高く評価できる。事業後半COIとの連携により、中間評価で指摘された有機エレクトロニクスに関するテーマとの関係性の改善は図られてはいるが、連携機関への波及効果などは未だ達成できていないように思われる。例えば、共同研究成果の学会での発表・採択論文に「有機エレクトロニクスの活用…」などの公刊を期待したいと思う。

一方、山形県内さらに全国的なダイバーシティネットワークはじめ地域連携活動など男女共同参画推進のための活動の牽引の役割を果たしており、この点も大きな成果であると評価する。従って、事業終了後の継続基盤はすでに構築ができていますので、機関からの経費予算と女性研究者の育成強化が当面の課題ではないかと思う。

今後の課題は、女性研究者の活躍のための環境整備とともに、研究能力の向上のための仕組みづくりを連携機関と共に検討することも期待している。それが本来のリーダー育成につながっていくことになるだろう。

木村文雄 委員

3機関が連携して女性研究者の登用増加を目標として、それを推進するための環境整備を進めてきたことは高く評価できる。結果的には初期の目標数値には届かなかったものの、一般教職員への意識づけには貢献したと考えられる。

しかし山形大学での離職調査で女性離職者34名中、23名が他機関で活躍しているという事実は、本人にとっては望ましいことなのかも知れないが、大学にとってどうなのかを検証すべきである。知が流出したことに間違いはないわけで、そのようになってしまう根本原因を調査し解決しない限り傾向は変わらない。

環境整備の面では、山形銀行と山形大学が連携した、企業主導型保育所の設置は意義が高く、今後も推進して欲しい。

またCOIとの連携を推進されたことは高く評価できる。産学官で連携し研究開発から社会実装までを目標としているCOIと連携したことの意義は高く、事業終了後も継続していくことをお願いしたい。

大泉享子 委員

女性研究者が活躍できる環境の整備や関係機関との連携体制の構築が進み、結果として研究力の向上や女性研究者の増、上位職の登用が進んでいることは大きな成果であると思う。

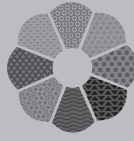
今後も研究環境を維持し研究力を強化することを継続し、女性研究者の活躍を支援していき、更に研究成果を発展させ産学連携に結び付けていって欲しいと思う。

そのためには、共同研究・プロジェクトをリードするコーディネート能力を強化するための環境

整備を進めていくことも重要であると思う。

また、女性の理工系研究者のすそ野である理工系学部生や理工学研究科生を増やしていくことも重要であり、理工系に関心を持つ女子中高生の育成に引き続き力を入れていただくことを願う。

IV. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)の6年間の事業成果



DIVERSITY

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)

6年間の事業成果

有機エレクトロニクスを活用した
未来の生活創造への女性研究者の参画

国立大学法人山形大学
DNP 大日本印刷株式会社研究開発センター
山形県立米沢栄養大学

1

目次

- I 本事業の概要
- II 前半の取組
- III 中間評価後の取組
- IV 事業の成果と課題
- V 事業終了後の継続性

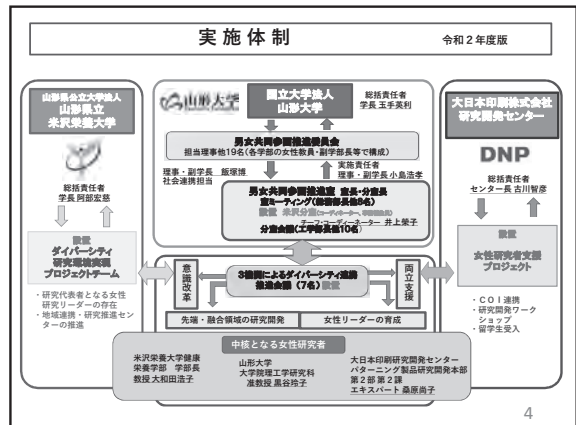
2

I 本事業の概要

令和2年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)
実施期間：平成27年度～令和2年度

選定時コメント
3機関の強みを活かし既存の連携を超えより密接な連携体制を構築し、工学系分野のみならず自然科学系の広い分野において女性研究者の上位職への登用(教授、准教授)を進め、その活躍促進を図ることを期待する。

3



科学技術人材育成費補助事業(平成27年度～令和2年度) ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)ロードマップ

平成27年度 平成28年度 平成29年度 平成30年度 令和元年度 令和2年度

女性研究者の増加
*女性登用率 H26 14.4% R2 17.5%

COIとの連携
セキナー・シンポジウム
の共催・参加
COI相手・女性研究者研究交流会
地域連携プラットフォーム会議

5

平成27年度の課題と目標

	山形大学	大日本印刷	山形県立米沢栄養大学
目標	<ul style="list-style-type: none"> 山形大学の将来構想(平成27年1月策定)「男女共同参画を推進するため、ワークライフバランスの実現と女性活躍の意図に向けた人材育成を推進し、小中計(19年度～33年度)組織運営の改善に関する目標「男女共同参画による多様な人材を活用し組織運営を改善」(女性教員が定員70%以上に向上させる)。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康・安全・有機エレクトロニクスなどの社会的ニーズの拡大と、女性が専業主婦生活で働くことへの意識を促進し、女性研究者と上位職女性研究者の割合を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画の推進に向けて、必要な研究環境を構築し、WLBに関する支援等を推進して、女性研究者の定着及び上位職女性の割合を増やす。
数値目標	<p>女性教員…現状 8年度 13.1%→17.0% (111人) (144人)</p> <p>女性上位職…現状 8年度 10.8%→14.1% (68人) (88人)</p>	<p>女性研究者…現状 8年度 18.8%→19.5% (71人) (83人)</p> <p>女性上位職…現状 8年度 11.7%→16.2% (24人) (46人)</p>	<p>女性教員…現状 8年度 41.2%→47.1% (7人) (8人)</p> <p>女性上位職…現状 8年度 33.3%→47.1% (5人) (8人)</p>
現状分析	<ul style="list-style-type: none"> 大学に占める工学系教員の割合が高い(33.4%)が、文理(24.0%)と最も低いことが学内の女性教員比率を引き下げている。工学系教員への応募者に対する採用率は、17%で、他学系よりも10%以上低い割合となっている。 令和2年度から、工学部女性教員もが子育てと研究を両立させており、WLBへの関心が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 専攻が高いほど女性研究者は少なく、新卒採用していない。毎年、20%以上の女性研究者を採用しては、職内・職外関係の女性研究者は33%以上を占めている。 今年、専攻別をみると理工学系研究者が多い。女性の研究能力を顕著することで、上位職登用が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康実態等においても女性研究者の多い分野で女性教員も多い。ただし他学系は女性に占める割合が高い。 女性研究者全体の割合は増加しているが、WLBが個人・個人が個別に整備を必要とする。 女性研究者や教授が研究代表として活動の共同研究を進めており、上位職への登用が期待できる。

6

II 前半の取組

- 密接な連携体制の構築
- 女性研究者が活躍できる環境整備の完了
- ライフイベントに配慮し、諸制度の複数利用
地方の女性研究者特有の悩みに有効
- 研究力強化
 - ・共同研究の促進、特許（6件出願）
 - ・サービスデザインプロジェクトで研究力向上
 - ・女性研究者研究成果発表会
- 上位職登用
 - ・自己啓発合宿の開催
 - ・メンター制度

7

女性研究者が活躍できる環境整備

8

サービスデザインとは

9

III 中間評価後の取組

中間評価 平成30年3月 総合評価：A

特色あるテーマを掲げ、3機関が連携して女性研究者の活躍促進のための基盤整備、異分野交流、研究力強化を進めた。共同実施機関で実践する「サービスデザイン」の手法を取り入れ、女性研究者による工学系分野の産学連携研究を促進し、研究力強化を図る所期の計画を着実に実施し、研究成果の実用化も図っており、また中間評価時点での数値目標も概ね達成して評価できる。

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
A	a	a	b	a	a

10

中間評価コメント

- ・目標達成度：
代表機関においては女性研究者の在職比率が目標をやや下回っており、女性研究者の増加に向けた一層の取組を期待する。
- ・取組の成果：
「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」という特色あるテーマの下、3機関が連携したことの成果、他機関への波及効果が十分見えない。今後は、当該テーマに沿った事業展開を期待する。

補助期間終了後も申請時に計画した自己負担額を大幅に超える予算を確保し、取組の継続性・発展性を確保する計画となっており、評価できる。今後は、各連携機関の優れた取組が3連携機関全体、さらに他機関へも波及するよう、さらなる工夫を進めることを期待する。

11

自主経費による研究環境の維持、研究力強化

12

3 機関による共同研究の継続と社会実装化

2020年度 女性代表共同研究
サービスデザインのIT開発と栄養指導への活用
三原法子(教育)+工学・教育・COI+栄養士
適正な減量食品提供のためのモバイル食品物性評価ツールの開発(継続)
三原法子(教育)+工学・栄養士
加齢・神経変性が味覚・味覚障害を呈する認知症を捉える
伊藤千直(医学)+DNP
新発生理活性物質 SODGARA の食物アレルギ 改善メカニズムの解明
黒谷玲子(工学)+栄養士
中山園地における山菜のふるさと資源化と地域振興の効用に關する調査・研究
渡辺雅純(農学)+栄養士
有機/無機ナノ多層膜の界面プロセスによるフィルムデバイス用耐熱層の開発
吉田麗華(COI)+DNP

サービスデザインプロジェクト
山形の女性に役立つサービスアイデア・研究の種の創出

➡ 「サービスデザインのIT開発と栄養指導への活用」
女性研究者・COI研究者の共同研究、山形県栄養士の協力

13

山形大学独自の支援拡充

● 山形銀行と連携した企業主導型保育所
H30年「つばみ」開所*山形大3つ目の保育所
女性・男性研究者の利用、
山大・山形銀行職員の利用、
地域枠設定
地域のWLB・働き方を先導

● 学部長等の女性管理職支援
(学部長等業務のための保育サービス利用料補助)

平成31年4月に山形大学初の女性学部長就任

14

山形県内のダイバーシティネットワークの実現

大学コンソーシアムやまがた
H30年発足 「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」

15機関
事業参加者
累計73名!

セミナー・シンポジウム共催、女性研究者の交流
男女共同参画アンケートの継続、情報交換

15

全国的なダイバーシティネットワークの拡充

全国ネットワーク中核機関（群）
H30年採択

https://www.opened.network/
ネットワーク参画の魅力
・東北ブロック学習会への参加、
ブロック内の情報交換や交流
・全国のグッドプラクティス共有
・全国ウェブサイトによる
情報収集、交流、情報発信
*参加無料、負担等なし

➡ 幹事大学として南東北のネットワーク構築めざす
東北ブロック南東北会議 山形大学で2回開催 H30.R1

16

ダイバーシティ環境実現共同宣言 南東北会議の学長宣言

令和2年7月「南東北会議リーフレット」発行 (40機関に送付)

～ダイバーシティ研究環境実現のための共同宣言～
私たちは、全国ダイバーシティネットワーク構築東北ブロック南東北会議を創出し、各機関と東北地域におけるダイバーシティ研究環境実現のため、以下の取組を推進することを宣言します。

1. ダイバーシティを実現するための研究環境の整備とワークライフバランスの確保
2. 女性研究者の活躍促進の向上と大学経営における女性参画の拡大
3. ダイバーシティを推進するネットワークの形成と地域社会との連携

2020年7月27日

東北大学	学長	大野 実
山形大学	学長	宇野 実
山形県立中央病院	学長	村野 敏
福島県立医科大学	学長	竹之下 謙一
宮城大学	学長	川上 伸
仙台高等専門学校	校長	藤村 裕史

東北ブロック 南東北ネットワークの拡大
H30 豊後大学、山形大学、岩手県立大学、福島県立医科大学
H2年11月時点 山形県内大学コンソーシアム 6機関が新たに参画、計8機関（東北23機関）

17

事業後半におけるCOIとの連携強化

● 山形大学のCOI(フロンティア有機システムイノベーション拠点)

2012～2021年
「未来の心豊かで快適・健康な生活・社会の実現」
文部科学省と科学技術振興機構が推進。未来の日本が目指すべき姿をテーマにした産学連携の研究開発。

出典：山形大学COI

18

COI連携と地域連携プラットフォーム会議



COI連携の基本方針

- 幅広い分野の女性研究者の参画、価値創造
- サービスデザインの研究成果の活用、社会実装
- 女性研究者や若手研究者の支援、次世代育成

地域連携プラットフォーム会議
「健康長寿日本ー 米沢市民会議」
2018年度～

シンクタンク機能
研究の活用と社会実装
地域の企業・行政・市民との連携
ダイバーシティ事業の波及

第1回「地域連携プラットフォーム」会議 発足
2018年3月14日(水)
「女性や若者が活躍できる元気な地域づくりの推進について」

19


女性研究者が参画した地域づくり

第2回地域連携プラットフォーム会議
R2年8月28日

米沢市民会議関係者が多数参加
米沢市健康福祉部健康課7名
米沢市産業部、米沢ブランド戦略課、観光課など4名
米沢市企画調整部総合政策課 2名
米沢市健康長寿市民会議1名
小野川温泉組合5名
小野川地区女性市民 2名 計 21名

第3回地域連携プラットフォーム会議
小野川温泉座談会 R2年7月30日
With コロナ時代のまちづくり

実証研究スタート
COIベッドセンサを活用した
小野川温泉と睡眠に関する研究
女性・COI研究者、米沢栄養大学研究者



20

COI 地域連携プラットフォーム会議 「小野川温泉のまちづくり」

2019年4月 第2回プラットフォーム会議
米沢市民会議・温泉関係者が多数参加
資料の貸し借り、COIへの活用等!

2020年7月 第3回プラットフォーム会議
With コロナの観点から「小野川のまちづくりPart2」
温泉と睡眠の関係など、COIの活用について話し合う

2020年11月 小野川温泉での睡眠実証研究
COIで実証した「睡眠データ」
最新結果を、小野川温泉組合へ
資料の貸し借り、COIへの活用等!

2021年1月 小野川温泉組合との連携
COIを活用した「睡眠実証研究」
最新結果を、小野川温泉組合へ



21

COI若手・女性研究者交流会と社会実装会議



令和元年度COI共催 3機関合同シンポジウム
令和元年11月19日
有機材料システムフロンティアセンター-米沢ホール
豊かな健康長寿社会をめざして
・女性研究者の成果報告
・市民、健康関係の行政・企業など78名参加

令和元年度COI若手連携共催
若手・女性研究者交流会の開催

社会実装会議に発展
令和元年度～2年度 6回開催

COIと多様な女性研究者の共同研究
工学、医学、栄養学、教育など参加拡大
+国際事業化センター、山形県栄養士会の参加

ダイバーシティの必要性

22

COIと多様な女性研究者の共同研究・社会実装 R2年度

- 栄養「サービスデザインのIT開発と栄養指導への活用」
三原法子 (地域教育文化学部・講師)、大和田浩子 (米沢栄養大学・学部長)、黒谷玲子 (理工学研究科・准教授)、原田知穂 (COI 理工学研究科・助教)、石塚和恵 (地域教育文化学部・准教授)、山形県栄養士会 (協力)
- 赤ちゃんと睡眠 「生理学的指標を用いた乳幼児研究拠点」
YU-COE (山形大学先進的研究拠点) 採択
本島優子 (地域教育文化学部・准教授)、熊木大介 (COI有機エレクトロニクス研究センター・准教授)
- 認知症と睡眠 「非拘束ベッドセンサによる神経変性疾患・認知症の睡眠覚醒リズムのモニタリング」
太田康之 (第三内科・教授)、伊関千香 (第三内科・講師) 時任静士 (COI有機材料システム研究科・教授)、熊木大介 (COI有機エレクトロニクス研究センター・准教授)

23

後半の成果のまとめ COI連携・ネットワークによる連携体制

ダイバーシティの推進

地域への波及

全国ダイバーシティネットワーク総裁
東北ブロック会議
大学コンソーシアムやまがた
ダイバーシティ推進ネットワーク会議
山形大学
米沢栄養大学
山形大学 COI連携
大日本印刷株式会社 研究開発センター

価値の創造

24

IV 事業の成果

●女性研究者の在職比率・上位職比率

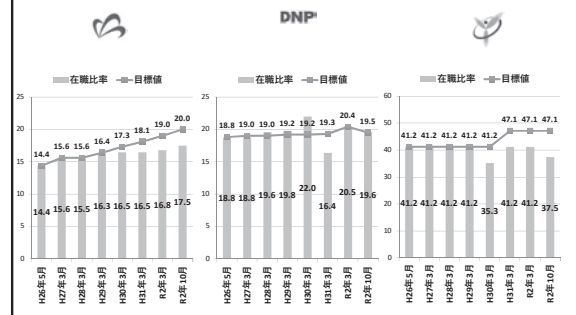
R2年10月現在
17.5%

令和元年度末

機関名	在職比率			上位職比率(*)		
	目標	実績	最終目標	目標	実績	最終目標
山形大学	19.0%	16.8%	20.0%	13.4%	13.0%	14.1%
大日本印刷	19.4%	25.8%	19.5%	15.8%	17.0%	16.2%
栄養大学	47.1%	41.2%	47.1%	47.1%	41.2%	47.1%

* 講師以上

各機関の女性研究者の在職比率 R2.10現在



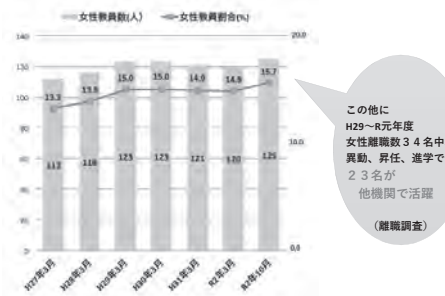
大日本印刷研究開発センターの成果

- <成果>
- 共創ワークショップによって、参加者に「共創力」が着実に身に付いたことはもちろんのことであるが、波及効果により周囲の研究者にもよい影響が与えられている。昨年度、研究開発センター内にて開催された新しい製品・サービスを生み出すためのアイデアコンテストに、「体験価値」を重視したものが数多くエトリートされたことから、その成果を伺うことができる。
 - 自己啓発合宿においては、参加者が未来のありたい姿を明確に宣言し、それを達成するために、チームの中で果たすべき役割、そしてどのようなリーダーシップをとっていけばよいのかを学び、各人、職場でその力を発揮している。
 - これらの学びを、異なる環境下におかれている研究者と共に得たことで、新たな価値観や物事の捉え方など、より一層の研究力の向上に繋がったと考える。
- <事業の継続性>
- 研究開発センター、および大日本印刷全社研修との整合性をとりつつ、自己啓発合宿をキャリア育成教育として継続していく。

米沢栄養大学の成果と継続性

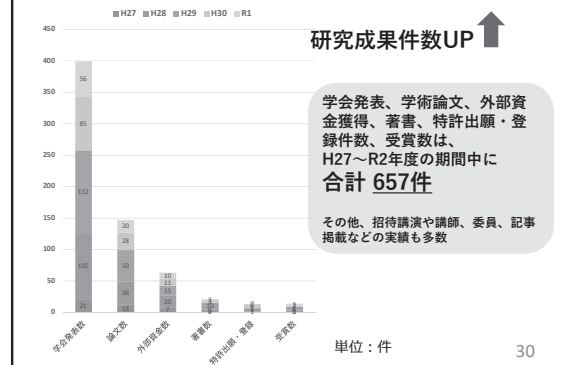
- <成果>
- 設定した数値目標について、最終年度である本年度の現状としては、いずれも目標に届いていないが、平成30年度以降は、女性研究者が全て上位職となっているほか、学部長、学生部長からなる学内理事は、本年度から2名とも女性が就任している。
 - また、取組期間中に本学を退職した女性研究者2名は、いずれも他の大学に昇任を伴い異動したものである。
 - これらのことを踏まえると、リーダーの育成や研究力の向上といった点で成果は現れてきていると認識している。
- <事業の継続性>
- 本学では、本年度、①研究支援員の配置、②外部資金獲得セミナーの開催、③研究成果発表会の開催の、3つの取組みを実施している。
 - これらの取組みを可能な限り継続していきたいと考えているが、予算措置を伴うものもあるため、今後の学内での予算要求のプロセスの中で、事業化について整理する必要がある。

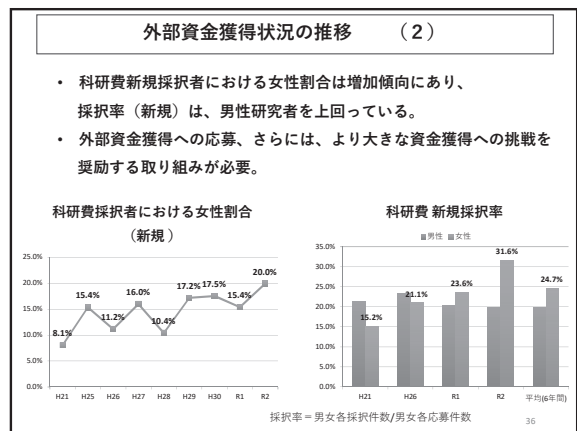
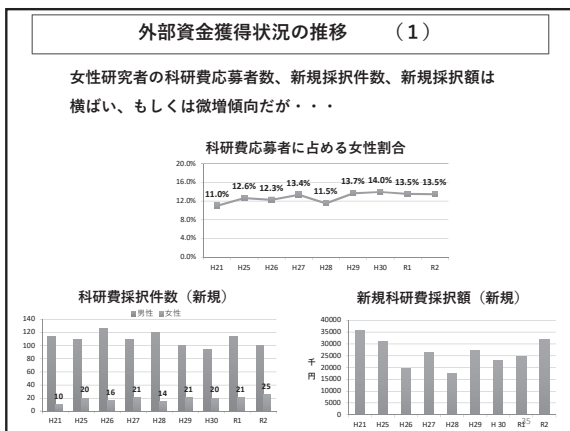
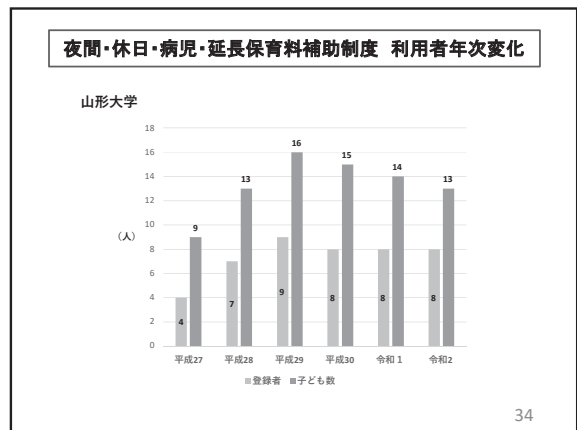
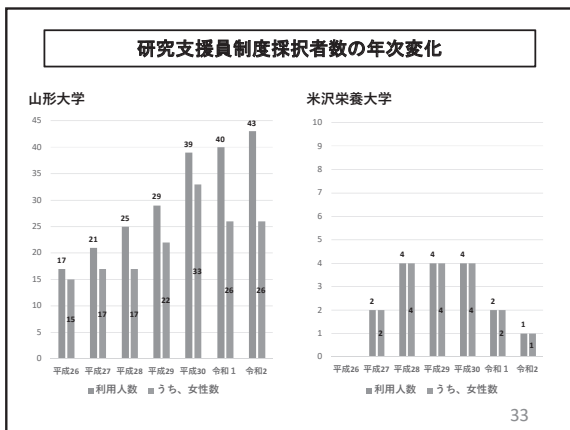
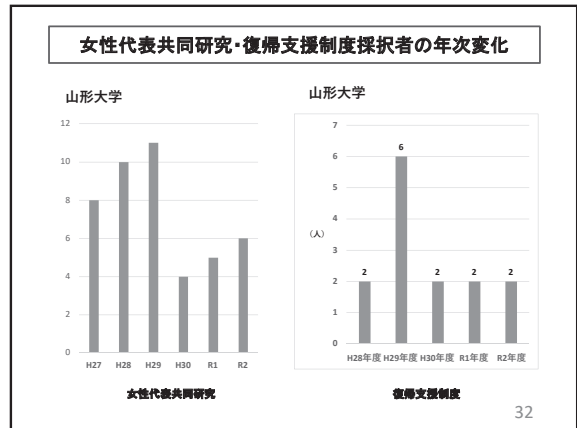
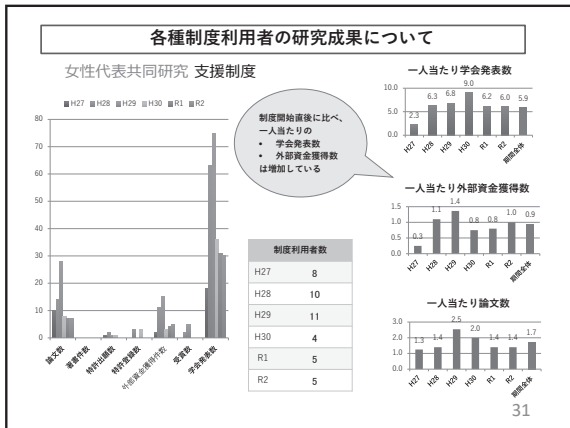
山形大学の成果・・・女性教員数の推移（助教以上）



※教員数の減少について・・・本事業の選定後、文部科学省の平成28年度開始の第3期中期目標・中期計画で教員削減計画(人件費毎年1%減)が策定されたため

各種制度利用者の研究成果について





女性教員採用における課題

全体的に教員が毎年減少、他機関への異動(地方大学の悩み)

女性教員採用割合(%) ← 山形大学目標値(%)

離職教員に関する調査(令和元年度)

R元年度は女性教員の10名が離職し、内訳は、
 ●他機関への異動・進学(8名) 定年(1名)
 ●定H29年度から累計23名が他機関で活躍

離職した理由(助教以上)	合計	男性	女性	
	人数	%	人数	%
定年	15	25%	14	29%
他機関への移動(大学・教育機関)	12	20%	10	20%
他機関への移動(他の公的・民間機関)	23	39%	20	41%
他機関への移動(その他の公的・民間機関)	4	7%	2	4%
進学	1	2%	0%	1%
未定・不明	4	7%	3	6%
合計	59	100%	49	100%

37

課題への対応① 女性限定・女性優先公募の実施

(令和2年10月1日調査) 令和2年度4月～10月 女性限定8件、女性優先5件、男女共同参画を推進している旨の記載15件 → 女性教員16名採用

採用情報をOPeNeDにリンク
 令和2年.10.29 HP画面
 女性限定
 理学部5名、農学部1名、教育1名

インセンティブ付与
 平成27年度より前年度比アップ50万円

女性教員比率向上へのインセンティブ付与一覧表(平成28年度～)

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
地域教育文化学部 50万円	人文社会科学部 50万円	人文社会科学部 100万円	地域教育文化学部 50万円	工学部 100万円
理学部 50万円	地域教育文化学部 50万円	理学部 50万円		
理工学研究所 100万円	工学部 100万円	産学教育機構 50万円		
	理学部 100万円			

38

課題への対応② 新たな対応策の実施

- 無意識のバイアス
 採用などの様々な場面で影響を及ぼす「無意識のバイアス」(誰もが潜在的に持っている偏見)
 チェック機能を導入
 定期的に点検
 令和2年9月
 全キャンパスで実施
 セルフチェックをHPに掲載
- ダイバーシティ枠の創設! 令和3年度より
 若手採用と合わせ、年齢制限なく女性教員と外国人教採用

39

課題への対応③ 令和2年度女子中高生理系進路選択支援事業採択

理工系に関心を持つ女子中高生の育成 女性研究者、女子大学院生の活躍
 山大JOINへ登録者アップ

中学・高校へ出前講座・探究学習の指導

「やまがた未来Girlsプロジェクト」
 ～人間力向上を目指す女子中高生を支援する～

女子中高生を支援する女子中高生を支援するプロジェクト

女子中高生を支援する女子中高生を支援するプロジェクト

新聞掲載2回

日本学術会議 R2.9.15
 公開シンポジウム発表: 理数系教育とジェンダー

40

V 事業終了後の継続性

第2次山形大学男女共同参画基本計画(令和2年度～令和11年度)

- より高い目標を掲げ、性別等にかかわらずに活躍できる研究環境づくり
- 大学及び各キャンパスが一体となって計画的に推進する体制

男女共同参画及びダイバーシティ推進のため、以下のことに取り組む

1. 教職員等の男女機会均等の実現・格差の是正
2. 教育・研究及び就労と家庭生活との両立のための環境作り
3. 意見・要望等をくみ上げ、共有するシステムの整備
4. 意識改革の促進
5. 女性研究者の裾野拡大
6. 教育・研究の充実
7. 学内の調査・分析・統計等の情報提供
8. 地域社会等との連携

令和3年度以降
 米沢分室の継続が決定
 (R2.11.25委員会)
 ⇒ ダイバーシティの推進

<教員比率・女性参画の目標>
 ・令和11年度までに、大学全体の教員の女性比率は15%以上、准教授は23%以上、女性教員比率は20%以上の達成を目指す。
 ・役員、副学長、部局長、経営協議会委員、教育研究評議会評議員は、20%以上の達成を目指す。
 ・女性教職員の人材育成のため積極的な方を推進し、管理職比率の向上に向けた登用等を積極的に行う。

41

COI連携とネットワークによるダイバーシティ研究環境の実現

事業終了後も継続

多様な分野の女性研究者の参画
 工学・医学・農学・教育等
 +DNP・米沢栄養大学
 +大学コンソーシアム
 やまがた

COI地域連携プラットフォーム会議
 地域の豊かな未来の生活創造

COI若手連催
 ◆研究者交流会
 SDGs × COI若手・女性
 ◆社会実装会議
 COI・女性研究者
 国際事業化センター
 +地域の関係者

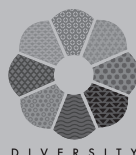
ダイバーシティ波及

ダイバーシティネットワーク
 東北ブロック会議
 ゲッドプラクティス共有・研究交流

第2次山形大学男女共同参画基本計画
 R2年4月施行 男女共同参画・ダイバーシティの推進

42

V. 資料編



① | ダイバーシティ事業3機関の進捗状況

平成27年度文部科学省科学技術人材育成費補助金「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（連携型）」に本学、大日本印刷株式会社研究開発センター及び山形県立米沢栄養大学における事業が採択された。以下に、連携3機関の進捗状況を示す。

1 山形大学の事業進捗状況報告

令和3年1月18日

1. 目的

山形大学の特色である有機エレクトロニクス研究及び実証ハウス研究におけるこれまでの実績を活かし、共同実施機関と協働して女性研究者が参画する共同研究を推進するとともに、研究スキルアップ支援、リーダーシップ育成、裾野拡大の取組を進め、自然科学系分野を中心に女性研究者の採用と上位職階の女性教員の積極的な登用を実現する。

2. 本年度の事業の項目及び内容

○取組期間における女性研究者在職者数、在職比率、採用比率

	在職者 (助教以下)	在職者数 (講師・准教授以上)	在職者数計	在職比率	採用比率
平成26年5月1日現在	73	68	141	14.4%	20.8% ⁽¹⁾
平成27年4月申請書	71	68	139	15.6%	20.0% ⁽²⁾
平成28年3月31日現在	70	72	142	15.6%	29.6%
平成29年3月31日現在	69	75	144	16.3%	20.0%
平成30年3月31日現在	72	75	147	16.5%	27.6%
平成31年3月31日現在	73	73	146	16.5%	25.4%
令和2年3月31日現在	75	76	151	16.8%	22.5%
令和2年10月1日現在	76	78	154	17.5%	34.1%
令和3年3月31日現在	109	89	198	20.0%	21.3%

(平成27年～令和2年は実績値、令和3年以降は申請時目標値)

※ (1)ここでの採用比率:平成25年度中の教員(任期付き含む)採用比率16.1%に研究員(常勤・非常勤の有給研究員)の比率を加味した予測比率

(2)ここでの採用比率:平成27年度末の教員・研究員を合わせた採用比率の目標数値

令和2年度の事業計画	進捗状況
(1) ダイバーシティ研究環境整備を図るための体制及び取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・3機関によるダイバーシティ連携推進会議及び大学内の男女共同参画推進委員会等の会議を適切に開催し、理解と合意を図って連携事業を効果的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2機関に新任の学長が着任し、リーダーシップを発揮して事業を継続している。また、ダイバーシティ連携推進会議（6月22日）をオンラインで開催（12名出席）し、3機関の責任者と担当者が全員出席して最終年度の目標・計画を確認し、密接な連携体制を継続することができた。 ・3機関によるダイバーシティ連携推進会議（4回）及び大学内の男女共同参画推進委員会（3回）、米沢分室会議（1回）等の会議を適切に開催し、理解と合意を図って事業を効果的に実施した。
<ul style="list-style-type: none"> ・山形大学フロンティア有機システムイノベーション拠点（山形大学COI）と連携し、未来の生活創造に3機関の女性研究者が参画し、成果を地域に波及する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山形大学フロンティア有機システムイノベーション拠点（山形大学COI）との連携を強化し、COI若手・女性研究者交流会や地域連携プラットフォーム会議をとおして、3機関の幅広い分野の女性研究者が参加し、共同研究と社会実装化を進めた。
<ul style="list-style-type: none"> ・山形県内の高等教育機関が加盟する「大学コンソーシアムやまがた」ダイバーシティ推進ネットワーク会議を通じ、本事業の成果の波及を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「大学コンソーシアムやまがた」に設置（平成30年度）したダイバーシティ推進ネットワーク会議を2回開催し、諸セミナーを公開して交流を深め、本事業を波及することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・全国ダイバーシティネットワーク組織における東北ブロック幹事大学として、南東北の大学に本事業の成果を波及する活動を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国ダイバーシティネットワーク組織の東北ブロック会議の幹事大学として南東北のネットワーク構築に取組み、山形大学長・米沢栄養大学長を含む6機関の学長による「ダイバーシティ研究環境実現のための共同宣言」を南東北会議リーフレット（7月発行）に掲載できた。このような取組の結果、南東北の参画機関が2.6倍に増加し、ネットワークを構築することができた。

<ul style="list-style-type: none"> ・開催事業毎に意見をまとめて評価を行うと共に、有識者による外部評価を受け、PDCAサイクルによる適切な事業運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催事業ごとにアンケートを実施し、意見をまとめて評価を行った。また、有識者による外部評価委員会を持ち回り会議（12月2日）で開催し、委員からの評価や質問に対し連携機関が回答し、事業の終了報告に反映した。
(2) 女性研究者の研究力向上を図るための取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・「共創型サービスデザインハンドブック」等を活用してサービスデザインの普及を教員に対して図る。 ・サービスデザインプロジェクト（「共創ワークショップ」）が創出したサービスアイデアと研究シーズを活用し、山形大学COIと連携し、社会実装を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・山形大学COIと共催し、3機関合同シンポジウム（11月10日）を開催（50名参加）して事業成果を報告し、COI若手・女性研究者交流会（「女性研究者研究成果発表会」を兼ねる）に3機関の女性研究者が参加した。
<ul style="list-style-type: none"> ・「英語論文の書き方・英語プレゼンテーションセミナー」の主催、「外部資金獲得セミナー」の共催を通じ、女性研究者の研究力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究力向上を目的とした「英語論文の書き方セミナー」（10月9日）を、小白川キャンパスをメイン会場として開催した（39名参加）。 ・米沢栄養大学（担当機関）と本学の研究支援課が共催した「外部資金獲得セミナー」（9月8日）を、オンラインで開催（138名参加）した。
<ul style="list-style-type: none"> ・女性研究者のリーダー育成に向けて、女性研究者シーズ集を活用し、新規の共同研究の成立や幅広い分野の女性研究者の活躍を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性研究者シーズ集を活用するとともに、COI共催で「社会実装会議」を4回オンラインで開催（39名参加）し、多様な分野の研究者が参加し、新たな共同研究と社会実装化を推進した。 ・サービスデザインプロジェクトの研究シーズを活用し、「サービスデザインのIT開発と栄養指導への活用」をテーマとする共同研究が成立し、山形大・栄養大の女性研究者3名と山形大COIの男性研究者1名が参加し、山形県栄養士会の協力を得て社会実装化を目指している。
(3) 女性研究者の上位職への登用に向けた取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・女性研究者が代表となる有用な共同研究への研究費支援を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性研究者が代表となる有用な共同研究への研究費支援を継続的に実施し、昨年より1件

<ul style="list-style-type: none"> ・自己啓発合宿を共同開催し、女性研究者の研究開発・研究室経営能力等の育成を図る。 	<p>多い6件(新規2件、継続4件)の共同研究に対する支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己啓発合宿(10月14日~15日、12月9~10日)は、新型コロナウイルス感染防止のため大日本印刷の社内限定で開催され、上位職を目指すための研究開発・研究室経営能力等を育成した。 ・女性学部長に就任した女性研究者1名に対して、学部長の仕事と育児等の両立支援を継続した。
(4) 連携機関等の研究者への支援を通じた好事例の展開	
<ul style="list-style-type: none"> ・育児期の女性研究者を支援するため、夜間保育や休日保育、病児・病後児保育、学童保育の利用補助制度の活用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間、休日、病児・病後児保育、学童保育制度では、利用者は女性研究者13名(登録者は女性研究者8名)であった。また、地元銀行と連携した企業主導型保育所により女性研究者への支援が充実するとともに、地域の子育て支援に貢献する事業としても評価されている。 ・ライフイベントによる研究中断からの復帰支援制度を継続し、2名の女性研究者に対する支援を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・ライフイベントと研究の両立を支援するための研究支援員制度やライフイベントによる研究中断からの復帰支援制度の周知を図り活用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフイベントと研究の両立を支援するため、前期12名、後期14名の女性研究者に研究支援員を配置した。年間では合計43名(女性26名、男性17名)の研究者が利用しており、平成27年度と比較すると2倍に達した。また、新型コロナウイルス感染防止のため、女性研究者と研究支援員の在宅勤務が普及した。
<ul style="list-style-type: none"> ・託児サポーター制度を利用した一時預かりを実施し、女性研究者等のワーク・ライフ・バランスの改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・託児業務の委託先の都合により実施していない。
(5) 意識啓発や組織改革等を図るための取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・「第二次山形大学男女共同参画基本計画」策定(2020年度)に向け、女性研究者が活躍するための研究環境整備や意識改革に関する事項を盛り込む検討を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次基本計画に基づき、無意識のバイアスに関するセルフチェックの実施、多様な性に関するガイドラインの策定、人事採用におけるダイバーシティ枠の創設など、意識啓発と

	<p>組織改革を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国ダイバーシティネットワーク組織の東北ブロック会議の南東北会議リーフレットを作成し、地区におけるダイバーシティ推進の必要性について理解を深め、6機関の学長による「ダイバーシティ研究環境実現のための共同宣言」（令和2年7月）を公表することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・7月に「大学コンソーシアムやまがた」のダイバーシティ推進ネットワーク会議と共催し、ダイバーシティ・マネージメントの必要性について理解を深める管理職セミナーを開催し、本事業の成果を他機関に波及させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症防止のために「管理職セミナー」を開催できなかったが、パンフレット・リーフレット・ニュースレターなどで山形大学男女共同参画基本計画（第2次）の周知を図った。
<ul style="list-style-type: none"> ・山形の健康で豊かな未来の生活創造を目指し、シンポジウムを3機関と山形大学COIで共同開催し、研究シーズや研究成果の発表を行い、地域に波及させる。 ・山形大学COIと連携し、同組織の女性、若手研究者の活躍促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3機関合同シンポジウムをCOIと共同開催し、会場参加とオンライン開催を併用して事業成果を広く地域に波及させるとともに、事業終了後の継続した取組について確認した。 ・COI連携による女性・若手研究者の共同研究を通して、新しい価値創造につながった。
(6) 女子学生・女性研究者向けキャリアパス支援の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・大日本印刷研究開発センターによる交換留学プログラムに、女子学生や女性研究者の参加を促し、企業の女性研究者との交流の機会を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大日本印刷研究開発センターによる連携機関留学プログラム（旧称：交換留学プログラム）は、新型コロナウイルス感染症防止のため開催できなかった。フレックス大学院と共催した女性大学院生のキャリアセミナー（7月17日、11月27日）は、本学内で2回オンライン開催した。
<ul style="list-style-type: none"> ・山形大学女性大学院生ネットワークを活用し、キャリア形成を支援し、裾野拡大を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に、山形大学が申請した「ヤマガタ 夢☆未来 Girls プロジェクト」が採択（事業期間は令和2年度～3年度）され、これまでの裾野拡大の取組がより一層充実することになった。 ・女性大学院生が山形大学女性大学院生ネットワークに登録し、女子中高生対象の出前講座などで講師として活躍した。

3. 経費執行状況（12月末時点）

（単位：円）

費目	執行状況（4～12月支出）	年度末の執行見込
設備備品費	0	0
人件費	18,641,353	26,300,000
事業実施費（保育支援含）	30,549,386	43,070,000
総計	49,190,739	69,370,000

2 大日本印刷研究開発センターの事業進捗状況報告

令和3年1月18日

1. 目的

山形大学の特色である有機エレクトロニクス研究、及び実証ハウス研究におけるこれまでの実績を活かし、共同実施機関と協働して女性研究者が参画する共同研究を推進するとともに、研究スキルアップ支援、リーダーシップ育成、裾野拡大の取組を進め、自然科学系分野を中心に女性研究者の採用と上位職階の女性教員の積極的な登用を実現する。

本事業における共同研究のテーマ創出手段として、生活者が感じる情緒的な価値体験を重視するサービスデザインの思考を取り入れたワークショップを女性ファシリテートのもと開催し、女性研究者・教員・学生が共に、有機エレクトロニクス・健康・栄養を3つの柱とした女性の考える快適で豊かな未来生活実現に向け新たな研究開発を促進し、新しい研究分野への進出につなげると共に、女性研究者の増加と上位職の登用を実現する。

2. 本年度の事業の項目及び内容

○取組期間における女性研究者在職者数、在職比率、採用比率

	在職者 (助教以下)	在職者数 (講師・准教授以上)	在職者数計	在職比率	採用比率
平成27年5月1日(実績)	42	23	65	18.4%	20.0%
平成28年3月31日(実績)	42	29	71	19.6%	36.4%
平成29年3月31日(実績)	34	30	64	19.8%	0.0%
平成30年3月31日(実績)	42	37	79	22.0%	0.0%
平成31年3月31日(実績)	30	32	62	16.4%	20.0%
令和2年3月31日(実績)	23	41	64	20.5%	22.2%
令和2年10月1日現在	28	40	68	19.6%	50.0%
令和3年3月31日	38	45	83	19.5%	20.0%

*平成27年～令和2年10月は実績値、令和3年以降は申請時目標値

*本事業計画時以降の社内組織改編に伴い、定期人事異動による他部門への転出（男女共）があり、在籍者数に影響している

*採用者数は新卒採用者、および中途採用者（年度中の人事異動分を含まない）

(1) ダイバーシティ研究環境整備のための体制および取組

計画：連携機関と共に初年度設置した『ダイバーシティ連携推進会議』により、各種支援制度を共同実施する。

進捗：3機関による『ダイバーシティ連携推進会議（6/22）』にて合意した最終年度事業計画に従い、持ち回り会議を含む2回のダイバーシティ連携推進会議（6/22、10/12）を開催し、第3期第4回自己啓発合宿、連携機関の学生・研究者を対象とした連携機関留学プログラム（旧称：交換留学プログラム）、管理職セミナー（開催中止）を除く取組、および各種支援制度を共同実施した。

計画：初年度設置した『女性研究者支援プロジェクトチーム』において、ダイバーシティ研究環境実現に向けた各種取組の進捗管理を行う。

進捗：大日本印刷においては、初年度発足した『女性研究者支援プロジェクトチーム』において、ダイバーシティ連携推進会議にて合意された最終年度事業計画に基づき、ダイバーシティ研究環境実現に向け、第3期第2回自己啓発合宿（10/14、15）、第3期第3回自己啓発合宿（12/9、10）をオンラインにて主催した。連携機関と共に3機関合同シンポジウム（11/10）、外部評価委員会（12/2 持ち回り）を共催し、大日本印刷研究開発センターより3機関合同シンポジウムへオンラインにて2名の研究者が参加した。

(2) 研究者の上位職への登用に向けた取組

計画：研究者のリーダーシップ、コミュニケーション能力、マネジメント能力の育成を目的とした、外部講師を招いての自己啓発合宿を主催する。

進捗：3機関の研究者のリーダーシップ、コミュニケーション能力、マネジメント能力を育成し、自己の啓発を促進し、リーダーとして必要なスキルを習得することを目的として、自己啓発合宿の第3期第2回（10/14、15）、第3期第3回（12/9、10）を主催した。本研修は大日本印刷から次世代リーダー候補である女性研究者5名、男性研究者3名、および2名の山形大学女性研究者の10名にて昨年度よりスタートしたが、新型コロナウイルスの影響により、オンライン（Zoom）での開催となり、研究開発センターのZoomオンライン会議規定により社内限定配信となった。第2回、第3回、それぞれ女性研究者5名、男性研究者2名が参加した。なお、第4回（修了式）の開催を2/25、26に予定している。

(3) 研究者の研究力向上と意識啓発のための活動

計画：生活者が感じる情緒的な体験価値を重視するサービスデザイン思考を取り入れた『共創ワークショップ』により得られた新しい研究テーマの種を具体的な研究へ繋げるための支援活動を実施する。

『共創ワークショップ』にて習得したサービスデザイン思考に基づく様々な手法を普及させ、研究者の研究開発の促進と創造力の向上を図る。

進捗：生活者が感じる情緒的な体験価値を重視するサービスデザイン思考を取り入れた『共創ワークショップ』により得られた新しい研究テーマの種を具体的な研究へと繋げるために、1月中旬以降に大日本印刷研究開発センター内にて開催される新規テーマアイデアコンテストへの参加準備を進めている。

計画：第1期、第2期自己啓発合宿修了者を対象とし、リーダーとしての成長を促すことを目的としたミーティングを開催する。

進捗：第1期、第2期自己啓発合宿修了者を対象としたランチミーティングを計画していたが、社内における飲食を伴う全てのイベントの開催が自粛となっていることから、中止とする予定である。

(4) 学生・研究者向けキャリアパス支援のための取組

計画：連携機関の学生・研究者を対象とした連携機関留学プログラム（旧称：交換留学プログラム）を主催する。

進捗：連携機関の学生・研究者を対象とした連携機関留学プログラム（旧称：交換留学プログラム）は、大日本印刷研究開発センターの所在地である関東圏内の新型コロナウイルス感染者数の増加が収まる気配がなく、県外移動自粛の観点から中止とする。

計画：ライフイベントに関わる支援制度の理解拡充と共に、育児休暇より復帰した研究者、育児支援制度利用者とその上長を含めた周囲の研究者との間の相互理解を促し、個々の環境に合わせたキャリアパスの構築を支援するための対話会を開催する。

進捗：ライフイベントに関わる支援制度の理解拡充と、研究者個々の環境に合わせたキャリアパス構築の支援として、産休、育児休暇から職場へ復帰する女性研究者1名に対し、上長を交えた面談・交流を継続的に実施することで、復帰に際しての不安の解消を図った。

3. 経費執行状況（12月末時点）

（単位：円）

費目	執行状況（4～12月支出）	年度末の執行見込
設備備品費	0	0
人件費	0	0
事業実施費（保育支援含）	1,485,200	2,525,478
総計	1,485,200	2,525,478

3 米沢栄養大学の事業の進捗状況報告

令和3年1月18日

1. 目的 本学の特色である栄養と健康に係る研究や栄養に携わる者等に対する生涯学習の拠点機能としての実績を活かし、共同実施機関と協働して女性研究者が参画する共同研究を推進するとともに、研究スキルアップ支援、リーダーシップ育成、裾野拡大の取組みを進め、女性研究者の採用と上位職階の女性教員の積極的な登用を実現する。

2. 本年度の事業の項目及び内容

○取組期間における女性研究者在職者数、在職比率、採用比率

	在職者数		在職者数計	在職比率	採用比率
	助教以下	講師・准教授以上			
平成26年5月1日現在	2	5	7	41.2%	
平成27年4月 申請書	2	5	7	41.2%	
平成28年3月31日現在	2	5	7	41.2%	
平成29年3月31日現在	2	5	7	41.2%	
平成30年3月31日現在	2	4	6	35.3%	0.0%
平成31年3月31日現在	0	7	7	41.2%	100.0%
令和 2年3月31日現在	0	7	7	41.2%	0.0%
令和 2年10月 1日現在	0	6	6	37.5%	33.3%
令和 3年3月31日現在	0	8	8	47.1%	100.0%

注1： 平成27年～令和2年は実績値、令和3年以降は申請時目標値

注2： 女性研究者在職者数については、平成26年5月1日現在で7名であったが、平成29年4月1日をもって、女性研究者1名が教員(教授)から上位職である管理職(学部長予定者)として他大学へ転出したため、平成29年度末で1名減となっている。

注3： 平成30年度は女性を1名採用したほか、女性の上位職への登用を積極的に行い、昇任者は4名であった。(准教授から教授：1名、講師から准教授：1名、助教から講師：2名)

注4： 令和2年度については女性を1名採用したものの前年度よりも1名減少した。

○事業計画の進捗状況

令和 2年度の事業計画	進捗状況
(1) ダイバーシティ研究環境整備を図るための体制整備	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学内の「ダイバーシティ研究環境実現プロジェクトチーム」において年間計画に定める事業の進捗管理を行い、着実な実施に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ダイバーシティ研究環境実現プロジェクトチーム」（平成 27 年 9 月 11 日設置）では、年度事業計画における「研究支援員制度」、「研究成果発表会」、「外部研究資金獲得セミナー」等、本学が主体となる連携事業の進捗管理を行った。 ・ 連携機関が実施する事業については学内に周知するとともに、積極的な参加を呼び掛けた。 <p>共同研究への参加：4名 女性研究者成果発表会での発表：1名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック及び大学コンソーシアムやまがたの「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」に参画し、他高等教育機関とのネットワーク形成、情報収集、情報交換に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、「全国ダイバーシティネットワーク東北ブロック南東北会議」の中止など、予定されていた事業が縮小される中、「ダイバーシティ連携推進会議」に、学長ら3名が参加したほか、大学コンソーシアムやまがたの「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」に委員として参加し、コンソーシアム加盟機関に対して連携事業の案内と参加の呼び掛け、女性登用状況等に関する情報交換に努めた。
(2) 女性研究者の研究活動への支援及び研究力向上を図るための取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究とライフイベントの両立を支援するため、研究支援者の雇用を実施し、研究者の研究活動を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「研究支援員制度」の利用希望者の募集を行い、現在介護を担っている女性研究者1名に対し、前期（4月から9月）に研究支援員を配置したほか、後期（10月から3月）についても同様に配置した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部研究資金獲得をさらに進めるため、外部研究資金獲得セミナーを開催し、研究に取り組む意識の啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「外部資金獲得セミナー」を、山形大学研究部研究支援課とのジョイントセミナーとして当該大学の教授を講師に迎え9月に開催した。セミナーは大学コンソーシアムやまがたの加盟機関にも公開し、学内外の研究者等、合計138名が参加した。
(3) 研究組織の幹部、研究者等を対象とした意識啓発	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理職や研究者等を対象としたセミナーを連携機関と共同開催し、女性研究者の採用や上位職階への女性の積極的な登用に向 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携機関が実施する「管理職セミナー」が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、11月に開催された3機関合同シンポジウ

けた意識啓発を図る。	ムに、学長が参加した。 ・ 連携機関のみならず、国や全国の研究機関から寄せられる男女共同参画の取組情報については、適宜学内の研究者へ周知を図っている。
4) 女子学生・女性研究者向けキャリアパス支援の取組	
・ キャリアパス支援の前段として、女性研究者の裾野の拡大を図るために、学生や教員等を対象とした研究成果発表会を開催する。	・ 「女性研究者成果発表会」を、COI若手研究者らと共同で、3機関合同シンポジウムと同時に11月に開催し、米沢栄養大学から女性研究者1名が発表を行った。

3. 経費執行状況（12月末時点）

（単位：円）

費目	執行状況（4～12月支出）	年度末の執行見込
設備備品費	0	0
人件費	614,160	500,000
事業実施費（保育支援含）	20,000	35,000
総計	634,160	535,000

② 山形大学の男女別教員数と女性割合(2021年1月1日現在)

2021年1月1日現在の本学教員数(常勤)を男女別にまとめた。

男女計803人中、女性教員は126名(全体の15.7%)である。

以下、職位別(表1と図1)と部局別(表2と図2)に男女の教員数と女性割合をまとめた。

表1 職位別女性教員の割合

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
男性	260	185	46	182	4	677
女性	22	45	11	47	1	126
計	282	230	57	229	5	803
女性割合	7.8%	19.6%	19.3%	20.5%	20%	15.7%

表2 部局別女性教員の割合

	人文社会 科学部	地域教育 文化学部 (注1)	理学部	医学部 (注2)	理工学 研究科 (注3)	農学部	その他 (注4)	合計
男性	68	55	72	221	180	58	23	677
女性	14	18	3	63	12	6	10	126
計	82	73	75	284	192	64	33	803
女性割合	17.1%	24.7%	4%	22.2%	6.3%	9.4%	30.3%	15.7%

注1.地域教育文化学部は、地域教育文化学部と大学院教育実践研究科を含む。

注2.医学部は医学部、大学院医学系研究科、附属病院を含む。

注3.工学部教員は理工学研究科に所属する。有機エレクトロニクス関連センターも含む。

注4.その他は学士課程基盤教育機構、大学院基盤教育機構、法人本部、研究部、エンロールメント・マネジメント部、小白川キャンパス、男女共同参画推進室、保健管理センターを含む。

注5.教員数には休職者等を含む。

③ 山形大学の女性活躍推進法に基づく行動計画

女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づき、女性が研究者及び管理職として活躍できる環境の整備を行うため、次のように行動計画を策定する。

1 計画期間 2019年4月1日～2022年3月31日(3年間)

2 当機関の課題

- (1) 女性教員への応募者が少なく、女性教員が少ない。
- (2) 管理職に占める女性割合が低い。

3 目標と取組内容・実施時期

目標1：女性教員割合を、現在の15%から17%に引き上げる。

- 2019年4月～ 女性教員のワーク・ライフ・バランスを支える各種支援制度を周知し、アンケート結果を踏まえて職場環境を改善する。
- 2019年6月～ 女性大学院生・女子中高生を対象にさらに次世代育成に努める。
- 2020年4月～ 第二次男女共同参画基本計画を策定し、リーフレットを発行する。
- 2021年4月～ 女性応募者を増やすため、各種支援制度や研究環境の魅力発信に一層努める。

目標2：管理職に占める女性割合を、現在の12%から20%に引き上げる。

- 2019年4月～ 意識啓発のセミナーを開催し、無意識のバイアスを点検する。
- 2020年4月～ 女性みらい塾の活動やメンター制度の活用を通して、対象となる女性職員へのきめ細やかなヒアリングや研修を実施する。
- 2021年4月～ 新任管理職への定期的なフォローアップを実施する。

4 山形大学の次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の策定について

職員が仕事と子育てを両立させることができ、働きやすい環境をつくることによって、職員がその能力を十分に発揮できるようにするため、次のように行動計画を策定する。

1 計画期間 2019年4月1日～2022年3月31日（3年間）

2 内容

目標1： 計画期間内に、育児休業等の取得状況を次の水準以上にする。

<男性職員> 1人以上の職員が育児休業等を取得する。

育児等を目的とした休暇制度等の利用を推進する。

<女性職員> 育児休業取得率85%以上とする。

●2019年度

女性だけではなく、男性でも制度を利用しやすい環境を整えることを目的に、育児休業等の制度（育児休業、育児短時間勤務、育児部分休業）などについてを、リーフレットやホームページ等で周知する。

●毎年

- ①新規採用者の研修時等において、育児休業等の制度についてリーフレットを配布、説明を行う。
- ②育児休業の取得状況及び今後の課題を、毎年（5月頃）ホームページ上に掲載し、啓発を行う。

目標2： 時間外労働時間・休日労働時間を削減する。

●2019年度

毎月の事務協議会において、時間外労働時間の実績を共有する。

「ノー残業デー」や「ノー残業ウィーク」の導入を図る。

●毎年

時間外労働時間の実績を全学で共有することで、更なる短縮を呼びかける。

目標3： 夏季・年末年始の計画休暇（一斉休業）を実施するなど、年次有給休暇の取得促進に取り組み、計画期間内に、常勤職員について、取得日数平均10日以上を目指す。

●2019年度

- ①一斉休業や連休に連続する休暇や記念日休暇など年次有給休暇を積極的に取得するよう、ポスターやホームページ等で促す。
- ②一斉休業の前後は会議等の自粛を促し、休暇の取得促進を図る。

●毎年

年次有給休暇の取得状況及び今後の課題を、毎年（5月頃）ホームページ上に掲載し、啓発を行う。

目標4： テレワークを導入する。

●2019年度

事務職員について、試行し年度内の本格導入を目指す。

●毎年

アンケート等を実施しニーズの把握に努め、範囲の拡大を目指す。

山形大学 男女共同参画報告書

令和 2 年度活動報告

2021年 3 月30日発行

発行：山形大学男女共同参画推進室

連絡先：〒990-8560 山形県山形市小白川町一丁目4-12

山形大学 男女共同参画推進室

Tel 023-628-4937/4938/4939 Fax 023-628-4185

E-mail : y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

URL : <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/>

山形大学男女共同参画報告書

令和2年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)活動報告及び事業成果報告
令和2年度山形大学活動報告

◎work◎life◎
balance innovation